リンに燕尾服、スターリンにネクタイといつたら、これまで「ソヴエート・ロシヤないなづくし」の標本みたいに考へられてゐた。「けれども地球は廻つてゐる」、十月革命から二十年の歳月が流れロシヤは昔のロシヤではない、スターリンが燕尾服を着たといふことはスターリンのブルジョア化、右翼化なんて理屈をつけるべき性質の問題でなく、もつと早く着てもよかつた着物をはづかしさうにやつと身につけてみたといふ感じで、ネクタイをつけてもやつはりスターリンは共産黨書記長である。

スターリンもやつと角のとれた人間になつた。これで今度の北鐵物資拂で絹ネクタイの引合が出た理由も讀める。(八月二十一日)

ソ聯共産黨機關誌が戰時日本の石油問題を論評

ウアルガ監輯世界經濟・世界政治研究所機關誌第六號所載論文「石油と戰爭」は冒頭に石油、ゴム、石炭、金屬獲得のための「平和的」闘爭、投資市場再分割のための闘爭は、急激の發展せる軍事技術の成果によつてより殲滅的な新世界戰爭へ導くであらうとコミンテルンの綱領を揚げ、以下一、世界大戰當時の石油問題 二、機械化と戰爭準備 三、合衆國の石油問題 四、イラクその他亞細亞石油産地の問題 五、英國の石油問題 六、その他歐洲帝國主義諸國の「石油政策」七、日本の石油政策、の諸問題を論じてゐるが、「日本の石油政策」に關しては大要左の如く述べてゐる。

日本帝國主義は「恐慌諸年の接近」、即ち新たなる「大戰」準備と結びつけて石油問題を燃料問題一般として提起してゐる。該問題は同樣にして獨逸ファシストが「封鎖」の際に自己を確保するために提起してゐるところである。「ニューヨーク・タイムス」紙編輯者エドウイン・ジームスは「日本艦隊の擴張は石油を統制しつゝある列强によつて制限されてゐる」といふ論文に於て日本はその貯油を以てしてはせいぜい六ケ月使用し得るに過ぎず、合衆國及び蘭印よりの給油に依存してゐる日本は極東政策及海軍政策に關しては英米の協同によつて左右されると過少評價してゐるが、代用品生産の增加滿洲國に於ける石油獨占施行は日本を石油問題から救助するに役立つてゐる。併しながら日本の石油政策は隣國石油の占領を計畫してゐるが、國産石油の不足は戰時に於ては日本を危地に落し入れるであらう。と論じ、工業原料として地球上に偏在してゐる石油獲得の闘爭は、平時に於ても極度に殘忍な性質を有し戰爭の原因となつてゐる。として軍隊機械化、工業及運輸に於ける內燃機關の普及の諸條件に於て石油問題は巨大なる軍事政治的意義を有し、帝國主義諸國注目の的となつにゐると結論してゐる。(九月二日)

「日本支配ブロック」論を發表 駐日ソ聯大使館元祕書

ソ聯邦に於ける日本通として著名な元駐日ソ聯大使館祕書ジューコフ民はヴアルガ監輯の世界經濟・政治研究所第七號に「日本に於ける支配ブロック內部の矛盾とブレーン・トラスト」(高橋氏の「はづかしさうな」フアシズム)なる論文を揭載、

最近數ケ月に於る、日本の內政狀態は支配ブロック內部の異見克服の妥協的方途を發見せんとするブロックの新しい企圖によつて特徵づけられてゐる。而して、この異見は日本帝國主義にとつてその發生の日から固有な內的矛盾の激化を反映してゐたと論じ「單一なる全體」として政治的舞臺に登場して支配階級の基本的層を次の如き三つの社會的範疇合成物として規定してゐる。

一、絕對主義 イ、封建貴族、ロ、軍部、ハ警察=官僚的國家機構

二、資本家。イ、金融資本(銀行及獨占トラスト)、ロ、資本家=アウトサイダー(中小企業家)、ハ、富農

三、地主。イ、大地主、ロ、不在地主=金利生活者、ハ、小地主(九月五日)

ソ聯共産青年聯盟 九月一日紀念日の新スローガン

九月一日の國際青少年デー第二十一回紀念日に當りモスクワのコムソモール聯盟は八月二十九日今後の方針に關するスローガン三十五ケ條を發表した。其主なるものは

一、ファッショ國家以外の國に於ける青年の團結 二、ファシズム及戰爭排撃 三、平和政策及社會主義擁護 四、スターリン崇拜 五、コミンテルンを中心として團結すること 六、支那の青少年及支那ソヴエート區域に對する援助 七、國防、航空界の强化 八、技術の向上 九、産業の發達奬勵 十、青年女子の共産主義教育

等で、九月一日の紀念祭には各機關の退廳後約五十萬の青少年竝に外國より參集せる共産青年代表が赤色廣場に集合し、盛んなるデモを行ひ、政府側よりはモロトフ、カガノウヰツチ、シユバリ等の各巨頭出席した。たまたま當日は赤軍の入營日と學校の暑中休暇明けと青年のファツシヨ排撃運動を鼓舞したコミンテルン大會の終了後間もないので例年より一層氣勢を擧げた。(九月五日)

勘察加富源大調査隊 不毛の半島面目を改める?

聯邦學士院勘察加綜合調査隊長ブロンシテイン氏は勘察加の自然富源の全面的研究のため本年派遣された右調査隊に就き左の如く語るところあつた。

綜合調査隊は、土壤=植物調査班=二、地質調査班=二、森林調査、及火山調査班各々一、これに建設班より成る土壤=植物調査班は勘察加に農業を興すため好適の地を探索する外に馬鈴薯、小麥その他短期栽培のできる野菜類の實驗栽培を行ひ、地質調査班は金屬、石炭、石油埋藏地を調査開發に努め森林調査班は同地方の建設材料の調査にあたり、火山調査班はソ聯邦隨一の火山地方として百三十の火山(內、三十は活火山)とその工業的意義を有する産物の研究と溫泉の研究を行ふことになつてゐる。尙右調査隊には勘察加の事情に通曉した優秀科學者三十一名が參加してゐる。(九月九日)

極東地方に始めて國産化粧石鹼

最近操業開始したウオロシーロフ市のミコヤン紀念油脂綜合工場は同工場のマーク入り一個百瓦の化粧石鹼を製造、日産能力三萬と稱し、極東地方はこれによつて同地方製造の化粧石鹼を持つことになつた。(九月十日)

露都第三回國際演劇祭 各國より二百五十名參集

九月三日モスクワ大劇場で第三回國際演劇紀念公演が開催され勞頭リムスキー・コルサーコフのオペラ劇「サドコ」が上演された、この紀念公演を目がけて英、米、佛、スイス、チエコ・スロヴキヤ等より參集した外人觀客は二百五十名に達したと。(九月十日)

ソ聯初最の製紙機械藻造 一分間の速度二百米といふ

ソ聯邦が北鐵物資として我國メーカーに對し製紙機械工場設備五百萬圓に達する大口引合を發したることは既報したが、最近のモスクワ情報によれば、ウラル地方ペルミの製紙綜合工場に於てソ聯最初の國産製紙機械を三ケ月の短期間を以て完成したことを報じてゐるが其の製紙速度は一分間に二、五米長さ二百米といふ素晴らしいものである。因みにソ聯邦本年上半期の製紙機械輸入額十八萬九千留(六百十八噸)主要輸入國左の如し。

獨逸	四萬七千留	(百十噸)
芬蘭	四萬二千留	(百十三噸)
瑞典	九萬八千留	(三百九十二噸)

(九月十一日)

ソ聯製紙工場建設 セルローズ年産七萬噸

北鐵代償物資として駐日ソ聯通商代表部は製紙機械全工程設備六百萬圓の大口引合を出したが、紙飢饉に惱んでゐるソ聯邦では最近製紙業本部が北部地方及ウラル地方に二大セルローズ工場新設の目的を以て右敷地調査の結果、北部地方のコトラス地區とウラル地方のベルミ附近に建設に決定、セルローズ年産各七萬噸の二大工場を建設することになつた(九月十四日)

北極に新島發見 ソ聯探險隊の碎氷船が

十四日浦鹽からの入報に依れば今夏來北極

航路開拓に従事中のソ聯探險隊所屬一碎氷船は去る一日午後七時二十分北緯八十度五十分東經七十五度二十五分の地點で新島を發見した、右碎氷船は同島を距る一浬の所に投錨二日から隊員を上陸せしめ目下詳細にわたり踏査を行つてゐる。(九月十四日)

新らしいソヴエト國産品紹介
錆ないハガネのスプーンが五留

全聯邦共産黨機關紙プラウダはノーウイ・タツール（新商品）なる欄を設け國産品の紹介に努めてゐる、最近のソ聯新國産品を同紙より拾つてみると左の如くである。

▽さびないハガネ製スプーン、ナイフ、フオーク。ズラトウストフスキー工場製で、スプーン二萬五千本、ナイフ一萬本、フオーク一萬本を出した。「エレクトロスタリ」工場でも製造してゐる。これは高級品で持ちは良いがお値段は少々張つてスプーン一つなんと五留である。

▽ローラースケート用靴。ローラー・スケートは外國で非常に流行つてゐる、ソヴエートでもこの頃文化と休息の公園にスケート・リングができた。モスクワの「ボール・ベアリング」工場で七月に百五十九足つくつた。八月、九月には五百足づつつくる。「試驗的」に之を販賣してゐる百貨店がモスクワにたつた一軒ある。

▽電氣塵取機。衛生的見地から結構な品である。値段は四百四十留、これが高いことは新聞紙も認めてゐる。もつと安いのが出來るといふ話。

▽蓄音機針。蓄音機をお持ちのお方は御存じの通り靴釘みたいな針では音も悪いしレコードも傷める、そこで「モスシュタンプ」はこれを改良して外國式の優良品をつくつた。本年末までに二千萬本製造。

▽空氣銃。射撃初心者用。本年中に一萬挺製造、一挺十二十五留。(九月十九日)

ソ聯石油分溜機八基完成

サラトフ市のキーロフ紀念石油分溜工場では自國技師と國産品を以て分溜機八基（原油年産能力百二十萬瓲）を完成、目下各基とも日産五百五—二五瓲を出してをり、第三次の工場建設が開始されてゐる。(九月二十日)

勘察加を主題の
藝術映畫最近完成

ソ聯邦極東機關紙所報、監督リトヴイノフ撮影技師セレブリヤニコフ、ブリエズジエフの率ゐる「モスレイルム」映畫探險隊の一行は勘察加を主題とする最初の藝術音畫「カムサツカの乙女」を撮影のため最近來島、同島で秋冬春を過し十五ケ月を以て完成し、勘察加ソヴエート十五週年紀念に上映する豫定で邊彊にあつて自然の暴力と闘ひながら石油試掘に從事する勘察加生れの若い女地質學者を中心として新しい民族文化が成長するといふ筋である。(九月二日)

プラウダ紙の陸相交迭觀と
陸軍パンフレツトに對する論評

全聯邦＝共産黨機關紙プラウダ九月五日號は「林陸相の辭職」と題するアル・ハマダンの論文を掲載、林陸相の辭職はなんら意外の事實でなく同陸相の軍事改革案の實行は日本軍隊内に於る不健全狀態絶滅のための衝撃ではなかつたが、この方策は將校の間に大なる不滿を惹起し、永田將軍の暗殺となり陸相の軍部に於ける地位と權威の弱さをばくろし遂に辭職の餘儀なきに至つたと論じ、次いで左の如く新陸相川島大將を論評してゐる。

新陸相は宇垣、荒木兩派に良く、政治的中立派であるから大陸に於ける日本の政策變更を來すことはあるまい。新陸相はファシヨ獨逸の流れを汲んではゐるが戰爭實行に關するファシヨ理論には批評的態度を持してゐる。併し、新陸相の獨逸式思想に依り日本に於ける重爆撃機及軍事化學工業の發達は助長されるであらう。

新陸相の中立及政治に無關係の立場は軍部に於て相抗爭する各派間に處して有利なる條件を與へるものである。

更に九月七日のプラウダ紙は陸軍パンフレツトに關し左の如く論じてゐる。

新聞班は組織的に基本的國際問題に關する宣傳冊子を發行してをり、右は軍首腦部、政府及政黨側の見解を表示するものである新冊子は昨年十月發行のものと同樣日本政府の認可したものであり、右新冊子に示されてゐる日本の對外政策綱領は

(一) 國際聯盟及不侵略條約反對。
(二) 勢力範圍及植民地の新分割要求。
(三) 移民の自由、日本商工業の進出。
(四) 日本は亞細亞の指導者たること。
(五) 滿洲國の建設は一般的開化を目的とする道義的世界現實の爲の模範である。
(六) 日本の軍備は極東に於ける其の利益擁護の保障である。

と云ふにあり。(九月二十日)

今夏ソ側漁區では
病院飛行機使用で好評

一九三五年夏の漁季にソ聯側は漁夫組合中央委員會の命令で、應急手當を要する重患者を各漁區から浦汐に送還するため病院飛行機を使用して漁業勞働者間に好評を博したが、猶ほサビルノ、タフインの兩漁區及び沿海州の重要漁業工場では落下傘練習の塔を、浦汐には飛行倶樂部附屬パラシユーター養成學校の建設が計畫されてゐる。(九月二十六日)

新刊紹介
レイフエルト氏の「日露辭典」

元東京ソヴエート大使館海軍通譯官で朝日新聞に漫畫を連載したことのあるア・ア・レイフエルト氏はこの程日露辭典を編纂「勞働研究所」出版部から公刊した。頁總數三〇八頁、定價七留五十哥である。(九月三十日)

モスクワ運河の大工事で
洋灰、金屬類の需要増大せん

一九三二年七月以來建設に着手したモスクワ=ウオルガ運河は完成の曉は河川運河として世界一になるわけでこれに要するセメント、金屬類は巨額に上つてゐるが、聯邦人民委員會議及黨中央委員會決定による計畫は左の如くである。

	本年度計畫	三六年度計畫	三七年度計畫	合計
液泥量百(萬立方米)	本年一月一日現在實績 四二、三	四八、八	四四、〇	一三五、八
コンクリート及鐵筋コンクリート(千立方米)	三二、二〇	一、二〇〇	一、三〇〇	〇、七
金屬類(噸)	一〇〇、〇	一四、六〇〇	一三、四〇〇	八八

即ち歐露における以上の如き莫大なるセメント及び金屬類の消費は勢ひ極東第二次五ケ年計畫に要する前記物資の極東方面出廻りに影響する結果、本邦からの洋灰、金屬類の輸入は今後も引續き行はれる。(十月二日)

ソ聯物資の實渡量制限
十月一日より實施

ソ聯邦政府はパン、麥粉等の値下げ並に一部食料品に對する切符配給制度の廢止及びその一部に對する實渡量の制限に關する決議を行ひ之を十月一日より實施する旨去る九月廿五日付を以て發表した其要領左の如くである

一、一九三五年一月既に其切符配給制度を廢止せられたパン、麥粉の値下げを行ふこと

一、肉、バター、魚肉、砂糖、馬鈴薯に對する切符配給制度を廢止すること

一、パン以外の食料品に付ては一人一回實渡量の制限を行ふこと（例へば肉は二斤）

一、右を十月一日より實施すること。

(十月二日)

ソヴエートの新國産品
高いこと驚ろくばかり

共産黨機關紙プラウダが「新商品」の欄を設けてソヴエート國産品を紹介してゐることは既報の如くであるが、その値段の高價なことも又驚異に値するものあり、最近號より二三摘錄すれば左の如くである。

△高級羅紗。モス・スクノー・トラスト工場は今秋の新製品として外套用高級羅紗二種を發賣、一つは「モル」羅紗一ヶ年生産高七百米、價格は一米で百六十五留。も一つは赤軍將校用外套地でこのシーズンの高級織物コンクールで最高級の折紙をつけられた。

△豆電球「グノム」。夜になつて宿舍で眠を前に本を讀むもの、すぐに夢路を辿りたいも

のとの間に屢々激烈な理論闘爭が行はれるこれを解決するために生れたのが本品（二五ワット）。高さ十二糎、百グラム足らずの輕さで本にくつつけてこつそり夜鍋ができるといふ趣向。

△電氣乾燥器。濡れた髪をそのまゝにしてをくのは非衞生的で外國ではとつくからこれを用ひてをり、髪ばかりか顏、手にまで用ひてゐる。名づけて「電氣タオル」。ソヴエート市民の文化的欲求を充すべく愈々發賣殘念なことは年末までにやつと五百個しかできぬ。値段は飛切り高く一個百十留。

（十月三日）

ヒマワ　草から護謨
ソ聯學者の新發見

最近モスクワのウエルシチコフスキイ教授は向日草に護謨性物質の含有されてゐることを發見、同物質は向日草の葉に多量に含まれてゐると而して本年中には向日草の葉から護謨摘出の實驗が試みられる筈である。

（十月三日）

極東ソ側漁業に
巾着網の使用奬勵さる

昭和二年極東ソ側商工諸機關の代表團に加はり我が商工業視察の爲め來朝せし當時の極東漁業全權にして現ソ聯漁夫コルホーズ中央聯合會長たるマモーノフ氏は一九三五年夏歐露より北樺太へ渡航し同地方漁夫コルホーズの漁業狀態を視察して抱負の一端を露字紙記者に語つてゐるが、同氏が極東漁業に於ても歐露と同樣巾着網使用の必要を力說してゐる點は注目されてゐる。

同氏は漁撈技術の點に於て極東は歐露の其れに比して遙に退嬰狀態にありと斷じ改善の必要に言及し其の一例として極東で使用する鰊流網はタテ三百目掛けの長さ三五―四〇米のものを專用して居るが、ムールマン地方は巾着網漁業を主として且つ「ドリフテイル氏」流網（英國型ドリフテルボート帆機併用するもの）縦一五〇乃至二〇〇目掛を專用して居り之れは魚が掛り易く又利益の多い網具として群來のときは鮭鱒も漁獲し得る吾が中央コルホーズへ派遣したからは北樺太の巾着網隊長を聘し北樺太のレブノフスキ、コルホーズへ派遣したから北樺太が巾着網を使用することも遠くはあるまいと述べ、歐露のムールマンが鰊漁獲に成功したる所以は主として巾着網の使用効果に歸するものあるを力說し北樺太にありても二、三のコルホーズが率先して一五〇―二〇〇目掛のドリフテール式流網を試驗せんことを勸め此の流網の性能は縦網魚を抜き取る必要なく只振り落せば良いのであるといつてゐる。（十月五日）

馬の輸血療法
サラトフ獸醫學校教授スネギレフ氏は數慶にわたり病馬に輸血療法を試みた結果、その成績頗る良好なることを確證するに至つた。而もこの輸血療法によれば從來不治の病とされてゐた馬の鬐甲膿症をも容易に全治し得ると。

極東ソ領の貂獵禁止

極東蘇領内に棲息する貂は密獵の結果其の數著しく減少し之れを放任するときは全滅の怖あるを以て極東執行委員會令を以て極東一帶に涉り貂の禁獵を布告した。密獵者は嚴刑に處せられ重きは公權剝奪より六ケ月の强制勞働、又は五百留の科料に處せられると。

（十月七日）

ソ聯の碎氷船
北極に三新島發見

ウシヤコフ氏を隊長とするソヴエート北極探險隊碎氷船サドコ號は極海を航行中子午線九十一度附近で海底深度三十米に急變したので吃驚停船したがその前方の濃霧中に三つの新島を發見、一同島に上陸標式を立てた、新島はリトヴイノフ岬とフルンゼ岬の中間に當つてゐる。（十月十日）

ソ聯共産機關紙
美濃部問題を批判

全聯邦共産黨機關紙プラウダ最近號は「ファシズム＝文化の墓掘人」なる社說に於てファシズムは知識階級に對して戰爭、動物的排外愛國主義、愚劣なる人種論の宣傳を要求し

てこれに反對する者を牢獄に投じ國外に追放してゐると獨逸の例を引用、更に日本知識階級は不幸にして屈辱的な狀態にありとなし上海發行の米誌「チヤイナ・ウイタリ・レヴユー」を引用して、美濃部問題は日本の學者＝知識階級の狀態を最もよく闡明してゐる。事實上學問は自己を第一級の敎育者として任ずる軍部によつて統制されてをり、これらの事實によつて知識階級左翼化の事實を看取することができると論じ、アムステルダムの反戰會議巴里の文化防衞會議更に萬國生理學大會はソ聯邦に於てのみ眞實に文化の開花を期待し得ること、ファシズムは文化の敵であることを實證するものであると斷じてゐる。

（十月十一日）

ソ聯邦は明年國勢調査

ソ聯邦人民委員會議は一九三六年度に聯邦國勢調査施行に決定、前回は一九二六年末に施行、當時人口一億四千六百萬人であつた。

（十月十二日）

バウロフ敎授八十六回誕辰一九三
六年の萬國大會にも出席したい

一九三五年夏レニングラードに開催の第十五回萬國生理學大會名譽議長として老齡尙そのの職責を果したソ聯邦の學寶バウロフ敎授は九月二十七日八十六回の誕生日を迎へ、左の如く所感を述べるところがあつた。

余は最高神經活動研究の領域に於ける仕事を更に繼續する考へであるこの仕事は科學の諸部門を包含する大きな問題である。八十七回の誕生を喜びと健康を以て迎へることができたら余は研究活動を更に繼續したいと思つてゐる。（十月十六日）

新刊紹介

ウシヤコフ敎授監輯「露語註解大辭典」四六倍大一五六〇頁、三卷、モスクワ國立出版所發行

本書はレーニンの「ロシヤ語の歪曲に對する宣戰布告」を思想的根據として編纂されたソヴエート聯邦最初にして最大のロシヤ語註解辭典である、其の量よりいへばダーリ註解大辭典に劣るが、註解の近代性と語彙の新鮮さに於て本書は「現代」ロシヤ語大辭典である卷頭には二十二頁の本辭典使用法並びに簡單な文法が揭げられてある。第一卷發行、

（十月十六日）

ソ聯砂糖の公定小賣相場
最低一キロ四留六〇哥

北鐵代償物資重要食料品中小麥、大豆は既に買附契約成立し、殘るは米及び砂糖の豫定であり、ソ聯よりも當業者に對し引合が發せられ、値段の點で折合つかず、其儘になつてゐるが一九三五年一月一日以降パンの切符制度廢止を行つたソ聯邦では、十月一日より聯邦人民委員會議及び黨中央執行委員會發令を以てこれが小賣價格の引下げを決定し更に肉類、魚類、砂糖、油脂類及馬鈴薯の切符配給制度廢止をするにとに決定して各地方別各商品の單一國家小賣價格を設定することになつた。一例として砂糖一瓩の價格を表示すれば第一より第四までに分けた各地方別價格は左の如くである。

	第一	第二	第三	第四
ザラ糖	四留二〇哥	四留五〇哥	五留	五留五〇哥
精糖	四留六〇哥	四留八〇哥	五留四〇哥	五留九〇哥

因みに極東地方及東部西比利地方及ヤクート自治共和國は第四に屬し、最高價格である。

（十月廿一日）

モスクワの地下鐵乘客數
一日平均十四萬人

社會主義の强力なる煽動者としてソ聯邦が世界に誇稱するモスクワ市地下鐵の五月十五日通常運轉開始以來八月十四日まで三ケ月間に於ける乘客數は一千四百八十萬七千人、現在では平常日乘客數十四萬五千から七千、休みの日には十九萬に上つてゐる。

（十月廿三日）

赤都モスクワで
日本美術の展覽會

モスクワ美術博物館は日本美術を廣くソヴエート大衆に紹介せんがため全聯邦對外文化連絡協會後援の下に十八、九世紀日本の繪畫

及版畫の傑作約三百種を陳列して十月初旬より展覽會を開催したが、特に興味を呼んだものは日本リアリズムの創始者應擧、日本自然主義の先驅者巖窓及び浮世繪の三巨匠歌麿、北齋、廣重の諸作品であると。（十月廿五日）

ハリコフ機關庫妨害の反革命派二十名重罪

ウクライナ內務人民委員部の發表に依れば最近ハリコフ人民裁判所に於てボグダノフ外十九名のトロツキー派及反革命派は計畫的にハリコフ機關庫に妨害を加へ鐵道運輸に支障を來さしめた理由の下に何れも重罪に處せられた。（十月二十五日）

極東最初の製鹽工場

極東タリミの製鹽綜合工場は一九三五年中に操業開始の豫定であるが、その結果ソ聯極東地方に於ける最初の製鹽が世に見えることゝならう。尙、タリミ湖ムラモルヌイ岬間には八・五キロの海水輸送管がありこれによつて輸送された海水は冷凍法によつて鹽分を多量に含む鹽水に分溜されるものである。

（十月二十八日）

ソ聯機械購入の專門家養成

マシノ・インポルトの新計畫

ソ聯邦外國貿易人民部機關誌所報によれば外國よりの機械購入機關たるマシノ・インポルトでは機械購入のための技術幹部養成の目的を以て一九三四年下半期以來百四時間より成る講習會を開催、現在までに左の如き課目の講習が行はれた。卽ち外國貿易獨占の一般問題（四時間）、ソ聯邦及主要資本主義國の經濟地理（十二時間）、價格と信用條件（八時間）商法要項（十時間）その他で、尙、外國語習得の必要が强調され、三十八名が學習中であるがその成績は次の如く、優—十二名、良—六名、可—二名、不可—十八名といつた順であるが、單一計畫缺除の結果、成績不良のため現在幹部養成方針を一新することになつた。

（十月二十八日）

ソ聯共產黨機關紙頻りに日本の北支政策を猜疑す

一九三五年十月二十七日の共產黨機關紙プラウダは「日本の新對支政策」と題するハマダンの論評を掲げて居るが其要旨は左の如くである。

日本は新對支政策の實行に着手したが右は支那に於て日本帝國主義の軍事、政治及經濟上の完全なる獨占的支配權を設定せんとするにあり而して事實上北支は既に日本のコントロールの下に在り軍部の新要求は其の事態を合法的に承認せしめんとするものである。所謂北支獨立運動は在支日本軍代表會議の決定に相呼應して起つたもので日本軍閥及其の手先たる支那の賣國的將軍は北支獨立國の建設を急ぎつゝあり日本の手先に依つて組織されたる新運動は南京より分離せんとする國民的總意の發露たる外形を利用しつゝある。

日本は二、三週間以內に察哈爾に德王を首班とする新蒙古國を建設せんとしつゝある

（十月二十九日）

ドニエプル大發電所創業三週年で三十億K・W送電

創業三週年を迎へんとするドニエプル大發電所は操業開始以來一九三五年十月七日までの發電量が三十億キロワット時に達したことを重工業人民委員オルヂョニキーゼ氏に報告した。（十月三十日）

伊エ紛爭にからみ日本を誹謗するソ聯邦共產黨機關紙

全聯邦共產黨機關紙プラウダは「帝國主義者の狼人種」なるザスラフスキーの論文を掲げ次の如く日本をコキ下してゐる。

日本帝國主義の要人達は伊エ紛爭に關して現在沈默を守つてゐるが、彼等の氣分と食欲は秘密を守りきれず、「日本靑年團」の口を借りて本心をさらけ出してゐる。「靑年團」の聲明はムツソリニを「ゆすりと强盜の親方」と呼び、伊エ紛爭を目して白色有色人種の鬪爭とし、伊太利を「白い狼」、エチオピヤを「黑い小羊」と稱して、日本は全ての黑い小羊達を白い狼に對抗して團結しなければならぬと叫んでゐる。併し然ういふ日本の黑い小羊は滿洲を占領し北支

を呑まうとして鋭い狼の牙とどん欲な狼の眼をもつてゐる「有色の狼」に外ならない色こそ違へ狼は狼で、彼等に共通なものは資本家的な狼の利益である。こゝに於て人種論」なるものが帝國主義者の狼共の言葉であり、全ての色の皮を被つた人間にたつた一つの根本的特色は資本家的强奪であることは明かである。（十月三十日）

スターリンの孝養故郷に老母を訪れる

全世界の六分の一を占めるソ聯邦の獨裁者世界革命の參謀本部コミンテルンの最高指導者スターリンが十月十七日生れ故郷ジョルジヤ共和國の主都チフリス市に老いたる母を訪れ、一日を孝養に費し同日夜モスクワ向歸還した。幼少にして父を失ひ母の手一つで育ち早くから革命運動に參加し功成り、名遂けて現在に至つたスターリンも旣に五十七歲になる生れ故郷の南露の町で久しぶりに會つた母と子の間には五ケ年計畫もなく革命もなくただ懷しい少年の日の思出で一杯だつたに違ひない。（十月三十一日）

ソ聯最深の油井噴出

アヅイズペーコフ油田の新試掘井第二四九號井は十月廿日噴出開始し、石油日產四百廋瓦斯五十萬立方米を出してゐる。同井は深度二千九百米でソ聯邦最深の油井である。

（十一月二日）

極東に大硝子工場新設計畫

ソ聯邦極東地質調査トラスト探險隊は河下流に深度五十六米一千七百萬立方米の石英埋藏地を發見したので、直ちに同地に大硝子工場を建設することに決定した。因みに右埋藏量は極東地方の硝子需要を充當するに足るものと推定されてゐる。（十一月二日）

北樺太に製革工場新設

ソ聯邦樺太政廳機關紙發表、北樺太に於ける有角獸、馴鹿、豚の屠殺數は年一萬三千頭を算するが近來人口の漸增に伴ひ同島の靴需要の增加せるに鑑み亞港に年產一萬五千枚の製革工場建設を計畫。五萬留を計上。

（十一月二日）

十月中操業開始の重なるもの

ソ聯產業ソ聯邦政府機關紙發表、九三五年十月十五日現在新規操業開始した重工業、輕工業及林業部門の工場施設左の如し。

◎重工業

△熔鑛爐。十月一日操業開始。二基

△マルテン爐。十月十五日操業開始。十六基

△壓延機。十月一日操業開始。十基

△壓延管製作機。十月一日—四基

△油井。一—八月間に於て六三九井

◎輕工業

ウラン・ウデンスキー硝子工場、ボリスグレブスク鞣皮工場、セミパラチエンスク洗毛工場、ビヤズイム梳麻工場、イストムキンスカヤ梳毛工場、リシチヤンスキー硝子工場

◎林業

本年一—九月中創業工場二十五。チフリス製紙工場、ウステ＝イジオルスキー挽材工場、ハルトウリン家具製造工場、スターリングラード家具製造綜合工場、アルハンゲルスク加水分解工場、スラシスカヤ製紙工場。（十一月二日）

昭和十年十一月廿六日印刷
昭和十年十二月一日發行

日露年鑑（昭和十一年版）

定價金拾圓（送料市内六錢内地二二錢領土六二錢）

不許複製

發行兼編纂者　東京市麹町區丸ノ内三丁目二番地　日露通信社

右代表者　東京市麹町區丸ノ内三丁目二番地　上田森治

印刷者　東京市深川區牡丹町一丁目七番地　今井印刷所

印刷所　東京市京橋區銀座西六ノ二　合資會社　東海堂
東京市日本橋通三丁目　株式會社　文原堂
東京市神田區錦町三丁目　株式會社　東京堂
東京市神田區神保町　株式會社　巖松堂
東京市日本橋元數寄屋町　大阪屋書店
大阪市西區靱北上通一ノ三一　福音社

大賣捌所

發行所　東京市丸ノ内三丁目二番地三菱廿一號館　日露通信社
電話丸ノ内四六四四・四六四五・二七九二
振替東京四三〇一五番

Выбеленная и окрашеная ткань	25.820.155 „
Пряжа и ткань искусственного шелка	23.219.789 „
Железные листы	13.546.217 „
Перевозочные средства и суда	30.945.763 „
Морепродукты	8.237.951 „
Хлопчато бумажная ткань	10.948.430 „
Пшеничная мука	57.058.521 „
Сахар	11.914.422 „
Газолин	9.864.769 „
Хлопчато-бумажная пряжа	9.227.220 „
Лен и изделия из него	20.462.791 „
Овечья шерсть и изделия из нее	17.246.572 „
Железо и сталь	41.733.902 „
Машины	28.056.386 „
Автомобили и части	8.172.414 „
Химикалии	10.179.703 „
Прочие	9.846.999 „

МЕЖДУНАРОДНЫЕ РАСЧЕТЫ.

В июле 1935 года правительство опубликовало результат проведенный проверки по вопросам международных расчетов страны.

Наибольшей суммой международного финансового счета, не считая торговых взаимоотношений, является капиталовложение в промышленность и коммерческие предприятия. Государственные займы и проценты на нех тоже представляют важную статью расчета.

Доходы от капиталовложений за 1933 г. достигли 30.000.000 гоби, а в 1934 г. — 334.000.000 гоби, каковые суммы были достаточны для покрытия перевеса импорта.

Торговые взанмоотношения с заграницей, включая экспорт и импорт товаропродуктов и драгоценных металлов (в 1.000 госи):

	1934 г.
Экспорт	453.469
Импорт	652.651
Перевес импорта	199.182

Актив международных расчетов, помимо торговых отношений, определяют в 934.949.000 гоби; пассив — 835.207.000 гоби.

В данное время находятся в стадии образования 10 так наз. особых акционерных обществ с общим капиталом в 216.550.000 иен и 109 обычно организуемых предприятий на итог капиталовложений в 338.220.000 иен.

ГЛАВНЕЙШИЕ ЯПОНО-МАНЬЧЖУРСКИЕ ПРЕДПРИЯТИЯ.

Название	Местонахождение	Время учреждения	Капитал (1.000 иен)
Маньчжурское телеграфное и телефонное о-во	Синьцзин	Март 1933 г.	50.000
Маньчжурское каменноугольные о-во	Синьцзин	Май 1934 г.	16.000
Маньчжурское золотопромышленное о во	Синьцзин	Май 1934 г.	12.000
Автомобильное о-во „Дова“	Мукден	Март 1933 г.	6.200
Маньчжурское нефтепромышл. о-во	Дайрен	Февраль 1933 г.	5.000
Маньчжурское авиационное о-во	Мукден	Сентябрь 1932 г.	3.850
Маньчжурское о-во разведения хлопка	Мукден	Апрель 1934 г.	2.000
Маньчжурское о-во мер и весов	Синьцзин	Май 1934 г.	1.500
Маньчжурская электрическая ко.	Синьцзин / Харбин	Ноябрь 1934 г.	90.000
Харбинская торговая компания	Харбин	Октябрь 1933 г.	2.000
Бейпи каменноугольноо о-во	Синьцзин	Декабрь 1933 г.	3.500
Маньчжурское о-во производства древесной польпы	Осака	Май 1934 г.	10.000
Дайдо цементный завод	Гирин	Декабрь 1933 г.	3.000
Хокуман сахарный завод	Харбин	Март 1934 г.	2.000
Маньчжурское пивоваренное о-во	Харбин	Июнь 1934 г.	10.000
Маньчжурское пивоваренное о-во	Мукден	Апрель 1934 г.	2.000
Спиртовый завод Дайдо	Харбин	Ноябрь 1933 г.	1.670
Андуньская электрическая компания	Андунь	Июль 1933 г.	1.000

ВНЕШНЯЯ ТОРГОВЛЯ.

Итоги внешней торговли Маньчжу-Ди-Го за 1934 год:

Экспорт	448.426.567 гоби
В том числе:	
Экспорт домашней продукции	419.955.840
Повторный экспорт	28.470.727
Импорт	593.562.243
В том числе:	
Импорт заграничных товаров	448.426.567
Повторный импорт	59.586
Общий оборот	1.041.988.815
Перевес импорта	145.135.681

Торговля с различными странами 1934 году.

	Экспорт	Импорт
Япония	172.262.000 гоби	383.295.000 гоби
Корея	46.412.000 „	25.305.000 „

Китай	65.694.000 „	57.594.000 „
СССР	8.423.000 „	4.875.000 „
Гонконг	6.848.000 „	3.596.000 „
Британская Индия	645.000 „	23.942.000 „
Голландская Индия	1.709.000 „	6.694.000 „
Англия	16.218.000 „	9.315.000 „
Франция	2.921.000 „	546.000 „
Германия	53.310.000 „	12.485.000 „
Бельгия	1.190.000 „	703.000 „
Голландия	4.303.000 „	701.000 „
Италия	5.966.000 „	35.227.000 „
США и прочие	448.426.000 „	593.562.000 „

Стоимость важнейших товаров, экспортированных в 1934 году.

Бобы (соевые)	157.310.000 гоби
Бобы (прочие)	5.040.000 „
Просо	19.940.000 „
Гаолян	7.310.000 „
Кукуруза	5.016.000 „
Прочие злаки	4.259.000 „
Бобовые орехи	14.129.000 „
Кунжутное семя	5.865.000 „
Льняное семя	2.013.000 „
Семя „соси“	4.152.000 „
Соль	5.438.000 „
Табак	225.000 „
Штетина	2.146.000 „
Кожа	2.686.000 „
Бобовое масло	16.930.000 „
Морковь	1.139.000 „
Сернокислый аммоний	1.718.000 „
Хлопчато-бумажная пряжа и ткань	6.371.000 „
Овечья шерсть	756.000 „
Цемент	860.000 „
Чугун	10.380.000 „
Жмыхи	51.509.000 „
Лес	3.881.000 „

Стоимость важнейших товаров, импортпрованных в 1934 году.

Рис	7.476.455 гоби
Чай	3.023.190 „
Табак	11.664 449 „
Керосин	11.620.813 „
Невыбеленная хлопчато бумажная ткань	18.844.444 „

Финансы Маньчжу-Ди-Го построены на принципах нормальной политики, т. е. по-возможности без государственных займов, потребных для сбалансирования бюджета. Исключением явилась сумма в 5.000.000 гоби, которая относилась к особым счетам.

Подробности госрдарственных доходов и расходов бюджета 1935 года:

ОРДИНАРНЫЕ ДОХОДЫ:

Налоги	75.664.000 гоби
Таможенные пошлины	46.628.000
Подоходные налоги	20.148.000
Налоги на соль	8.883.000
Доходы почтовых марок	3.417.000
Доходы монополий	4.868.395
Доходы монополии опиума	2.019.533
Доходы монополии нефтепродуктов	1.8768.977
Прочие доходы	900.065
Доходы правительственных предприятий	4.661.338
Итог ординарных доходов	88.605.733

ЭКСТРАОРДИНАРНЫЕ ДОХОДЫ:

Постоянные	4.556.736 гоби
Особые счета	425.542
Госзаймы	5.000.009
Сальдо с 1934 г.	910.000
Сальдо с 1935 г.	5.500.000
Итог экстраординарных доходов	16.392.967
ИТОГ ДОХОДОВ	104.998.700 гоби.

РАСХОДЫ: (Гоби)

	Ординарные	Экстраординарные
Министерство двора	1.000.000	—
Общий отдел	4.339.172	19.254.869
Министерство внутренних дел	13.428.664	7.904.869
„ иностранных дел	608.349	366.256
Военное министерство	25.529.612	6.621.046
Министерство финансов	7.095.394	3.725.135
„ промышленности	1.527.522	1.725.897
„ путей сообщения	1.299.604	1.232.108
„ юсиции	4.602.259	107.189
„ просвящения	2.416.472	639.342
„ по делам Монголии	1.069.978	454.966
Итого	62.917.026	42.081.674
ИТОГ РАСХОДОВ		104.998.700 гоби

ИНОСТРАННЫЕ КАПИТАЛОВЛОЖЕНИЕ В МАНЬЧЖУ-ДИ-ГО.

Большенство иностранных держав не имеют крупных капиталовложений в предприятия Маньчжу-Ди-Го, за исключением, разумеется, Японии и отчасти СССР.

Рассмотрим капиталовложения различных стран:

Япония	2.260.866.000 иен
СССР	465.015.000 „
Англия	39.590.000 „
США	26.400.000 „
Франция	21.086.000 „
Швеция	850.000 „
Дания	157.000 „

Заинтересованность СССР в промышленности и других отраслях государственной деятельности Маньчжу-Ди-Го в значительной степени уменьшилась после того как состоялась переуступка советских прав на б. Китайскую Восточную железную дорогу.

Таким образом Маньчжу-Ди-Го пользуется почти исключительно капиталом Японии, т. к. прочие страны все еще не решаются помещать средства на развитие промышленности молодого государства.

После возникновения Маньчжурских событий до конца 1934 года в Маньчжу-Ди-Го было организовано следующее число предприятий, причем основные капиталы каждого из них были минимум 100.000 иен:

Кредитные учреждения	9
Биржи	3
Торговые предприятия	21
Горнопромышленные	8
Металлургические и машиностроительные	13
Добыча легких металлов	2
Химикалии	5
Бумагоделательные	2
Цементные	4
Сахарные и мукомольные	3
Пивоваренные, водочные	8
Обработка волокон (исключая текстильные предприятия)	3
Земледелие и скотоводство	6
Предприятия сообщения	16
Недвижимые имущества	6
Электропромышленных	6
Книгопечатных	3

Нижеследующая таблица разграничивает указанные предприятия согласно национальности предпринимателей и зависимости от Акц. О-ва ЮМжд (капитал в 1.000 иен):

			Число предприятий в том числе	Каритал
Японское юридическое лицо	93	А	9 ;	187.300
		Б	43 ;	180.130
Маньчжурское юридическое лицо	26	А	7 ;	135.050
		Б	19 ;	52.290
Итого	119	А	16 ;	322.350
		Б	103 ;	221.420
Всего			119 ;	554.770

А=филиал МЮжд Б=самостоятельное предприятие

АРМИЯ И ФЛОТ.

Армия и флот Маньчжу Ди Го непосредственно подчинены Е. В. Императору Маньчжу-Ди-Го и предназначены для поддержания спокойствия и порядка внутри страны и защиты границ государства.

Подраздееляют всю территорию на 5 воинских округов, а Хинганские провинции охраняются особой милицией.

Армия насчитывает в своих рядах 80.000 бойцов.

Военный флот состоит из канонерок: Рисуй, Рисай, Коцу, Кохей, Косей, Дайдо и Римин. Имеются также дозорные суда: Онмин, Кеймин и Фумин.

УПРАВЛЕНИЕ СТРАНОЙ.

В настоящее время правительство Маньчжу-Ди-Го разрабатывает текст конституции, которая будет дана Императором народу.

Временный указ Е. В. Императора Маньчжу-Ди-Го, который замещает конституцию, состоит из 6 ти глав и 42 параграфов.

Верховное правление всеми делами государства находится у Императора. Особа Е. В. неприкосновенна. Император имеет право об'являть и прекращать войны, заключать договора с другими державами. Император управляет армией и флотом Маньчжу-Ди-Го, имеет силу налагать наказания и даровать прощения всем своим подданным и предоставлять народу те или иные права.

При Императоре состоит особый государственный орган „Санги-фу“, который по своему значению близко подходит к японскому Тайному совету.

„Санги-фу“ разрешает все важнейшие государственные вопросы, предоставляет Е. В. Императору советы на различные запросы, напр. по военным делам, назначении на руководящие посты и проч.

Центральная администрация разделяется на 4 отдела: законодательный, государственных служб, юридический и контрольный.

Законодательный отдел близко соответствует по своему значенню парламенту Японии. Этот институт проводит законы страны и выносит утверждения на выработанные государственных бюджеты. Указом Е. В. Императора Маньчжу-Ди-Го законодательный отдел имеет ежегодные совещания.

Отдел государственных служб является исполнительным органом, проводящин законы и постановления в жизнь. Отдел состоит из 9 министерств: управления народом, сношений с заграницей, военного дела, финансов, промышленности, сообщения, юстиции, образования и дел Монголии.

Юридический отдел правительства Маньчжу-Ди-Го заведует уголовными и гражданскими отделениями маньчжурского суда, которые, в свою очередь разделяются на 3 инстанции: окружной, аппеляционный и врховный.

Контрольный отдел занимет независимую от активного правительства позицию и выполняет исключительно контрольные функции над деятельностью последнего.

ДИПЛОМАТИЧЕСКИЕ ОТНОШЕНИЯ С ЗАГРАНИЦЕЙ.

Непосредственно после организации нового государство Маньчжу-Ди-Го, правительство этой страны сообщило 16 государствам мира о произошедших переменах в управлении территорией Маньчжурии.

Правительство Японии немедленно же учло всю важность событий и ту большую роль, которую Маньчжу-Ди-Го суждено сыграть в деле установления мира Восточной Азии, и 22 сентября1932 г. поспеш ило признать независимость нового государства и открыло с ним дипломатические сношения. Последовало заключение союза совместной обороны.

На основании нашумевшего рапорта лорда Литтона, Лига Наций высказалась против рациональности независимости Маньчжу-Ди-Го, в результате чего Япония сочла нужным выйти из состава членов Лиги.

Затем Е. В. принц Чичибу посетил Маньчжу-Ди-Го для выражения дружественного отношения Японии, что имело место в мае 1934 г.

Е. В. Император Маньчжу-Ди-Го лично посетил Токио для встречи с Е. В. Императоров Японии.

В июле этого же года подписали экономическое соглашение двух соседних стран, установили маньчжурские таможни на границе с Кореей и, таким образом, полностью урегулировали все вопросы японо-маньчжурской торговли.

В мае 1934 г. Маньчжу-Ди-Го признала республика Ценнральной Америки Сальвадор, несмотря на принадлежность к Лиги Наций.

СССР не замедлил послать в крупнейшие центры Маньчжу-Ди-Го своих консулов. Затем по ходатайству Японии состоялась переуступка советских прав на б. Китайскую Восточную железную дорогу, равно как и гидрографическое соглашение, устанавливающее прохождение водных границ по рскам Амурў, Аргуни и Уссури.

Таким образом, несмотря на отсутсвие оффициального признания независимого государства Маньчжу-Ди-Го, СССР, фактически, уже вступил в различные дипломатические сношения с этим государством.

Последовали оффициальные переговоры между правительствами Маньчжу-Ди-Го и Внешней Монголии, вызванные приграничным инцидентом при реке Халха, которые постепенно вылились в проблему уточиения западной границы Маньчжу-Ди-Го, после чего, предвидят, наступит полное взаимопонимание соседних стран и отсутствие каких-либо инцидентов.

1-го июля 1934 года положительно разрешили вопрос прямого железнодорожного сообщения из Маньчжу--Ди-Го в Пейпин, через полгода установили регулярное почтовое сообщение, а 6-го февраля 1935 года организовали денежные переводы.

После событий в Северном Китае и провинции Чахар наступил период успокоения и упрочнения солидарности между 3-мя важнейшими странами Восточиой Азии: Японии, Маньчжу-Ди-Го и Китая.

ЭКОНОМИКА И ФИНАНСЫ.

Бюджет 2-го года „Кан-Дэ“ (1935 г.) был установлен 23-го июня сроком до конца этого года. Впоследствии астрономический и финансовый год Маньчжу-Ди-Го будут совпадать.

Упомянутый бюджет 1935 года достигал в приходах и расходах 104.888.000 гоби (фактически за 6 месяцев) и по сравнению с половинным бюджетом предыдущего года увеличился на 10.636.171 гоби.

ЧАСТЬ 3. МАНЬЧЖУ-ДИ-ГО.

ОБЩИЙ ОБЗОР.

Значение появления молодого государства Маньчжу-Ди-Го, как для жизни стран Восточной Азии, так и вообще для направления мировой политики, — огромно.

Как известно, в сентябре 1931 года произошел случай взрыва части Южно-Маньчжурской жилезной дороги агентами китайской военщины, в то время правящей Маньчжурией. Этот факт привел к справедливому вмешательству японской армии, стоящей на страже мира и безопасности.

Недовольное тиранической властью маршала ЧжанШуэ-ляна неселение Маньчжурии воспользовалось случаем и свергло ненавистное правительство.

Так образовалось государство Маньчжу-Ди-Го с Верховным правителем Пу-И. Первоначальной политический строй молодого государства являлся лишь временным, т. к, главная мысль создания цветущей страны опиралась на идеи монархии Маньчжу-Ди-Го.

Первыми шагами нового правительства явились обеспечение спокойствия в стране, ликвидация бандитизма и урегулирование государственных финансов.

Затем состоялось признание Маньчжу-Ди-Го соседней страной Японией, что, можно сказать, завершило создание независимости и выступления новой страны на международном поприще.

Через 3 года, уступая горячим просьбам 30-миллионного населения страны, Верховный правитель Пу И был коронован и стал, таким образом, первым Императором Маньчжу Ди-Го.

2-го мая 1935 г. после возвращения Е. И. Императора Маньчжу-Ди-Го в Синьцзин после поезки по Японии был обнародован декрет Е. В. Императотора Японии о нераздельной дружбе между двумя соседними странами и их вечной солидарности.

После урегулирования вопросов Северного Китая и провинции Чахар был создан открытый путь для проведения солидарности и дружбы трех важнейших стран Азии: Японии, Маньчжу-Ди-Го и Китая.

ТЕРРИТОРИЯ И НАСЕЛЕНИЕ.

После реформ 1934 г., территория Маньчжу-Ди-Го была разделена 14 провинций, вместе достигающих пространства в 1.303,143 квадратных километров.

Согласно статистичееких данных от июня 1935 г., население страны достигала 30.879.717 человек.

Провинции	Площадь (кв. клм.)	Население (человек)
Гиринская	89.910	4.656.697
Цицикарская	125.537	1.974.857
Сахалянская	109.813	38.502
Чентао	29.395	487.972
Биньцзянская	143.425	4.032.057
Санчиангская	107.515	833.419
Антунгская	48.226	2.641.214

Мукденская	85.546	9.379.302
Киньчжоуская	39.461	2.938.709
Жэхэ	96.585	2.200.258
Хинганская (запаная)	80.410	358,368
„ (южная)	79.021	484.973
„ (восточная)	106.751	75.139
„ (северная)	160.395	42.900
Особый город Синьцзин	191	140.945
„ „ Харбин	929	413.386
„ район Северной Маньчжурии	1.147	181.019
Итого	1.303.143	30.879.717

ИНОСТРАННОЕ НАСЕЛЕНИЕ.

На первое декабря 1934 г. в Маньчжу-Ди Го проживалос ледующее число иностранцев:

Японцев	53.064
Корейцев	571.418
Русских эмигрантов	42.591
„ маньчжурскоподданных	7.728
„ советскоподданных	36.517
Англичан	419
Американцев	226
Французов	209
Германцев	454
Итальянцев	54
Голландцев	48
Поляков	1.340
Итого	714.068 чел.

По сравнению с данными того же числа предыдущего года население иностранцев увеличилось на 24.877 чел.

В Квантунгской области и полосе отчуждения ЮМжд проживают:

Японцы	314.867
Корейцы	30.563
Иностранцы	2.221
Маньчжуры (приблизительно)	1.000.000

ОБРАЗОВАНИЕ

Народное образование выработано на основании принципов „Ван-Дао“ (Королевский путь), которые предусматривают уважение старших ,милость к ближним, воздержание от пороков, нравственность и мужество.

На конец первого полугодия 1934 года по всей стране имелось 10.952 элементарных школ (596.688 учащихся), 178 гимназии (26.021 учащихся), 109 педагогических института (8.727 студента), 41 промышленных училищ (4.592 учащихся), 7 университетов и специальных училищ (1.987 студентов) и 1.624 частных школ (29.952 учащихся).

Лишь в Дайрене имеется таможня, которая взимает известные пошлины с товаров, направляемых в Маньчжу-Ди-Го через этот порт.

С другой стороны товары, поступающие из Квантунгской области в Японию, облагаются в портах Японии пошлиной наравне с импортом из прочих заграничных стран. Лишь некоторые предметы местной продукции, мало влияющие на рынки Японии, напр. фрукты, были освобождены от пошлин.

Главнейшие отрасли промышленности.

Изобилие природных богатств края позволило развить промышленность Квантунгской области в весьма короткое время.

Рассмотрим число фабрик и заводов, обслуживаемых минимум 5-ю рабочими:

	Число заводов	Стоймость годовой продукции,
Квантунгская область	557	66.450.000
Полоса отчуждения ЮМжд	454	50.436.000
Итого	1.011	119.886.000

Главнейшими предметами обработки являются хлопчато-бумажная ткань и пряжа, бобовое масло и жмыхи, чугун, железо и известь.

Внешняя торговля.

ЭКСПОРТ: (В 1.000 иен)

	Экспорт заграницу	Экспорт в Японию	Итого
1912 г.	25.066	31.715	56.781
1926 г.	100.714	88.824	189.538
1932 г.	178.848	126.192	305.067
1933 г.	202.110	128.041	330.151

ИМПОРТ: (В 1.000 иен)

	Импорт из заграницы	Импорт из Японии	Итого
1912 г.	25.516	34.322	59.838
1926 г.	65.540	66.593	133.133
1931 г.	43.040	54.894	97.934
1932 г.	69.023	139.563	207.586
1933 г.	115.728	259.052	374.780

ЮЖНООКЕАНСКИЕ ОСТРОВА

Список генерал-губернаторов.

Фамилия	Дата назначения.
Т. Тедзука	1 июля 1918 г.
Т. Тедзука	1 апреля 1922 г.
К. Иокота	4 апреля 1923 г.
М. Хоригучи	12 января 1931 г.
К. Тавара	21 ноября 1931 г.
М. Мацуда	25 июля 1932 г.
Х. Хаяси	4 августа 1933 г.

Население.

По данным от 1-го апреля 1934 г. население подмандатных Японии Южноокеанских островов достигало 85.605 человек, в том числе:

Туземцев	50.174
Японцев	35.328
Иностранцев	103

Туземцы в свою очередь разделяются на племя „канака“ (46.475 чел.) и племя „чамора“ (3.699 чел).

Большинство японского наседения находится на о. Сайпан, причем главным занятием является земледелие.

Промышленность.

Разведение сахарного тростника и кокосовых пальм является главным занятием населения южноокеанских островов. Поля и сахарные плантации занимают 14.990 гектар, кокосовые плантации — 33.200 гектар.

На острове Сайпан расположены сахарные заводы и завод спирта.

Водная продукция имеет большое будущее, как в отношении различных сортов рыбы, так и побочных морепродуктов, напр. раковин „Такасегай“, являющихся прекрасным материалом для изготовления пуговиц.

Торговля.

ЭКСПОРТ: (В 1.000 иен)

	Экспорт заграницу.	Экспорт в Японию	Итого
1916 г.	64	732	796
1926 г.	87	6.580	6.667
1931 г.	9	12.790	12.799
1932 г.	48	13.849	13.897
1933 г.	583	18.155	18.739

ИМПОРТ: (В 1.000 иен)

	Импорт из заграницы	Импорт из Японии	Итого
1916 г.	35	620	655
1926 г.	211	4.090	4.301
1931 г.	178	5.780	5.958
1932 г.	333	6.255	6.588
1933 г.	439	8.550	8.989

Промышленность.

Производство промышленности Южного Сахалина в 1933 г. выразилось на сумму 97.650.000 иен, причем из этого итога на долю лесопромышленности пришлось 11.540.000 иен, для производства пульпы и бумаги 54.630.000 иен.

Таким образом вышеуказанные 2 отрасли промышленности занимают свыше 67% общей индустрии края.

Пространство правительственных лесов достигает 2.900.000 гектар, лесоводного института 80.000 гектар, т. е. всего 90% всех лесов на Южном Сахалине.

Крестьянская продукция расчитывается на сумму 3.000.000 иен в год.

Залежи каменного угля превышают 2.000.000 тонн, но правительственным распоряжением лишь известное количество угля подлежит эксплоатации, т. ч. добычи 1933 г. едва превысили 880.000 тонн.

Расположенные в рассматриваемом районе нефтеностные поля в большенстве случаев находятся в сдадии пробного бурения.

Внешняя торговля

ЭКСПОРТ: (В 1.000 иен)

	Экспорт заграницу	Экспорт в Японию	Итого
1930 г.	1.987	80.025	82.012
1931 г.	635	71.256	71.891
1932 г.	8	63.510	63.518
1933 г.	107	73.455	73.562

ИМПОРТ: (В 1.000 иен)

	Импорт из заграницы	Импорт из Японии	Итого
1930 г.	347	35.328	35.675
1931 г.	205	28.198	28.403
1932 г.	265	29.116	29.381
1933 г.	259	31.430	31.689

КВАНТУНГСКАЯ ОБЛАСТЬ.

Список губернаторов.

Фамилии	Дата вступления на пост
И. Осима	1 сентября 1906 г.
Я. Фукусима	25 апреля 1912 г.
К. Накамура	15 сентября 1914 г.
Г. Хаяси	12 марта 1910 г.
И. Ямагата	24 мая 1920 г.
Х. Иджуин	8 сентября 1922 г.
Х. Кодама	26 сентября 1923 г.
К. Киносита	17 декабря 1927 г.
М. Оота	7 августа 1929 г.
С. Цукамото	16 января 1931 г.
М. Ямаока	11 января 1932 г.
Н. Муто	8 августа 1932 г.
Т. Хисикари	23 июля 1933 г.
З. Минами	10 декабря 1934 г.
Р. Нагаока	26 декабря 1934 г.
Р. Ооно	11 мая 1935 г.

Реформы административных органов.

Согласно указа от 26 декабря 1934 г., Квантунгская область и полоса отчуждения ЮМжд были переименованы в департамент, непосредственно подчиняюшийся посольству Японии в Маньчжу-Ди-Го в Синьцзине.

Административное правление сосредоточено в Порт-Артуре, где проживает губернатор Квантунгской области.

Учебные заведения.

Число учебных заведений, учрежденных в Квантунгской области и полосе отчуждения ЮМжд, разграниченное по категориям представляется в следующем виде:

	Число учебных заведений	Преподавателей	Учащихся
Элементарные школы	57	1.014	38.432
Правительственные школы	26	402	18.170
Муниципальные школы	128	621	26.897
Гимназии	8	217	4.487
Промышленные училища	4	604	11.799
Специальные учебные заведения (средние)	3	46	576
Высшие женские училища	8	203	4.452
Практические (хозяйство) женские школы	15	75	594
Высшие педагогические институты	1	42	368
Колледжи	2	55	248
Университеты	2	177	999

Монополии.

По примеру установления монополии на опиум, в Квантунгской области правительство преследует цели сокращения зла курения наркотиков, для чего образовали монополии на изготовление и продажу опиума.

На конец 1933 г. число лиц, пользующихся правом курить опиум, достигало 37.230 человек (маньчжуры). Легальных торговцев наркотиком было 149.

Ежегодно правительство сокращает число разрешений на курение опиума, планомерно борясь с пороком.

Таможенные законоположения.

Квантунгская область и полоса отчуждения ЮМжд являются свободными рынками и на ввозимые товары правительство не налагает пошлин.

ТАБАК. Монополия на табачные изделия на острове была установлена в 1905 г., т. е. на год позднее, чем на территории собственно Японии. Доходы — 15.210.000 иен в год.

СПИРТНЫЕ НАПИТКИ. В июле 1932 года установили монополию производства и продажи спиртных напитков, причем для пива монополизировали исключительно сбыт. Мероприятие было расчитано на повышение качества продукта и уменьшения его вредного действия на здоровье населения.

Крестьянская продукция

Урожай 1933 года по важнейшим отраслям крестьянской продукции выразился в следующих цифрах:

Рис	8.361.839 коку
Сахарный тростник	8.782.001.849 кин
Сладкий картофель	2.355.780.902 кин

Рисопосевы дают 2 урожая в год. Экспорт этого продукта в Японию за рассматриваемый год достиг 3.820.000 коку при стоимости свыше 64.620.000 иен.

В большом количестве также экспортируют бананы и ананасы:

1933 г.	Количество	Стоимость
Бананы	211.000.000 кин	11.890.000 иен
Ананасы (сырые)	3.940.000 лин	150.000 иен
Ананасы (консервы)	2.500.000 дюжин	5.140.000 иен

Промышленность.

Во время Великой войны промышленность о. Формоза в значительной степени возрасла и к 1929 г. достигла показателей 250.000.000 иен в год.

В связи с мировой депрессией последовало сокращение до 207.000.000 иен.

Приблизительно 67% стоимости всей продукции острова занимает сахар, а остальные отрасли не превышают каждая 10 млн иен в год.

В конце 1933 года организовали крупное электропромышленное предприятие с капиталом 34.490.000 иен. Построили станцию, работающую на „белом угле“, мощностью 46.900 киловатт.

Вторая, еще более мощная станция (100.000 киловатт) будет закончена в последнем квартале 1935 года.

ЭКСПОРТ: (В 1.000 иен)

	Экспорт заграницу	Экспорт в Японию	Итого
1912 г.	14.860	47.736	62.697
1926 г.	49.315	202.110	251.425
1931 г.	19.449	201.424	220.873
1932 г.	18.045	222.683	240.728
1933 г.	17.666	230.747	248.413

ИМПОРТ: (В 1.000 иен)

	Импорт из заграницы	Импорт из Японии	Итого
1912 г.	19.307	43.321	62.628
1926 г.	62.008	121.405	183.412
1931 г.	30.859	114.763	145.622
1932 г.	31.041	133.457	164.498
1933 г.	35.477	149.912	185.389

САХАЛИН.

Список губернаторов о-ва Сахалина.

Фамилия	Дата вступления на пос
К. Кумагае	22 июля 1905 г.
Т. Кусусе	1 апреля 1907 г.
Т. Токонами (вице-губернатор)	24 апреля 1908 г.
С. Хираока	12 июня 1908 г.
Б. Окада	5 июня 1914 г.
А. Шотани	13 октября 1916 г.
К. Нагай	17 апреля 1919 г.
А. Шотани	11 июня 1924 т.
К. Тоиода	5 августа 1925 г.
К. Кита	27 июля 1927 г.
С. Агата	9 июля 1929 г.
М. Кисимото	17 декабря 1931 г.
Т. Имамура	5 июля 1932 г.

Туземное Население.

Туземное население острова Сахалина японского владения разделяется следующим образом: (на конец 1933 года)

Племя	Человек
Айну	1.354
Орокко	338
Никбуи	116
Кирин	16
Санда	10
Якуты	3

Образование.

Учебные заведения	Число	Число учителей	Учащихся
Элементарные школы.	221	1.131	47.535
Гимназии	3	89	1.865
Высшие женские училища	4	66	1.344

Имеются также вспомогательные промышленные школы, специальные школы для туземцев, частные вечерние гимназии, учительский институт и пр.

С. Сакума	11 апреля 19 6 г.
С. Андо	1 мая 1915 г.
М. Акаси	6 июня 1918 г.
К. Ден	29 октября 1919 г.
К. Учида	6 сентября 1923 г.
Т. Изава	1 сентября 1924 г.
М. Ямагами	16 июля 1926 г.
Т. Кавамура	16 июня 1928 г.
Е. Исидзука	30 июля 1929 г.
М. Оота	16 января 1931 г.
Х. Минами	2 марта 1932 г.
К. Накагава	27 мая 1932 г.

Области и округи о. Формозы.

Области и округи	Губернский город	Территория кв. ри	Неселение чел.
Тайхоку-Шиу (область)	Тайхоку	299,7	1.009.180
Синчику-Шиу „	Синчику	291,7	720.605
Тайчиу-Шиу „	Тайчиу	475,7	1.125.535
Тайнан-Шиу „	Тайнан	354,6	1.278.926
Такао-Шиу „	Такао	371,0	694,401
Тайто-Чо (округ)	Тайто	331,7	64,806
Каренко-Чо „	Каренко	298,8	101,300
Боко-чо „	Мако	8,2	65,754

Население острова.

Нар дность	Человек
Японцы	256.327
Корейцы	1.191
Китайцы	43.585
Формозцы (китайского происхождения)	4.759.197
Дикари	146.923
Иностранцы	207
Итого	5.060.507

Дикари, в свою очередь, разделяются на несколько племен, причем многих из них в данное время уже нельзя считать за действительно некультурных людей. Постепенно племена впитывают достижения культуры и переходят на оседлый и трудовой образ жизни.

По справкам на конец 1933 г. население аборигенов о. Формозы или так наз. дикарей разделялось следующим образом:

Племя	Человек
Тайяр	34.333
Цову	2.367
Байван	42.263
Ями	1.702
Сайсетт	1.417
Пунун	18.081
Ами	46.300
Прочие	460
Итого	146.923

Учебные заведения.

Учебные заведения	Число	Преподавателей	Учащихся
Элементарные школы (для японцев)	134	976	41.251
Правительственные школы (для формозцев)	775	6.033	351.691
Гимназии	10	250	5.562
Высшие женские училища	13	278	5.773
Промышленные училища	6	183	3.223
Вспомогательные пром. училища	33	107	2.286
Школы для слепых и глухонемых	2	22	288
Педагогические курсы	4	125	1.391
Колледжи	1	61	590
Специальные училища	4	200	970
Университеты	1	251	139
Частные школы формозцев	20	186	3.934

Правительственные Монополии.

На территории острова Формозы правительство пользуется 5-ю монополиями, которые составляют важнейший источник доходов администрации.

ОПИУМ. С 1897 года производство и продажа опиума были монополизированы правительством. Преследовали цели постепенного отучения курящих этот наркотик, равно как и контроль за дурными привычками народа.

В отношении положительных результатов мероприятия можно указать следующие статистические данны: В 1905 г. из всего населения острова являлись регулярными потребителями опиума 170.000 чел, а к 1933 г. число их снизилось до 17.991 чел.

Правительственные доходы от данной монополии достигают 2.890.000 иен.

СОЛЬ. Производство и продажа столовой соли приностит доходы правительству на сумму 2.730.000 иен.

КАМФОРА. Промышленность камфоры относится к наиболее важной экономической статье о. Формозы. Годовая продукция достигает прибл. 3.000.000 килограмм, а правительственные доходы 5.700.000 иен.

Медь	784.825	килограмм	417.368
Графит	22.677.006	„	465.654
Каменный уголь	1.306.734	тонн (м)	7.205.406
Железная руда	258.267	„	1.287.788
Чугун	163.937	„	5.605.691
Шелковые ткани	—		3.723.752
Сырой шелк	1.595.882	килограмм	15.931.757
Хлопчато-бумажная ткань	—		15.863.529
Жень-шень (красный)	48.525	кин	—
„ (белый)	143.615	„	1.118.734

6. Правительственные монополии.

Генерал-губернаторство монополизировало производство и сбыт табачных изделий, жень-шеня, соли и морфия.

Табачное монопольное бюро имеет фабрики в Сеуле, Хейджо, Тайкиу и Зеншу, на которых работает свыше 2.500 рабочих, в том числе 1.250 женщин.

Продукция 1933 г. достигала 4 биллионов сигарет, 4 млн. кин табаку и 300 тыс. кин листового табаку. Одновременно ввезли из Японии на 86.000 иен различных табачных изделий.

От продажи табачных изделий бюро выручило за указанный год свыше 35 млн. иен.

Как известно, в странах Азии корень женьшеня считается весьма эффективным лекарственным средством от многих болезней, являясь одновременно наиболее популярным средством омоложения. Корейские сорта являются наиболее ценными из всех, имеющихся на континенте.

Монопольное бюро в 1933 г. закупило 142.686 кин указанного корня, приготовив 36.366 кин красного женьшеня, и продало продукцию за 1.337.941 иен.

Производство соли сосредоточено в 3-х пунктах на побережьи Кореи, и общая площадь участков предприятий достигает 8500 акров. В 1933 г. получили 336 млн кин соли.

Ввиду того, что годовое потребление соли корейским населением достигает 560 млн. кин, правительственное производство было недостаточным, и пришлось недостающее количество импортировать из заграницы.

Некоторое время тому назад применяли методы выпаривания воды для получения соли при помощи топлива, но компетиция дешевой китайской соли была настолько сильной, что пришлось полностью отказаться от такой системы. Теперь же пользуются исключительно солнечным теплом для выпаривания воды.

С давних пор среди народа распространилась вредная привычка курения опиума и морфинизм. Генераль-губернаторство провело строгие законы против наркотиков, но секретное производство и продажа продолжали существовать.

Для наиболее эффективной борьбы с пороком правительство монополизировало производство и сбыт морфия и построило фабрику в Сеуле, которая, в свою очередь, снабжает исключительно аптеки. Таким образом, морфий употребляется для медицинских целей, но не распространяется по стране в качестве губительного наркотика.

В 1933 г. продукция морфия достигала 424 килограмм.

7. Экспорт — импорт.

Торговля Кореи с собственно Японией развивается из года в год, равно как и в отношении заграничных стран. Тем не менее, торговые отношения с Японией занимали 86% в экспорте и 84% в импорте всей торговли Кореи в 1933 г.

Нижепомещенные таблицы отображают развитие корейской торговли с собственно Японией ее колониями и заграничными странами. (В 1.000 иен)

Экспорт.

Страны	1932 г.	1933 г.	1934 г.
Собственно Япония	282.144	315.854	407.693
Квантунгска область	4.337	4.975	5.104
Маньчжу-Ди-Го	22.867	40.588	48.358
Китай	947	1.598	2.007
С Ш А	406	2.746	312
Прочие	753	2.866	1.891
Итого	311.354	368.627	465.367

Импорт.

Страны	1932 г.	1633 г.	1932 г.
Собственно Япония	253.670	339.817	439.622
Квантунгская область	2.479	3.689	4.128
Маньчжу-Ди-Го	39.723	40.765	46.681
Китай	3.772	5.857	7.796
Голландкая Ост-Индия	616	2.137	1.431
Азиатские владения СССР	1.020	1.144	113
Англия	1.545	988	975
Германия	819	423	380
С Ш А	5.079	2.195	5.083
Прочие	6.638	7.170	12.935
Итого	320.356	404.185	519.149

ФОРМОЗА.

Список Генерал-Губернаторов о. Формозы.

Фамилия	Дата назначения на пост.
С. Кабаяма	10 мая 1895 г.
Т. Кацура	11 июня 1896 г.
М. Ноги	14 октября 1896 г.
Г. Кодама	26 ноября 1898 г.

4-й	„	„	(ген.-губернатор), 1-го октября 1910 г.
5-й	Граф К. Хасегава	„	, 16 октября 1916 г.
6-й	Виконт М. Сайто	„	, 12 августа 1919 г.
7-й	Генерал И. Угаки	„	, Апрель 1927 г.
8-й	„ Х. Яманаси	„	, Декабрь 1927 г.
9-й	Виконт М. Сайто	„	, 17 августа 1927 г.
10-й	„ И. Угаки	„	, 17 июня 1931 г.

4. Народное образование.

Народное образование в прежнее время, т. е. до присоединения Кореи к Японской Империи, сводилось к изучению родного языка, китайской письменности и классической китайской литературы.

В силу экономический условий и ненормальной постановки дела народного образования, лишь самый богатый класс имел возможность получить некоторое образование. Крестьянское же население в подавляющем большенстве оставалось почти совершенно без всяких познаний культуры.

Под влиянием японских государственных деятелей еще в 1906 г. создали несколько учебных заведений элементарного образования, гимназий и школ иностранных языков, равно как и промышленных училищ.

После присоединия дело народного образования было поставлено на широкую ногу и к концу 1918 г. Корея обладала 10 правительственными учебными заведениями (4 специальных училища, 4 гимназии 2 женских гимназии), 20 общественными промышленными училищами и 432 элементарными школами.

В 1912 г. последовали реформы народного образования, одинаково затронувшие школы для японских детей и для корейцев за исключением нескольких положений, которые не могли быть проведены в последних, ввиду различий языка и обычаев обоих народностей.

Некоторые корейские ученики, обладающие соответствующими данными, могут посещать японские школы, равно как и японские дети корейские учебные заведения. Таким образом, элементарное воспитание японцев и корейцев проводится, в общем, в различных заведениях, в то время как гимназии, промышленные и специальные школы и университеты допускают безоговорочно учащихся обоих национальностей.

Вскоре же по проведении реформ отметили прекрасные достижения в деле народного образования, особенно в крупных центрах и прилегающих к ним местностях.

Различные учебные заведения подчиняются специальным департаментам генерал-губернаторства, провинциальным управам или частным организациям.

К первым принадлежат все правительственные учебные заведения, ко вторым — народные школы, и к последним — частные школы.

За последние 20 лет в народном образовании и строительстве особенно элементарных школ отметили значительный прогресс.

Число народных школ ежегодно увеличивается едва справляясь с требованиями все возрастающего числа желающих учиться. Несмотря на все меры правительства, до 2.000.000 детей крестьян до настоящего времени не в состоянии посещать школу. Это нежелательное явление об'ясняется разбросанностью корейских деревушек в горах,

плохими еще средствами сообщения в некоторых районах и, разумеется, все еще не достаточно большим числом учрежденных школ.

Для ликвидации безграмотности генерал-губернаторство Кореи создало план 2-летнего курса, так наз. сокращенного элементарного образования, который был осуществолен в апреле 1934 года. С тех пор число этих особных заведений достигло 660 с посещаемостью в 54.000 учеников.

Предусматривают интенсивное развитие сети дополнительных школ, и, в результате, в скором времени состоится полная ликвидация безграмотности.

5. Продукция промышленности и земледелия за 1933 год.

	Количество		Стоимость (иен)
Р и с	18.192.720	коку	341.590.148
Бобы	4.555.517	„	44.001.461
Пшеница и ячмень	10.370.744	„	76.055.855
Просо	5.145.301	„	40 314.541
Яблоки	11.897.153	кан	4.649.291
Груши	3.477.258	„	1.897.427
Виноград	653.145	„	647.750
Персики	1.101.492	„	389.544
К а к и	5.995.722	„	1.426.636
Сахар	32.687.814	„	6.541.108
М у к а	—		8.101.850
Соломенные мешки	53.844.735	шт.	5.770.544
Цыновки	5.320.549	„	2.090.731
Сломенные веревки	—		4.262.942
Листовой табак	4.414.268	кан	4.862.942
Табак	—		35.227.038
Хлопок	159.415.574	кин	19.867.028
Шелковичные коконы	668.034	коку	21.864.690
С к о т	1.663.136	голов	—
Мед	968.005	кгр.	762.115
Рыба (свежая)	1.007.258	тонн (м)	51.378.158
Рыба (сушеная и соленая)	8.015.276	кгр.	2.015.884
Консервы	147.576	ящ.	1.432.022
С о л ь	336.541.000	кин	—
Удобрения из рыбы	76.765.670	тонн (м)	4.786.038
Л е с	1.990.000	куб. м.	13.679.000
Древесный уголь	21.876.069	кан	2 208.031
Лекарственные травы.	571.754	„	343.520
Каштаны	69.665	коку	1.163.342
Грибы	94.856	кан	157.869
Золото	10.203.408	грамм	26.066.784

ЧАСТЬ 2. КОЛОНИИ ЯПОНСКОЙ ИМПЕРИИ.

В 1896 г. было учреждено министерство колоний Японии, причем на следующий же год состоялось его оффициальное закрытие. Политическяя ситуация выявила рациональность вторичного учреждения государственного органа управления колониями, и в 1910 г. создали департамент колоний, который просуществовал всего лишь 3 года.

10 июня 1929 г. образовали существующее министерство колоний, заведывающее делами всех колониальных территорий Японской Империи.

18 ноября 1905 г. Япония установила свой протекторат над Кореей, а 29 августа 1910 г. эта страна была присоеденена к Империи.

Согласно японо-китайскго мирного договора, заключенного в апреле 1895 г., о. Формоза был передан Японии.

В середине прошлого столетия на о. Сахалин был послан верховный государственный чиновник Японии и Сахалин, фактически, стал колонией Японской Империи. Затем в мае 1875 г. этот остров был передан России в обмен на Курильские острова. После русско-япвнской войны, согласно Портсмутского мирного договора, южная часть о. Сахалина (южнее 50° северной широта) была переуступлена Россией в пользу Японии.

Указанный мирный договор, заключенный в сентября 1905 года, передал Японнии права аренды на Квантугский полуостров. В 1915 г. срок аренды был продлен на 99 лет, о чем был заключен особый договор с китайским правительством. Одновременно же Япония получила Южно-Маньчжурскую железную дорогу и полосу отчуждения вплоть до гор. Чан-Чуня (Синьцзин).

Во время мировой войны японский флот завладел германскими островами Микронезии, включая архипелаги Марианский, Каролинский, Полуатский и Маршальский.

Территория и население колоний Японии.

	Территория кв. клм.	Число домов.	Население (человек)	Население на 1 кв. клм.
Корея	220.740,72	3.978.742	21.058 305	95
Формоза	35.973,55	808.461	4.592 537	128
Сахалин (Южн.)	36.089,77	59.877	259.196	8
Квантунгск. область	3.462,45			
Полоса отчуждения ЮМжд	295,02	22.145	1.328.011	355
Южноокеанские о-ва	2.148,80	15.019	69.626	32
Итого	298.710 31	5.092.244	27.343.675	

КОРЕЯ.

1. Краткий физический обзор.

Корея расположена на гористом полуострове, разделяющем Японское море от Желтого. Несмотря на то что вся территория страны находится в пределах умеренной зоны, различные области страны значительно отличаются друг от друга в отношении климатических особенностей.

Отмечают разницу температуры зимнего и летнего времени, доходяшую зачастую до 50° С. даже в столице Кореи, Сеуле, несмотря на то, что местоположение этого города примерно центрально и менее 100 футов над уровнем моря. Более северные области, особенно лежащие в горах, отличаются, разумеется, еще более сильными колебаниями температур.

Средняя высота горных хребтов, проходящих почти по всей длине страны, достигает 2000 метров. Горы в большенстве случаев совершенно голы, почему атмосферные осадки стекают с них с чрезвычайной быстротой, порождая частые наводнения в более низких местностях.

Июль и август изобилуют сильными дождями, играющими важную роль в жизни страны, предоставляя требуемую влагу для рисопосевов. Остальная часть года обычно отличается сухой погодой.

2. Население.

После народной переписи 1910 г. впервые узнали действительное число корейцев. Исследования в этой области, проведенные до этого времени, базировались на эмпирических вычислениях и отличались краткостью основных данных. Рассмотрим показатели населения Кореи со временни 1910 г.

		Японцев	Корейцев	Иностранцев	Всего
1910 г.	Хозяйств	50.992	2.749.956	3.155	2.804.103
	Человек	171.543	13.128.780	12.694	13.313.017
1920 г.	Хозяйств	94.514	3.191.153	7.312	3.292.979
	Человек	347.850	16.916.078	25.061	17.288.989
1930 г.	Хозяйств	126.312	3.679.463	15.789	3.821.564
		501.867	19.685.587	69.109	20.256.563
На конец	Хозяйств	135.707	3.805.684	10.658	3 952.049
1933 г.	Человек	543.104	20.205.591	42.626	20.791.326
1934 г.	Хозяйств	141.417	3.857.169	12.020	4.010.6 6
	Человек	561 384	20.513.804	50.639	21.125.827

3. Список генерал-губернаторов Кореи.

1-й	Князь Х. Ито (наместник),	1-го декабря 1905 г.
2-й	Виконт А. Соне „	14-го июня 1909 г.
3-й	Граф С. Тераучи „	30-го мая 1910 г.

Автор	Заглавия.
Р. Акутагава.	„Смерь праведников“, „Случай в аду“.
Т. Арисима.	„Некая женщина“.
Т. Симазаки.	„Вихрь“, „Перед рассветом“.
К. Кикучи.	„Три семьи“ „Отец возвратился“.
Г. Нагай.	„Взад и вперед“ „Сказка о деревьях Еноки“.
С. Нагацука.	„Земля“.
О. Мори.	„Маскарад“, „Юноши“.
Ю. Ямамото.	„Жизнь женшины“. „Убийство ребенка“.
С. Муробу.	„Продажа беседки Ботекиан“.
Т. Иокомицу.	„Сонный сад“. „Машина“.
Т. Катаока.	„Школа невест“.
К. Кавабата.	„Красный сад в Асакуса.
З. Касай	„С детьми“.
Х. Масамуне.	„Счастье Жизни“, „Жизнь мертвых“.
К. Ямада.	„Тающий снег“, „Жизнь“.
З. Танисаки.	„Любовь глупых“, „Весенняя музыка“.
А. Чикамацу.	„Черные волосы“.
Н. Сига.	„В Киносаки“.
Х. Сато.	„Уныние в саду.
З. Ратоми.	„Буддийский дух“.
И. Иосимура.	„Свадьба“.
Ф. Хаяси.	„Скитальничество“.

2. Театр.

Известный драматург г. К. Кисида, знаток французского театра, как то заявил, что по сравнению с другими отделами искусства японская драма отстает по крайней мере на 10 лет.

Царящие в театральных кругах преемственные традиции, предвзятость драматургов, которые не стремятся к новым путям в искусстве, являются коренными причинами некоторой отсталости японского драматического театра.

Современный театр Японии, с другой стороны, показал замечательные успехи, Отдельные труппы, напр. г. Саандзи, которая несколько лет тому назад посетила СССР, продолжают неудержимое развитие, и их достижения по праву можно считать колоссальными.

Недавно отметили стремление к об'единению всех трупп так наз. нового театра: намечали слияние Чиуо Гекиджо, Синцукидзи Гекиджо, Сан-Ичи Векиджо, Мезамаси, Сосакуза, Киниокай и т. д. Соглашение почти состоялось, когда последовал отказ Синцукидзи, за которым последовали протесты и несогласия некоторых других. В результате переговоры закончились провалом.

3. Кино.

За истекший год все кинокомпании Японии проявили интенсивную деятельность в

постанохке картин.

Образовалась новая фирма говорящих картин Токио Хассей, явившаяся весьма серьезным конкурентом существующим предприятиям.

Импорт иностранных кино-картин продолжает развиваться, и в нижеследующем перечне указаны краткие статистические данные о ввозе фильм за истекший год :

Кино-Фирма	Число кратин
Парамаунт	40
Фокс	40
Метро Голдвин	38
Юниверсаль	25
Уорнер	25

Через посредство японск. фирмы	Число картин
Това Шокай	40

Наиболее успешные японские постановки текущего года:

Сино-студии	Название картины
Камата	„Окото и Сасуке“
„	„Сосед Яечан“
„	„Сказка о плавучих травах“.
„	„Живущие“.
„	„Любовное письмо матери“.
„	„Он, она и молодые“.
Канда Никкацу	„Кунисада Чиудзи“.
„ „	„Чудзи начал действовать“
П. О. С.	„Мальчики“.
„	
Синко	„Три сестры“.

Китайцы	4.976	5.097	10.055
Шведы	50	23	73
Норвежцы	22	53	75
Эстонцы	3	5	8
Поляки	39	67	106
Чехо-Словаки	15	18	33
Турки	—	8	8
Датчане	63	87	150
Австрийцы	42	48	90
Греки	6	14	20
Румыны	7	7	14
Персы	1	3	4
Венгры	13	9	22
Голландцы	290	358	648
Бельгийцы	40	45	85
Швейцарцы	86	85	171
Итальянцы	80	67	147
Португальцы	22	92	114
Юго-Славы	2	—	2
Индусы	226	216	442
Филиппинцы	225	85	310
Сиамцы	37	30	67
Ново-Зеланды	6	2	8
Австралийцы	39	9	48
Канадцы	182	172	354
Аргентинцы	32	26	58
Чилийцы	1	2	3
Бразильцы	37	26	63
Мексиканцы	13	2	15
Перуанцы	2	4	6
Панамцы	—	1	1
Латышы	7	7	14
Афганцы	—	2	2
Египтяне	5	2	7
Маньчжуры	322	500	822
Фины	1	—	1
Прочие	79	182	261
И т о г о	14.418	16 849	31 267

Суммы, израсходованные в Японии иностранцами.

(В 1.000 иен)

	1931 г.	1932 г.	1933 г.
Туристы	23.317	37.649	46.301
Экипаж судов	2.669	3.262	4.000
Студенты	1.160	637	633
Проповедники	11.009	9.018	11.653
Постройки	4.448	6.592	6.871
И т о г о	42.633	57.158	69.453

ЛИТЕРАТУРА, ТЕАТР, КИНО.

1. Литература.

За год с июня 1934 по тот же месяц 1935 г. японская литература обогатилась рядом выдающихся романов, реально описывающих современную жизнь столицы и провинциальной Японии.

Среди выдающихся писателей, деятельность которых была особенно плодотворна отметим гг. Р. Иокомицу, Ф. Накамура, К. Нин, К. Кавабата, Д. Вада, К. Харуяма и проч. Заслужили большого внимания также несколько молодых писателей только что появившихся в японской литературе.

„Гинза Хаттчо“ (Восемь кварталов Гинзы), мастерски написанный роман г. Р. Такеда, заслужил всеобщее одобрение и высокую оценку передовых критиков во главе с г. Г. Нагаи.

Отдел религии, содержащий жизнеописание особо почитаемых священников, историю отдельных храмов, праздников и т. д. получил за истекший год богатый материал.

Много литературных произведений были посвящены новым формам „активизма“, проповедываемого правыми группировками писателей. Призыв к активной деятельности, практическому применению жизненных сил и радости бытия являются главными нотами этого течения. Последователи активизма развили пространные теории, зачастую преподносенные читателю в до некоторой степени туманных и трудно усваемых формах.

Часть произведений были направлены на разрешения так наз. вопроса интелигенции. Пытались отобразить истинные стремления образованного класса Японии, его верования в будущее и идеалистические воззрения. Нельзя сказать, чтобы эта тема была за истекший год более или менее полностью выявлена, но начало положено, и можно думать, что сюжет привлечет внимание лучших писателей страны.

Правительство Японии стремилось найти эффективные пути контроля литературы, особенно после возникновения Маньчжурских событий, когда идеологическое воспитание народа стало представлять собой весьма важную отрасль народного образования.

Разрешить вопрос просто и быстро не столь легко, и до настоящего времени проблемы литературного контроля все еще остаются не разрешенными.

Общество культурной связи с заграницей предпринимает переводы наиболее совершенных японских произведений на иностранные языки для того, чтобы познакомить иностранного читателя с культурой и жизнью Японии.

В числе избранных произведенин находятся:

Примечание: Указанные выше статистические данные не охватывают постройку парусных судов, равно как и пароходов меньше 100 тонн.

Крупнейшие судовладельцы. (На 1-е июля 1934 г.)

Число судов.	Общий тоннаж.	Судовладельцы.
87	645.067	Ниппон Юзен Кайша, Токио.
104	504.929	Осака Шосен Кайша, Осака.
23	103.917	Кокусай Кисен Кайша, Токио.
33	126.916	Мицуи Буссан Кайша, Токио,
43	126.703	Кинкай Юсен Кайша, Токио.
14	87.295	Токио Кисен Кайша, Токио.
18	65·893	Кавасаки Кисен Кайша, Кобе.
15	64.824	Нихон Годо Косен Кайша, Токио.
11	54.692	Кавасаки Дзосен Кайша, Кобе.
15	62.496	Тацума Кисен Кайша, Нисиномия.
11	59.414	Исивара Гомей Кайша, Киото.
14	41.776	Министерство железных дорог, Токо.
20	41.707	Кита нихон Кисен, Южн. Сахалин.
17	41.508	Ниссин Кисен Кайша, Токио.
8	36.632	Хироми Шодзи Кайша, Осака.
5	34.531	Нихон Танкер Кайша, Токио.
12	34.331	Киорицу Кисен Кайша, Токио.
12	33.956	Курибаяси Шосен Кайша, Мурорап.
6	33.774	Ямасита Кисен Кайша, Кобе.
5	33.026	Мицубиси Шодзи Кайша, Токио.
8	32.025	Симатани Кисен Кайша, Кобе.
6	29.101	Карафуто Кисен Кайша, Токио.
4	28.698	Ийно Шодзи Кайша, Кото.
4	26.754	Маньшу Кайрику Унсо Кайша, Кобе.
4	24.824	Кисимото Кисен Кайша, Осака.
5	24.127	Найгай Кисен Кайша, Кобе.
4	23.055	Симомура Кисен Кайша, Осака.
3	21.931	Кокура Секию Кайша.
6	21.874	Мейдзи Кайун Кайша.
5	21.676	Мацуока Кисен Кайша, Асия.
4	20.245	Нихон Киодо Кисен Кайша, Токио.
12	19.580	Сетцу Шосен Кайша, Осака.
7	19.490	Точиги Шодзи Кайша.
10	19.186	Оказаки Кисен Кайша, Кобе.
3	17.454	Хачима Кисен Кайша, Нисиномия.
5	17.267	Огинуно Кайджо, Такаока.
3	17.183	Тамай Шосен Кайша, Кобе.

3	16.348	Хакуио Кисен Кайша, Осака.
4	16.083	Намио Юсен К йша, Токио.
5	15.669	Харада Кисен Кайша, Осака.
7	14.845	Накамура Гуми Кайша, Кобе.
4	14.644	Сугатани Кайша, Кобе.
5	14.505	Хамане Шотен, Кобе.
9	13.339	Симатани Шосен Кайша, Отару.
2	13.030	Асахи Секию Кайша, Токио.
3	12.815	Ямамото Шодзи Кайша, Осака.
4	12.774	Муко Кисен Кайша, Микаге.
8	12.608	Ничиро Гиогио Кайша, Токио.
4	12.276	Хара Шодзи Кайша, Осака.
3	11.642	Итатани Шосен Кайша, Нийгата Такахами.
3	11.583	Увадзима Унью Кайша, Увадзима.
2	11.286	Тайхейо Гиогио Кайша, Хакодате.
2	11.085	Кобе Сенкио Кайша, Кобе.
4	10.720	Оно Шодзи Гомей Кайша.
4	10.437	Санку Унью Кайша, Модзи.
2	10.418	Кокума Гомей Шотен, Хакодате.
5	10.365	Хаяси Кисен Кайша, Осака.
3	10.424	Нихон Сейтецу Кайша, Токио.
2	10.012	Уэно Кисен Гоши Кайша, Осака.

Примечание: Далее следуют фирмы, располагающие тоннажем меньше 10.000 тонн.

Рейсы по указу правительства.

(1933 г.)

О-во	Суда	Тоннаж 1.000 тонн	Пассажиры чел.	Грузы 1.000 тонн	Поступления 1.000 иен
Ниппон Юзен	100	730	145.000	2.639	49.336
Осака Шосен	128	509	1.386.047	7.048	54.733
Ниссин Кисен	26	653	27.412	150	1.583
Нанио Кисен	4	16	915	166	671
Кита Нихон Кисен	23	340	52.867	867	3.400

Прибытие иностранцев в Японию в 1934 г:

	1-е полугодие	2-е полугодие	Итого
Англичане (чел.)	2.899	3.672	6.571
Американцы	2.303	3.951	7.254
Германцы	462	706	1.168
Французы	363	511	874
Советско-подданные	386	624	1.010

	Число пассажиров (1000 чел)	Число Грузов (1000 шт)	Тоннаж (100 тонн)	Поступления (1000 иен) От пассажиров	От грузоперевозок.
1934 г.					
Июль	59.976	5.716	19.926	15.872	35.798
Август	59.920	5.981	24.347	16.738	41.085
Сентябрь	73.389	5.983	20.646	17.172	37.818
Октябрь	75.900	6.833	23.360	20.260	43.620
Ноябрь	60.878	6.778	21.324	19.829	41-153
Декаюрь	59.441	7.284	21.280	21.410	42.690
1935 г.					
Январь	72.393	6,360	23.403	17.225	40.628
Февраль	56.371	6.368	19.869	17.215	37.084
Март	67.434	7.262	24.677	20.107	44.784
Апрель	142.086	5.889	33.993	18.425	52.418
Май	80.380	5.935	25.837	18.295	44.132
Июнь	69.910	5.421	21.589	16.823	38.411
Июль	73.304	5.628	22.633	17.209	39.872

Доходы и расходы государственных железных дорог.

	1931 г.	1932 г.	1933 г.
Поступления	433.540.289 иен	425.954.073 иен	473.570.962 иен
Расходы	266.634.480	265.081.895	282.199.614
Прибыль	166.905.809	160.872.178	191.371.348

Частные железнодорожные линии.

	1931 г.	1932 г.	1933 г.
Число линий	266	268	266
Протяжение (клм)	7.194,5	7.242,0	7.184,5
Основной капитал. (иен)	1.313.782.488	1.213.613.426	1.231.129.999
Локомотивы	997	994	940
Пассажирские вагоны	4,411	4.478	4.304
Товарные вагоны	11.611	11,558	11.350
Число пассажиров	420.725.101	427.668.098	462.327.698
Стоимость билетов(иен)	56.997.786	55.430.020	59.062.591
Тоннаж грузоперевозок	21.659.974	22.212.514	24.837.594
Стоимость фрахта иен	17.938.981	17.845.070	19.307.870
Операционные поступления	82.946.323	81.736.203	87.402.313
Операционные расчеты	47.757.672	47.403.667	48.774.967
Прибыль	35.188.651	34.332.236	38.627.346
Число служащих	42.332	41.572	40.513

Морской транспорт.

Пароходы Размер	Число судов	Тоннаж Гросс	Нет
20-100 т.	1.750	76.666	35.295
100-200 т.	451	82.444	39.973
300-500 т.	139	55.455	29.633
500-1000 т.	201	151.094	86.632
1.000-2.000 т.	196	280.990	167.127
2 — 3.000 т.	151	363.935	221.425
3 — 4.000 т.	125	416.843	250.603
4 — 5.000 т.	76	339.486	219.687
5 — 6.000 г.	129	724.789	480.008
6 — 7.000 т.	59	388.286	246.713
7 — 8.000 т.	47	343.168	215.050
8 — 9.000 т.	19	159.888	100.067
9 — 10.000 т.	18	171.689	104.976
Свыше 10.000 т.	19	232.800	136.325
Итого	2.380	3.787.533	2.333.464
Парусные суда.			
20 — 100 т.	13.163	597.723	425.555
100 — 300 т.	1.870	262.821	212.086
300 — 500 т.	18	6.751	4.552
500 — 1.000 т.	3	1.720	1.150
Свыше 1.000 т.	4	9.507	4.311
Итого	15.056	878.532	647.634

Число верфей и постройка судов.

Гг.	Чиссло верфей.	Число доков.	Число выполненных судов.	Общий тоннаж.
1923 г.	328	50	57	76.784
1924 г.	303	46	45	72.446
1925 г.	305	95	39	56.009
1926 г.	319	49	32	51.863
1927 г.	356	46	35	52.473
1928 г.	401	45	53	109.664
1929 г.	405	45	79	167.365
1930 г.	430	42	60	154.231
1931 г.	465	43	49	84.004
1932 г.	531	48	66	58.763

Щетки и кисти:		
Зубные щетки	1.719.972	2.130.617
Щетки для головы	228.053	335.510
Кисти обойные	391.064	213.364
Прочие	1.999.052	2.385.314
Итого	4.338.141	5.064.805
Цыновки и рогожи:		
Рогожи	7.315,250	7.734.535
" (Риукиу)	2.799.878	2.983.110
Итого	10.115.128	10.717.645
Японские цыновки:		
Цыновки (40 ярдов)	3.818.664	5.079.155
Прочие	1.159.186	1.373.765
Итого	4.977.850	6.452.920
Ленты из соломы, пеньки и стружек:		
Ленты из соломы	1.309.558	1.838.190
„ из стружек	155.761	182.611
„ из соломы и стружек	8.912	9.631
„ из манильской пеньки	1.859.562	2.967.564
Итого	3.333.793	4.997.996
Камень, глина и минеральные воды:		
Гранит	3.611.610	4.271.952
Камень „Анзам"	1.421.542	1.805.754
Мягкий строительный камень	1.112.375	1.315.844
Песчанник	1.012.644	1.021.873
Мрамор	293.314	391.720
Булыжник и галька	11.044.257	11.646.163
Кремний	325.815	504.786
Пемза	463.865	469.447
Каолин	1.678.994	2.227.087
Обыкновенная глина	2.834 314	3.139.104
Песок	32.998	64.436
Известняк	3.357.367	4.493.523
Глина высших сортов	815.159	1.117.038
Гипс	394.184	518.895
Минеральная вода	43.949	37.666
Итого	28.442.387	33.088.288
Удобрение:		
Животное	19.678.439	25.891.058

Растительное	25.805.816	31.563.492
Минеральное	81.798.323	102.026.182
Смешанное	30.658.833	42.408.212
Прочее	47.835	47.271
Итого	157.989.246	201.936.215

5. ПУТИ СООБЩЕНИЯ.

Железные дороги.

Статистические данные имущества и эксплоатации государственных железных дорог за время 1931 — 1933 года выразились в следующих цифрах:

Оборудовввние	1931 г.	1932 г.	1933 г.
Оперирующие линии	14.910,5	15.267,5	15.737,0 клм.
Длина жел. дор. путей	24.583,5	24.993,0	25.612,5 клм.
Число локомотивов	4.016	4.094	4.064
„ пассажирских вагонов	9.547	9.149	9.254
Трамвайные вагоны (скорый трамвай)	1.219	1.269	1.375
Автобусные парки	3	9	16
Длина линий автобусов	126	308	544
Число автобусов	23	63	116
Грузовиков	10	14	25
Грузовиков особого назначения	4	36	40
Число рейсов пароходов, жел. дорожн. ведомства	10	21	63
Длина рейсов (миль)	284	284	286
Число пароходов	61	60	63
Общий тоннаж (тонн)	48.066,5	48.661,0	48.686,5

Результаты эксплоатации государственных железных дорог.

	1932 г.	1933 г.	1934 г.
Число пассажиров	781.149.732	841.315.316	906.730.397
Грузы (шт.)	53.960.700	58.702.919	
„ (тонн)	61.732.756	71.970.592	68.451.393
Поступления от билетов (иен)	211.715.287	231.499.760	282.047.268
То же от грузов	188.523.883	212.679.227	213.470.227
То же от автобусов	253.289	537.410	537.410
То же от пароходов	10.302.263	11.610.362	

В нижеследующей таблице даны подробные сведения о деятельности государственных железных дорог за каждый месяц, начиная со второго полугодия 1935 г.

Керамическая промышленность:		
Посуда	35.733.104	46.204.776
Домашняя утварь, украшения и пр.	11.593.447	14.910.054
Промышленные предметы	2.934.639	6.131.345
Стекло	4.742.886	5.886.047
Игрушки	2.595.435	2.003.566
Прочие	7.663.341	10.110.712
Итого	65.262.852	85.246.500
Строительные керамические материалы:		
Кровельная черепица	18.070.815	19.125.574
Прочие	2.784.285	3,111.841
Итого	20.855.100	22.237.415
Лакированные предметы:		
Лакированная посуда	10.851.938	12.139.600
Мебель и предметы украшения	6.918.301	8.012.675
Прочие	8.862.670	9.419.390
Итого	26.632.909	29.571.665
Кожанная промышленность:		
Воловья кожа	17.186.775	23.566.638
Лошадиная	1.737.317	1.683.811
Прочие	1.051.790	1.287.494
Итого	19.975.882	26.537.943
Кожаные изделия:		
Обувь	19.328.297	18.826.076
Чемоданы	2.109.038	2.486.080
Сбруя	1.387.445	2.744.679
Приводные ремни	4.344.473	4.339.168
Сумки и прочее	2.015.663	2.401.213
Итого	29.184.916	30.797.216
Индиго	547.545	480.283
Растительное масло:		
Растительное масло „тане“	8.398.297	10.123.029
Кунжутное масло	3.122.444	2.662.503
Растительное масло	2.358.302	5.518.011
Масло хлопкового семени	1.165.868	2.731.458
Льняное масло	1.015.617	3.775.617
Масло камелии	336.860	378.188
„ павлонии	152.654	184.427
Бобовое масло	10.570.255	13.115.461

Масло бобового ореха	244.834	385.639
Кокосовое масло	1.991.043	2.657.171
Прочие	2.434.947	2.487.087
Итого	31.791.121	44.018.331
Летучие масла:		
Масло сосны	73.986	131.956
Скипидар	79.730	207.768
Итого	153.716	339.721
Картофельная мука:		
Картофельная мука	3.286.605	5.517.234
Мука сладкого картофеля	1.909.353	2.995.575
Прочие	2.771.598	2.745.741
Итого	7.967.256	11.258.550
Изделия из бамбука:		
Корзины	8.637.886	8.688.610
Решетки	873.287	843.594
Корзины с крышками	238.674	253.089
Корзины	90.544	89.448
Итого	9.840.391	9.874.741
Изделия из дерева:		
Японская обувь	16.194.420	18.077.069
Токарные изделия	7.804.983	8.936.381
Коробки	2.296.313	2.522.903
Столярная продукция	57.930.668	79.668.769
Ящики	28.352.809	35.295.491
Бочки	20 617.203	19.616.112
Деревянные палочки для еды	1.990.301	2.130.302
Итого	153.186.997	166.247.027
Изделия из тростника:		
Части японской обуви	780.069	764.119
Циновки	109.482	107.810
Столы и стулья	983.961	985.149
Корзины	133.981	123.261
Итого	2.007.493	1.980.339
Изделия из ивы:		
Горзины (крупного размера)	2.352-486	2.485.812
Корзины	435.768	272.811
Итого	2.788.254	2.758.623

Развитие различных отраслей японской промышленности.

Отрасли промышленности	Увеличение с 1923 г. на 1933г. (%%)	Отрасли промышленосит	Увеличение с 1.923 г. на 1.933 г. (%%)
Искусственный шелк	5.959	Сернистый аммоний	682
Каустическая сода	333	Цемент	186
Сталь	186	Золото	91
Сахар	85	Европейская бумага	76
Хлорная известь	66	Суперофосфат	66
Серебро	64	Хлопчато-бумажная ткань	62
Хлопчато-бумажная пряжа	49	Мука	46
Шерстяные ткани	31	Медь	23
Пиво	9	Каменный уголь	8

Потребление электрических лампочек.

	На конец 1932 г.	На конец 1933 г.
Число домов	11.509.061	11.383.235
Число лампочек	38.218.320	38.182.771
Светосила (свечей)	659.183.116	—
То же на 100 чел. населения	57,1	57,1

Газовые заводы.

	На конец марта 1932 г.	На конец марта 1933 г.
Предприятий	100	102
Уплаченный капитал	400.908 млн. иен	419.097 млн. иен
Питательных кранов	3.921.620	4.144.549
Газомоторы, число	186	176
„ л. с.	3.237	3.035
Снабжения газом за 1 год (в куб. метрах)	712.717.915	709.966.795
Кокс (тонн)	851.268	933.596
Смола (литров)	660.320	732.252

Производство тканей искусственного шелка.

(В 1.000 метр. и 100 иен)

	1932 г. Количество	1932 г. Стоимость	1933 г. Количество	1933 г. Стоимость	1934 г. Количество	1934 г. Стоимость
Беленые ткани	160.087	75.302	99.091	35.967	81.935	24.501
Крашеные	76.884	17.161	89.203	17.059	103.316	21.970
Бархат	262	361	132	134	75	49
Прочие		61.318		58.311		42.202
Итого		154.142		111.471		89.202

Экспорт тканей искусственного шелка.

	1934 г.	1933 г.	1931 г.	
Хабутаэ	12.778.000	16.341.000	19.313.000	иен
Поплин	1.696.000	5.856.000	5.759.000	„
Атлас	17.311.000	13.310.000	8.711.000	„
Креп	41.607.000	18.494.000	4.361.000	„
Прочие	40.073.000	23.378.000	22.394.000	„

Экспорт хлопчато-бумажных тканей.

(1000 ярдов и 1000 иен)

	1933 г. Количество	1933 г. Стоимость	1934 г. Количество	1934 г. Стоимость
Невыбеленые ткани	609.732	93.235	766.781	122.474
Выбеленые	463,690	78,027	509.221	88.825
Крашеные „	1.014,961	221.623	1.292.184	279.154
Итого	2.088.383	382.886	2.568.186	490.454

Ввоз хлопка.

	1934 г.	По февраль 1935 г. включительно
Индийский хлопок	1.601.780	714.154
Американский „	1.994.175	1.116.106
Китайский „	300.091	106.575
Египетский „	76.628	82.087
Итого, включая проч.	4.180.434	2.119.656

(Отчетный год с 1-го сентября; цифры в 100 английских фунтах)

Итоги промышленности, выраженные в стоимости продукции.

	1932 г.	1933 г.
Трикотажная промышленность:		
Хлопчато-бумажная	39.425.863 иен	47.919.853 иен
Шерстяная	17.803.120	22.241 527
Шелковая	903.413	1.479.590
Прочие	1.424.302	1.835.056
Итого	59.556.698	73.476.026
Шляпная промышленность:		
Касторовые	5.516.115	7.168.316
Суконные, из саржи и пр. тканей	3.227.161	2.982.482
Имитация панамы	1.704.558	2.233.715
Соломенные	2.590.368	2.471.587
Прочие	1.273.688	1.286.208
Итого	14.311.890	16.142.308

Моторное масло	1.783.224	„	9.716.043
Машинное масло	1.783.224	„	9.716.043
Мазут	907.581	„	2.652.537
Асбест	75.713.505	„	3.854.411
Питч	34.634.357	„	343.226
Парафин	18.392	„	516.998
Прочие нефтепродукты	—		18.651
Сера	114.426	тонн	7.500.318
Сернистые руды	2.700	„	29.340
Серная кислота	115.332	„	1.141.786
Итого			419.977.904 иен

4. ИНДУСТРИЯ.

Итоги промышленности Японии, выраженные в стоимости продукции различных ее отраслей, за 1932 и 1933 гг. указаны в нижеследующей таблице (в 1.000 иен):

	1932 г.	1933 г.
Текстильная	2.028.171	2.696.079
Металлическая	551.128	887.728
Производство машин и приборов	543.842	805.115
Керамическая	159.547	212.454
Химическая	957.000	1.300.336
Лесопромышленность	152.577	183.360
Печатная и переплетная	167.709	169.551
Пищевая	886.273	1.017.581
Прочие	232.917	282.147
Ремонт и переоборудования	263.282	317.018
Итого	5.982.469	7.871.364

Газовая и электрическая промышленность.

	1932 г.	1933 г.
Газовая	612.562.200 куб. м.	721.101.700 куб. м.
Электрическая	10.585.325.000 квт.	12.063.419.000 квт.

(Не включая правительственных предприятий)

Производство чугуна и стали.

	1931 г.	1932 г.	1933 г.
ЧУГУН:			
Количество	917.342	1.010.761	1.423.889
Стоимость	26.602.919	29.312.069	59.803.338
СТАЛЬ:			
Количество	1.662.858	2.113.647	2.863.155
Стоимость	104.760.054	154.296.231	306.357.585

Электроприборы и оборудование.

			1933 г.
Электрические машины и приборы (производство в иенах)			112.080.000
Лампочки	„	„	23.446.000
Провода	„	„	79.774.000
Итого			215.300.000

Электропредприятия.

(1933 г.)

	В эксплоатации	Оборудуются	Всего
Электростанции для снабжения жел. дорог и трамваев	613	12	635
Электрофицированные жел. дороги	161	13	174
Электростанции для обслуживания частных домов и правительственных учреждений	7.347	251	7.598
Итого	8.165	276	8.441

Итоги мощности электростанций на конец 1933.

	В эксплоатации	Оборудуются	Всего
Мощность в киловатт	3.094.282	951.605	4.045.887

Число заводов и рабочих.

На конец 1932 г.	Заводов	Рабочих		
		Мужчин	Женщин	Всего
Общее число	71.940	967.659	933.432	1.901.091
В том числе:				
Текстильные предприятия	22.180	170.581	737.050	907.631
Металлообрабатывающие	5.542	115.602	10.050	125.652
Машин и приборов	7.850	228.540	20.783	249.323
Керамические	3.355	57.930	13.265	71.195
Химические	4.013	106.272	57.434	163.706
Лесопильные	5.973	60.915	5.624	66.439
Печатные и переплетные	3.049	47.531	6.148	53.879
Пищевые	12.868	117.638	24.599	142.237
Газовы и электрические	556	8.257	63	8.320
Прочие	6.554	54.493	58.416	112.909

2. Водная продукция.

Рыболовство:

Число предпринимателей	232.681 чел
„ наемных работников	411.124 „

Разведение рыбы:

Число предпринимателей	7.921 „
„ наемных работников	18.486 „

Обработка морепродуктов:

Число предпринимателей	264.375 „
„ наемных работников	522.726 „

Наличие рыболовных судов.

	1932 г.	1933 г.
Без моторов:		
Построено	15.746	22.040
Вышли из употребления	18.201	24.320
На конец года	315.217	314.434
Моторные рыболовные суда:		
Построено	4.871	5.244
Вышли из употребления	2.568	3.106
На конец года	45.469	49.039
Итого рыболовных судов:		
Построено	20.617	27.284
Вышли из употреблениl	20.779	27.426
На конец года	360.686	363.473

Рыбопромышленность в водах Японии и открытых водах океана. (На конец 1933 года)

	Число судов	Тоннаж	Стоимость лова
Всего	8.225 шт.	181.957 тонн	65.986.000 иен

Рыбопромышленность в водах СССР на Дальнем Востоке.

	1931 г.	1932 г.	1933 г.	1934 г.
Число арендованных рыбоучастков	309	392	357	369
Число эксплоатируемых рыбоучастков	287	323	350	354
Число пароходов, обслуживающих промысла	203	214	174	171
Число рыбаков	17.240	18.185	17.506	20.364

Итоги лова (коку)	305.133	512.215	317.768	721.084
Стоимость обработанной рыбы (1.000 иен)	22.355	31.909	23.666	40.602

Прочие отрасли водной промышленности.

Итоги траулерной промышленности: (1933 г.)
13.427.134 кан рыбы, стоимостью 6.254.456 иен

Итоги крабопромышленности на плавучих заводах:
153.712 кан на сумму 7.476.267 иен

Рыболовство в Корее 13.109.989 кан на 3.339.410 иен

Китобойный промысел: на сумму 1.142,183 иен.

Горнопромышленность.

Согласно данных горного департамента при министерстве торговли и промышленности, за 1933 г. в Японии добыли металлов и минералов в следующих количествах:

Наименование	Количество	Стоимость (иен)
Золото	13.728.590 грамм	33.846.002
Платина	6.424 „	39.901
Серебро	185.610.259 „	8.037.277
Медь	69.032.756 кгр.	50.771.985
Свинец	6.824.687 „	1.347.820
Висмут	57.100 „	382.570
Олово	956.085 „	4.610.151
Антимоний	134 „	13.126
„ (сернистый)	1.200 „	300
Ртуть	8.077 „	37.156
Соль	30.657.622 „	9.746.556
Железо	232.480 „	8.906.448
Чугун	11.669 „	2.109.070
Сталь	128.933 „	11.603.970
Железный купорос	703.129 „	9.974.995
Хромовая руда	19.997 „	720.688
Марганцевая руда	43.535 „	743.981
Зильберглет	29 „	17.629
Мышьяковая руда	2.375.092 „	383.579
Фосфорная руда	34.742 тонн	414.034
Свинцовая руда	869 „	44.270
Каменный уголь	32.523.746 „	195.467.264
Бурый уголь	115.788 „	559.703
Нефтепродукты (в 100 литров):		
Газолин	3.962.627 „	36.307.454
Керосин	534.833 „	4.592.446

1930 г.	1.742	1.486	2.370	5.599
1931 г.	1.756	1.495	2.382	5.633
1932 г.	1.754	1.498	2.389	5.642
1933 г.	1.745	1.499	2.375	5.621

Распределение возделанной земли. (в 1.000 чобу)

Гг.	Поля	Огороды	Итого
1929 г.	3.192	2.704	5.897
1930 г.	3.204	2.711	5.915
1931 г.	3.211	2.772	5.992
1932 г.	3.219	2.772	5.992
1933 г.	3.225	2.803	6.028
1934 г.	3.218	2.819	6.038

Статистические данные площади рисопосевов.
(в 1.000 чубу)

1925 г.	3.153	1930 г.	3.239
1926 г.	3.158	1931 г.	3.248
1927 г.	3.173	1932 г.	3.257
1928 г.	3.191	1933 г.	3.173
1929 г.	3.210	1934 г.	3.173

Урожай риса за время 1934—35 гг. (в 1.000 коку)

1925 г.	59.703	1930 г.	66.875
1526 г.	55.592	1931 г.	55.215
1927 г.	62.102	1932 г.	60.390
1928 г.	60.303	1933 г.	70.829
1929 г.	59.552	1934 г.	51.840

Производство сырого шелка по различным префектурам.

Префектуры	Количество продукции (в кан)	Стоимость, иен
Ямагата	330.806	15.405.797
Фукусима	373.401	17.693.074
Гумма	849.633	36.086.040
Сайтама	489.671	22.712.386
Яманаси	521.793	21.677.685
Нагано	2.143.652	97.977.060
Гифу	346.399	15.047.834
Сидзуока	226.960	10.184.458
Аичи	1.345.256	48.937.189
Мие	320.838	14.737.978
Киото	402.571	18.529.519

Хиого	319.643	15.382.522
Эхиме	272.246	11.762.417
Кумамото	308.322	15.126.442

Сбор коконов шелковичных червей.

Гг.	Число хозяйств.	Сбор коконов (в 1.000 кан)	Стоимость (в 1.000 иен)
1927 г.	2.103.508	90.862	496.932
1928 г.	2.165.265	93.849	551.679
1929 г.	2.216.602	102.093	655.000
1930 г.	2.216.027	106.463	304.212
1931 г.	2.119.817	97.072	275.557
1932 г.	2.064.539	89.550	296.791
1933 г.	2.091.187	101.164	500.129
1934 г.	1.995.492	87.131	203.849

Чайные деревья.

	1931 г.	1932 г.	1933 г.
Чайные плантации (в чобу)	26.874	27.250	27.495
Чайные сады „	11.234	11.101	10.990
Итого	38.109	38.352	38.485

Сбор зеленого чая.

Число хозяйств, занимающихся сбором листьев чайного дерева, в 1933 г, достигало 1.136.426, увеличившись по сравнению с предыдущим годом на 4.337.

В 1933 г. собрали следующие количества чая:

	Количество (кан)	Стоимость (иен)
Высшие сорта зеленого чая	76.470	676.055
Средние	9.265.764	18.468.066
Низшие	2.192.680	1.659.819
Байховые чаи	13.377	45.035
Порошкообразные и специальные чаи	48.285	360.304
Итого	11.596.576	21.209.279

Производство чая по префектурам.

Продукция 1933 г.	Количество (кан)	Стоимость (иен)
Сидзуока	6.357.771	9.783.951
Киото	467.332	1.519.826
Кагосима	439.780	1.177.325

	1934 г.	1933 г.	1-е полугодие 1935 г.
ЭКСПОРТ (иен)			
Азиатские владения СССР	11.366.000	12.090.000	9.173.754
Европейские владения СССР	1.638.000	1.575.000	146.970
Итого	13.005.000	13.675.000	9.320.724
ИМПОРТ (иен)			
Азиатские владения СССР	32.752.000	31.042.000	1.642.776
Европейские владения СССР	8.055	5.717.000	8.752.487
Итого	40.808.000	36.759.000	10.395.263
Всего	53.814.034	50.425.213	19.715.987

Главнейшие предметы экспорта и импорта.

ЭКСПОРТ (иен)	1934 г.	1933 г.	1-е полугодие 1935 г.
Рис и отруби	486.600	416.256	522.139
Сахар	289.059	592.375	54.615
Консервы и пищепродукты	142.879	127.772	64.363
Бумага	56.968	102.242	30.047
Жлезо	330.418	333.360	237.713
Железные изделия	941.510	1.183.167	504.660
Машины и части	1.129.499	1.328.985	559.050
ИМПОРТ (иен)			
Каменный уголь	2.670.301	1.938.552	618.137
Л е с	826.461	2.597.141	184.278
Ж м ы х и	4.181	32.856	—

Немалое значение в отношении японского экспорта в СССР имеет и зеленый чай, а в разделе импорта асбест, платина, руда.

В связи с соглашением о переуступке советских прав на б. Китайскую-Восточную железную дорогу из стоимости в 140 миллионов иен, 93.300.000.000 иен должны быть погашены японскими и маньчжурскими товарами.

Товарные выплаты, согласно условий, должны быть полностью выполнены в 3 года, причем этот период времени разделили на 6 полугодовых сроков.

Согласно сообщений маньчжурского финансового атташэ, на конец первого срока, т. е. 22 сентября 1935 г., число заключенных контрактов на товарные поставки достигало 373 случая на общую сумму 50.560.000 иен.

Выполнение контрактов разделяется следующим образом:

На 1-й	полугодовой срок	13.859.000 иен
„ 2-й	„ „	14.012.000 „
„ 3-й	„ „	12.873.000 „
„ 4-й	„ „	4.576.000 „
„ 5-й	„ „	4.066.000 „
„ 6-й	„ „	1.172.000 „

За первый срок выплатили промышленникам и экспортерам в счет переуступки б. КВжд (СМжд) 11.799.750 иен;

В числе заказов на указанный срок отметили:

Машины	10.660.000 иен
Медные провода и кабели	7.034.000 „
Бобы и бобовое масло	6.386.000 „
Канаты	4.706.000 „
Ц е м е н т	4.614.000 „
Суда	3.365.000 „
Ткани	1.189 „
Зеленый чай	2.180.000 „
Обручи и листовое железо	2.006.000 „
М у к а	1.359.000 „
Искусственный шелк	1.302.000 „
Прочие	4.047.000 „

НАРОДНОЕ ХОЗЯЙСТВО.

1. Земледелие.

Рассматривая данные последних десяти лет, отмечаем планомерное увеличение рисопосевов, в то время как площадь огородов с 1925 на 1929 гг. показывала сокращение, после чего опять отметили увеличение возделанной под огороды земли.

Среднее по всей Японии отношение возделанной земли к общей площади страны равно 16%, наивысшее, 29%, находится в районе Канто (Восточная Япония), а на Хоккайдо отмечают наименьшую норму — 10%.

Население страны, занимающееся земледелием, согласно проверки 1933 г. составляло 73% всего народа. По наблюдениям последних 10 лет, отношение крестьянства к прочим сословиям населения постепенно сокращается за счет увеличения рабочих и проч. профессий, связанных с промышленностью.

Рассмотрим крестьянство Японии, разделяя его на 3 группы: собственников земли, обрабатывающих арендованные поля и крестьян, имеющих известное количество земли, но дополнительно арендующих поля: (в 1.000 хозяйств)

Гг.	Собственники	Арендующие	Собственники, арендующие дополнительно.	Итого
1929 г.	1.737	1.478	2.359	5.575

Пуговицы	9.648	7,749	4,734
Различные украшения	10.086	8.367	6.016
Бумага	20.650	17.687	11.562
Цемент	8,038	7.395	3.252
Керамические изделия	41.877	35.634	19.328
Стекло и стекляные изделия	19.454	15.327	11.209
Железные изделия	35.277	26.897	17.951
Резиновые шины	9.995	8.839	4.662
Машины и части	57.777	25.857	24.933
Зонтики	1.365	1.259	998
Щетки	5.246	4.453	2.479
Игрушки	30.386	26.375	4.011
Прочие тораропродукты	513.908	397.334	116.574

Импортные товаропродукты.

(в 1.000 иен)

Наименование	1934 г.	1933 г.	1935 г.
Рис и отруби	661	11.521	292
Пшеница	40.741	44.384	24.509
Бобы	51.968	50.345	39.867
Яйца	1	17	—
Сахар	9.679	12.794	6.754
Мясо	6.877	5.267	2.821
Сырье маслобойных заводов	25.257	23.293	24.095
Каучук	52.338	3.858	3.205
Азотнокислая сода	3.494	29.685	26.875
Сернистый аммоний	13.807	9.421	15.837
Фосфорная руда	16.677	15.374	9.014
Хлопок и вата	731.425	604.847	2.790
Жмыхи	42.052	41.181	27.090
Растительное волокно	27.462	23.137	424.889
Овечья шерсть	186.455	164.192	96.174
Каменный уголь	47.193	36.657	23.623
Руда	27.806	22.172	17.012
Лес	40.183	40.584	27.542
Отруби	8.885	6.054	3.282
Кожа	16.320	13.545	9.421
Выделанная кожа	4.830	3.933	2.317
Животный жир	3.380	3.412	1.669
Каустическая и проч.	4.356	5.264	2.871
Краски	9.147	8.060	4.027
Шерстяная пряжа	1.708	3 021	605
Пульпа	44 256	27.066	32.389

Чугун	26.528	25.252	21.639
Рельсы и части	422	346	200
Прочие предметы из железа	144.613	111.045	101.927
Аллюминий	12.577	10.233	9.652
Свинец	17.903	11.902	8.918
Олово	15.317	10.671	5.956
Цинк	7.228	7.462	3.786
Нефть	325	47	49.371
Газолин	33.359	34.773	65
Бумажная материя	952	2.954	598
Шерстяные ткани	5.199	7.213	2.649
Печатные издания	5.657	3.669	—
Автомобили и части	32.302	13.871	17.697
Электрические машины и трансформаторы	1.309	1.799	1.071
Прочие машины и части	96.713	70.859	54.686
Прочие товаропродукты	460.169	396.042	—.

Экспорт — импорт золота, серебра.

(В 1.000 иен по оффициальной цене)

	Экспорт	Импорт	Всего	Перевес экспорта	Перевес импорта
1928 г.	—	409	409	—	409
1929 г.	—	462	462	—	462
1930 г.	308.634	9.042	317.677	299.591	—
1931 г.	419.834	9.054	428.888	410.779	—
1932 г,	112.701	6.112	112.707	112.695	—
1933 г.	20.925	—	20.925	20.925	—
1934 г.	6		6	6	
1935 г. (1-е полугодие)	75.285	860	75.284	—	—

Японо-Советская торговля.

Согласно оффициальных цифр министерства финансов, японо-советская торговля за 1934 года выразилась в итоге 53.814.034 иен.

Экспорт в СССР, по сравнению с данными предыдушего года, сократился на 650.000 иен, а импорт, наоборот, возрос на 4.048.000 иен.

В нижепомещенной таблице включены показатели ввоза в Японию морепродуктов, нефти и каменного угля, которые были добыты японскими промышленниками на территории СССР на предоставленных японцам концессиях. Эти данные не заключены в оффициальных цифрах Торгпредства СССР, почему итоги в значительной степени расходятся.

Австрия	77	2.086
Голландия	9.669	2.919
Швеция	3.211	12.319
Норвегия	1.929	11.360
СССР	146	8.752
Испания	1.515	2.493
Дания	575	304
Турция	2.269	843
СЕВЕРНАЯ АМЕРИКА	233.867	487.280
США	229.932	453.385
Канада	3.927	33.892
ЦЕНТРАЛЬНАЯ АМЕРИКА	18.855	3.338
Мексика	2.079	2.235
Куба	4.195	545
Сальвадор	23	22
Панама	1.937	4
Панама (Зона канала)	460	34
Гватемала	900	53
Гондурас	1.702	—
ЮЖНАЯ АМЕРИКА	39.845	14.878
Перу	3.896	4.337
Чили	3.279	3.274
Аргентина	15.116	5.239
Бразилия	1.903	782
Уругвай	2.064	977
Венецуэла	2.051	15
Колумбия	7.090	27
АФРИКА	89.915	41.913
Египет	25.763	31.999
Французское Сомали	2.205	349
Кения, Уганда, Танганайка	11.985	1.815
Португальская Восточная Африка	1.817	695
Французское Марокко	12.404	163
Нигерия	1.670	—
Англо-Египетский Судан	6.147	801
Южная Африка	15.100	2.438
АВСТРАЛИЯ И ОКЕАНИЯ	42.225	126.798
Австралия	33.682	118.124
Новая Зеландия	4.665	5.149
Гавai	3.036	50

Повторный импорт		18.861
ИТОГО, включая прочее	1.173.428	1.344.239

Экспорт главнейших товаропродуктов Японии. (в 1.000 иен)

Наименование	1934 г.	1933 г.	1935 г. (1-е полугодие)
Рис и отруби	8.420	2.124	4.424
Бобы	9.051	7.161	3.150
Водная продукция	16.473	10.302	7.802
Пшеничная мука	28.452	34.955	2.792
Чай	4.557	8.450	3.136
Сахар	13.532	14.909	9.174
Пиво	5.535	7.684	3.432
Агар-агар	3.215	3.199	25.791
Консервы и провизия	50.304	46.984	21.981
Порошок от насекомых	7.447	6.350	1.550
Очески пряжи	1.822	1.304	680
Каменный уголь	10.376	14.158	4.865
Лес	23.915	18.638	11.197
Растительный жир и масло	12.291	8.209	15.400
Ментоловое масло	1.838	2.007	935
Рыбий и кетовый жир	3.306	2.529	2.467
Камфора	4.603	4.445	2.542
Ментол	4.557	5.284	2.836
Шелковая пряжа	286.794	390.901	158.361
Хлопчато-бумажная пряжа	23.485	15.712	17.240
Железо	53.029	34.666	29.106
Латунь и бронза	7.817	5.498	—
Соломенные ленты для шляп	8.125	7.205	2.213
Мыло	3.541	3.203	2.200
Спички	2.929	3.249	1.798
Шелковые ткани и ткани из искусственного шелка	190.972	140.927	—
Хлопчато-бумажные ткани	492.351	383.215	71.746
Шерстяные ткани	29.849	12.377	39.359
Бумажные одеяла	5.380	3.662	—
Шелковые платки	4.308	2.464	1.972
Бумажные полотенца	7.216	6.041	3.259
Трикотажные изделия (хлопч.-бум.)	31.844	31.191	—
Носки и чулки	12.328	9.080	—
Шляпы	17.860	13.927	7.219

Филиппинские о-ва	36.469	18.890
Сиам	28.048	1.540
Сирия	11.699	68
Ирак	17.165	26
ЕВРОПА	227.772	295.623
Англия	109.269	70.036
Франция	38.318	18.299
Германия	19.677	109.583
Бельгия	9.675	17.226
Италия	9.579	3.461
Швейцария	307	10.925
Австрия	198	3.542
Голландия	17.882	3.652
Швеция	6.113	21.140
Норгвегия	2.828	14.279
СССР	1.638	8.055
Испания	1.749	2.851
Дания	1.262	1.657
Турция	2.194	1.973
СЕВЕРНАЯ АМЕРИКА	407.614	823.476
США	398.928	769.359
Канада	8.666	54.093
ЦЕНТРАЛЬНАЯ АМЕРИКА	43.295	856
Мексика	4.009	189
Куба	9.985	32
Сальвадор	2.289	1
Панама	1.827	47
(Зона канала)		
Панама	4.249	19
Гватемала	2.275	47
Гондурас	1.166	4
ЮЖНАЯ АМЕРИКА	61.457	23.962
Перу	6.879	1.822
Чили	7.439	3.438
Аргентия	20.013	12.128
Бразилия	3.064	3.291
Уругвай	6.964	2.630
Венецуэла	1.969	35
Колумбия	9.004	41
АФРИКА	182.396	79.573

Египет	72.988	46.259
Французское Сомали	4.090	85
Кения, Уганда, Танганайка	22.328	15.188
Португальская Восточная Африка	8.821	1.116
Прочие страны Африки	2.213	4.915
Французское Морокко	19.075	505
Нигерия	2.430	40
Англо-Египетский Судан	9.428	1.315
Южная Африка	29.539	8.233
АВСТРАЛИЯ И ОКЕАНИЯ	79.885	214.295
Австралия	64.461	197.757
Новая Зеландия	8.587	11.594
Гаваи	5.526	153
Повторный импорт		32.723
ИТОГО, включая прочие	2,171.924	2,282.530

Экспорт и импорт Японии по различным странам за 1-е полугодие 1935 года.

АЗИЯ	630.149	456.038
Маньчжу-Ди-Го	59.635	105.883
Квантунгская область	146.040	13.506
Китай	84.768	59.175
Гонконг	24.428	959
Британская Индия	128.142	190.952
Цейлон	5.411	1.441
Сингапур	23.838	20.937
Борнео	240	4.131
Голландская Ост-Индия	68.493	34.978
Индо-Китай	1.831	7.066
Азитские владения СССР	9.173	1.642
Филиппинские о-ва	22.588	10.770
Сирия	5.502	17
Ирак	11.169	5
ЕВРОПА	118.568	195.130
Англия	49.531	42.688
Франция	23.914	11.003
Германия	10.259	71.302
Бельгия	6.224	15.153
Италия	4.247	1.861
Швейцария	201	6.320

Правительство Японии в настоящее время стремится к созданию равновесия торговли, по всеми заграничными странами. Проэктировали компенсировать недостаток экспорта в одну страну превышением его в другую, принадлежащую к тому же финансовому блоку, напр. за счет чрезмерного импорта из Канады повысить экспорт в Южную Африку, т. к. эти страны принадлежат к блоку Великобритании.

Подобное разрешение вопроса было в значительной степени осложнено выраженными позициями отдельных государств, особенно когда между рассматриваемыми странами нет прямой политической и экономической связи.

Таким образом, пришлось отдать предпочтение плану непосредственного урегулирования вопросов торговли с каждой страной. И если кака-либо держава станет избегать покупать японские товары по той или иной причине, постановили ограничить импорт из данного государства.

Так возник закон покровительства внешней торговли, который был утвержден на сессии парламента в мае 1934 года.

Указанный закон заключает лишь 2 положения:

1. При наличии правительственного постановления, пересматривают законоположения о пошлинах на импорт из той или иной страны.
2. На установленные товары правительство может поднимать или убавлять пошлины, запрещать или ограничивать экспорт.

Несмотря на предпринимаемые меры защиты японских рынков заграницей, в некоторых странах до сих пор отмечали явно выраженное отвержение японских товаров. В результате. министр иностранных дел, г. Хирота, в конце марта 1934 г. поднял вопрос в правительстве Японии на тему о рациональных и эффективных мерах против препятствий различных государств против нашего экспорта.

В первую очередь была разобрана проблема ненормальных торговых отношений с Канадой. Как известно, правительство этой страны проэктировало наложение дополнительной пошлины на японские товары, ссылаясь на низкий прожиточный минимум японских рабочих. В результате должно было получиться еще дальнейшее снижение импорта из Японии.

Япония была поставлена в положение необходимости отказываться в свою очередь от продуктов Канады.

Для успешного проведения коммерческой войны с Канадой потребовалось срочное разрешение проблем снабжения лесоматериалами, пульпой, свинцом и пшеницей из других государств, в первую очередь из Маньчжу-Ди-Го.

Подобные нежелательные трения могут произойти и с другими странами, причем, напр. в случае Канады, отрицательное влияние коммерческих несогласий и ограничений ложится тяжелым бременем не только на Японию, но и на враждующую сторону.

Рассморим итоги внешней торговли Японии за последние восемь лет: (в 1.000 иен)

Годы	Экспорт	Импорт	И т о г о	Перевес импорта
1926 г.	2.044.728	2.377.484	4.422.212	332.756
1527 г.	1.992.317	2.179.153	4.171.470	186.836
1928 г.	1.971.955	2.196.314	4.168.269	224.359

1929 г.	2.148.619	2.216.240	4.364.859	67.621
1930 г.	1.469.852	1 546.070	3.015.923	76.219
1931 г.	1.469.852	1.546.071	2.382.654	88.692
1932 г.	1.409.992	1.432.461	2.841.453	21.468
1933 г.	1.861.045	1.917.220	3.778.266	56.174
1934 г.	2.171.925	2.282.531	4.454.456	110.606

Примечание: Цифровые данные указанной таблицы включают экспорт и импорт Кореи и Формозы.

Внешняя торговля Японии за 1-е полугодие 1934 и 1935 гг. (в 1.000 иен)

1-е полугодие:	1 9 3 5 г.	1 9 3 4 г.
ЭКСПОРТ	1.173.428	1,003.688
ИМПОРТ	1.344.239	1.158.621
ПЕРЕВЕС ИМПОРТА	170.810	154.933

Индекс заграничной торговли Японии за 1-е полугодие с 1929 по 1935 гг., при основании 100 за 1-е полугодие 1928 г, представляется в следующих цифрах:

	Экспорт	Импорт	Всего
1929 г.	108,0	111,7	110,0
1930 г.	93,0	99,2	96,5
1931 г.	105,6	103,1	104,1
1932 г.	108,9	119,2	114,6
1933 г.	130,8	105,4	116,7
1934 г.	158,6	107,6	130,3
1935 г.	182,0	117,5	146,1

Экспорт и импорт Японии по различным странам за 1934 г.

(В 1.000 иен)

	Экспорт	Импорт
АЗИЯ	1,169.593	812.019
Маньчжу-Ди-Го	107.151	164.209
Квантунгская область	259.868	27.222
Китай	117.062	119.562
Гонконг	33.497	1.481
Британская Индия	238.220	239.671
Цейлон	19.790	2.283
Сингапур	63.320	63.320
Борнео	299	7.303
Голландская Ост-Индия	158.450	63.464
Индо-Китай	2.654	10.620
Азиатские владения СССР	11.366	32.752

чем прежде.

Затем приступили ко 2-й очериди благоустройства города, для чего было ассигновано 55.000.000 иен.

1-го октября 1932 года близь лежащие к гор. Токио пригороды были присоединены к столице Японии. Увеличение Токио охватило 15 уездов и 82 города, расположенных в непосредственной близости к прежней границе Токио.

Пространственно Токио увеличился в 7 раз, а в отношении населения сразу на 2.085.530 человек. Таким образом население Токио достигло внушительной цифры 5.311. 930 чел. и японская столица выдвинулась на 2-е место среди прочих городов мира по числу населения и на 5-е место по площади.

Осака.

В 9 3 г. основания Японской Империи (313 лет Рождества Христова) во время Императора Нинтоку столица Японии была перенесена в город Осака.

В то время Осака имел тесные торговые сношения с Китаем и, без сомнения, являлся самым передовым городом Японии во всех отношениях.

Особое экономическое развитие рассматриваемого гигантского города началось со времени Реставрации Мейдзи, когда страна встала на путь индустриализации, развития внешней торговли и усовершенствования по всем отраслям народного хозяйства.

В 1889 г. Осака разделялся на 4 участка: Северный, Южный, Восточный и Западный, но к 1-у апреля 1987 г. постановили присоединить 28 близь лежащих городов и селений, после чего громадный город был выделен в особое губернаторство, наравне с Токио и Киото.

Русско-Японская и Великая войны отразились на жизни Осака весьма значительно. Будучи индустриальным центром Японии, естественно, увеличение фабрик и заводов весьма расширили деятельность различных промышленников, проживающих в Осака, и город в целом значительно развился.

В результате интенсивного роса, 1-го апреля 1925 г. провели 2-е увеличение территории города, после чего население Осака достигло внушительной цифры 2,720.000 человек и площадь 187 кв. километров.

ВНЕШНЯЯ ТОРГОВЛЯ.

В среднем, почти кажлый год в заграничной торговле Японии отмечают перевес импорта, и страна должна принимать самые энергичные меры, чтобы противиться различным мерам прочих государств, направленным на препятствие экспорта японских товаров.

Рассматривая торговлю Японии по различным странам, отмечаем некоторые рынки, где японцы продают больше товаров, чем покупают, но, с другой стороны, имеются также и такие государства, которые приобретают лишь незначительное количество изделий Японии, в то время как японские импортеры ввозят в свою страну громадные количества продуктов этих государств.

Последнее время в Японии постепенно прививается идея урегулирования внешней торговли на принципах справедливости и равновесия экспорта и импорта по различным странам, на основании которого предполагают воздерживаться от покупок в государствах, избегающих японские товары, и увеличить закупки в тех странах, которые являются постоянными и значительными потребителями изделий Японии.

Рассмотрим отношение японского экспорта и импорта в различные страны в средних показателях за последние 5 лет (начиная с 1930 г.), причем за основание — 100 — примем импорт Японии, и индекс экспорта выразится следующим образом:

Страны	Индекс экспорта Японии.
Маньчжу-Ди-Го	49,9
Китай	125,8
Британская Индия	101,6
Голландская Индия	205,7
Филлипины	216,5
Англия	98,0
Германия	13,2
Италия	148,2
США	91,4
Аргентина	189,0
Восточная Африка	289,1
Новая Зеландия	359,3
Квантунгская область	497,0
Гонконг	4.559,8
Сингапур	100,1
Азиатские владения СССР	47,2
Сиам	105,3
Франция	156,7
Бельгия	50,7
Голландия	354,3
Канада	25,4
Египет	185,3
Австралия	25,3
Гаваи	4.196,3

Таким образом, страны покупающие японские товары на сумму значительно большую, чем покупки Японии, сделанные в них, суть следующие: Гонконг, Гаваи, Квантунгская область, Новая Зеландия, Восточная Африка, Филиппины и Голландская Ост-Индия. Затем следуют Аргентина, Египет, Франция, Италия и Китай, которые тоже покупают больше товаров, чем продают Японии.

В число стран, пользующиеся японскими товарами в значителано меньшей степени, чем Япония импортирует предметы промышленности этих стран, следует заключить: Германию, Австралию, Канаду, Азиатские владения СССР, Маньчжу-Ди-Го и Бельгию. За ними следуют: США, и Англия.

Лишь в отношении Британской Индии и Сингапура можно сказать что равновесие экспорта и импорта установлено вполне нормально.

конг, Нанкин)
„ США. Нью Иорк, Сан Франциско, Гонолулу)

4. Консульства.

В Англии. (Ливерпуль)
„ США. (Лос Ажелос, Портланд, Сиатл, Чикаго, Нов. Орлеан)
„ Франции. (Лион, Марсель)
„ Италии. (Милан)
„ Швеции. (Стокгольм)
„ Индокитае. (Сайгон)
„ Сиаме. (Банкок)
„ Бразилии. (Рио-де-Жанейро)
на Филипинах. (Давао, Медано)
„ Яве. (Соробая)
в Аргентине. (Буэнос Айрес)
„ СССР (Одесса, Благовещенск, Новосибирск, Петропавловск на Камчатке, Оха)
„ Маньчжу-Ди-Го. (Цицикар, Антунг, Мулин, Чаньдятон, Чихон, Хайлар, Кинчжоу, Пограничная, Жехэ)
„ Китае. (Кинкианг, Сичанг, Чангша, Амой, Сватоу, Чжаши, Тучжоу, Чжангчит)
В Индии. (Бомбей, Коломбо)
„ Египте. (Порт Саид)
„ Южной Африке. (Капштадт)
„ Канаде. (Ванкувер, Оттава)
„ Куба. (Гаванна)
„ Панама.

5. Почетные консула.

В США. (Бостон, Филадельфия, Мобиле, Сан Жуан, Гарвестон)
„ Австрии. (Вена)
„ Боливии. (Ла Паз, Тринитад)
„ Бельгии. (Льеж)
„ Бразилии. (Манао)
„ Чили. (Икике)
„ Коломбии. (Богота)
„ Чехо-Словакии. (Прага)
„ Португалии. (Лиссабон, Опорто)
„ Венецуэла. (Карақас)
„ Австралии. (Мельбурн, Брисбен)
„ Англии. (Кардиф, Маньчестер, Глазго)
„ Южной Африке. (Дурбан)
„ Франции. (Бордо, Тунис, Касабланка)
„ Голландии. (Роттердам, Амстердам)
„ Швейцарии. (Базель)
„ Албании. (Тирана)
„ Доминиканской Республоике. (Санто Доминго)
„ Гаити. (Порт-о-Принц)
В Дании. (Копенгаген)
„ Эквадоре. (Кито)
„ Греции. (Салоники)
„ Люксембурге.
„ Норвегии. (Осло)
„ Перу. (Трухильо, Арекипа)
„ Испании. (Барселона)
„ Швеции. (Готтенборг)
„ Новой Зеландии. (Веллингтон)
„ Гибралтаре
„ Германии. (Мюнхен, Бремен)
„ Италии. (Генуя, Неаполь, Венеция)
„ Венгрии. (Будапешт)
„ Юго-Славии. (Белград)

ОБЩИЙ ОБЗОР КРУПНЫХ ГОРОДОВ ЯПОНИИ.

Крупными городами в Японии считают те, население которых достигает по крайней мере 30.000 жителей. Число таких городов в августе месяце 1935 года равнялось 127, значительно увеличившись с 1889 г., когда только что было введено постановление о минимуме населения для того, чтобы город (Мачи) мог считаться „крупным городом“ (Си). Минимум, принимавшийся до этого времени, разнялся 25.000 чел.

Проследим рост числа крупных городов с 1889 года:

1889 г.	39	1932 г.	109
1898 г.	52	1932 г.	113
1907 г.	66	1933 г.	122
1913 г.	69	1934 г.	125
1920 г.	83	1935 г.	127
1925 г.	101		

Предполагают, что к концу 1935 г. в префектуре Ямагучи появится еще один город с населением в 30.000 чел., именно город Токуяма.

Помимо исключительно быстрого увеличения населения японских городов, отметили также и их значительный рост в отношении площади земли, занимаемой ими. Рост населения больших городов показан в нижепомещенной таблеце:

	Число больших городов	Городское население	Население деревень и мелких городов.	% отношение горожан
1920 г.	83	10.096.000	45.866.000	18,0%
1925 г.	101	12.896.000	46.839.000	21,0%
1930 г.	109	15.444.000	49.005.000	24,0%
1934 г.	125	21.647.000	46.547.000	31,6%

В Японии также принято выделять 6 наиболее значительных по величине городов в особую группу, в настоящее время к которой принадлежат следующие города: Токио (население 5.663.050 чел.), Осака (2.722.700), Киото (1.052.500), Нагоя (1.121.305), Кобе (853.800) и Иокогама (703.900).

Токио.

Землетрясение 1923 года и последовавшие пожары разрушили значительную часть Токио. Немедленно же город был об'явлен на военном положении, и непосредственно после окончания землетрясения правительство и неселение приступили к реконструкции города.

Е. В. Император Японии пожертвовал на выполнение плана восстановления столицы 10.000.000 иен из своих личных средств.

Бюджет 1-й очереди равнялся 826.000.000 иен, а к 26, марта 1930 года состоялась полная реконструкция Токио, после которой столица стала еще более оборудованной,

„ „ „ (Симоносеки)
„ „ „ (Нагасаки)
Почетный генконсул Румынии. (Осака)
Почетный консул Сиама. (Осака)
Почетный консул Сиама. (Кобе)
Почетный консул Сиама. (Нагоя)
Шведское консульство. (Осака)
Шведское консульство. (Кобе, Эдомачи, № 93)
Шведское консульство. (Дайрен, Коэнмачи)
Почетный вице-консул Швеции. (Симоносеки)
Почетный вице-консул Швеции. (Иокогама)
Почетный вице-консул Швеции. (Модзи)
Генконсульство СССР. (Кобе, Китано-чо, 4-чоме, № 95)
Генконсульство СССР. (Токио, Азабу-ку, Мамиана-чо, № 1)
Консульство СССР. (Фукуи-кен, Цуруга-мачи, Кавасаки)
Консульство СССР. (Хакодате, Фунами-чо)
Консульство СССР. (Дайрен, Коэн-чо)
Генконсульство СССР. (Сеул, Тейдо, № 15)
Консульство СССР. (Отару)
Испанское консульство. (Кобе, Китано-чо, 2-чоме, № 99)
Почетный вице-консул Испании. (Токио)
Почетный вице-консул Испании. (Иокогама)
Почетный консул Турции. (Осака)
Почетный консул Турции. (Иокогама)
Египетское консульство. (Кобе, Ямамото-дори. 2-чоме, № 28)
Консульство Гондураса. (Кобе)
Почетный генконсул Гондураса. (Токио)
Почетный консул Гондураса. (Иокогама)
Доминиканский почетный генконсул. Кобе, Хирима-чо, № 28)
Почетный генконсул Гватемалы. (Кобе, Нака-мачи, № 118)
Почетный консул Гватемалы. (Токио)
Почетный консул Гватемалы. (Иокогама)
Почетный консул Боливии. (Кобе)
Почетный консул Боливии. (Осака)
Почетный генконсул Боливии. (Иокогама)
Почетный консул Уругвая. (Кобе)
Почетный консул Уругвая. (Иокогама)
Почетный консул Парагвая. (Кобе)
Почетный консул Парагвая. (Токио)
Генконсульство Эквадора. (Иокогама, Ямасита-чо, № 25)
Почетный генконсул Люксембурга. (Токио)
Почетный консул Юго-Славии. (Осака)
Почетный консул Гаити. (Кобе)

Генконсульство Венецуэлы. (Токио)
Генконсульство Сальвадора. (Токио)
Консульство Панамы. (Иокогама, Ямасита-чо, № 60)
Почетный консул Эфиопии. (Осака)
Почетный консул Литвы. (Токио)
Почетный консул Эстонии. (Дайрен)
Почетный генеральный консул Никарагуы. (Токио)

Дипломатические представительства Японской Империи Заграницей.

1. Посольства.

В Англии. (Лондон)
„ Франции. (Париж)
„ Германии. (Берлин)
„ Италии. (Рим)
„ Бельгии. (Брюссель)
„ СССР. (Москва)
В Турции. (Истамбул)
„ С Ш А. (Вашингтон)
„ Бразилии. (Рио-де-Жанейро)
„ Маньчжу-Ди-Го. (Синьцзин)
„ Китае. (Пейпин)

2. Миссии.

В Швейцарии. (Берн)
„ Испании. (Мадрид)
„ Сиаме. (Банкок)
„ Канаде. (Оттава)
„ Мексике. (Мексико)
„ Перу. (Лима)
„ Аргентине. (Буэнос Айрес)
„ Коломбии. (Богота)
„ Афганистане. (Кабул)
„ Голландии. (Гаага)
„ Эквадоре. (Кито)
В Швеции. (Стокгольм)
„ Латвии. (Рига)
„ Польше. (Варшава)
„ Чехо-Словакии. (Прага)
„ Австри. (Вена)
„ Румынии. (Букарест)
„ Португалии. (Лиссабон)
„ Персии. (Тегеран)
„ Куба. (Гаванна)
„ Люксембурге

3. Генконсульства.

В Англии. (Лондон)
„ Германии. (Гамбург)
„ Индокитае. (Ханва)
„ Маниле.
„ Батавии.
„ Калькутте.
„ Австралии. (Сидней)
„ СССР. (Врадивосток, Хабаровск. Александровск на Сахалине)
„ Маньчжу-Ди-Го. (Маньчжурия, Харбин, Гирин, Мукден, Синьцзин)
„ Китае. (Тяньцзин, Сайнан, Циндао, Шанхай, Ханькоу, Фуджоу, Кантон, Гон-
В Сингапуре.
„ Египте (Александрия)
„ Бразилии. (Сан Пауло)
„ Швейцарии. (Женева)
„ Мексике. (Мексико)

Сеймей)

Бразильское генконсульство. (Иокогама, Ямасита-чо № 56)
Бразильское консульство. (Кобе, Кайган-дори, здание Шосен)
Почетный консул Бразилии. (Нагасаки)
Бельгийское консульство. Иокогама, Ямасита-чо № 92)
Почетный консул Бельгии. (Кобе)
Почетный консул Бельгии. (Нагасаки)
Бельгийское консульство. (Сеул, Нисидаймон-чо, 40)
Почетный консул Бельгии. (Осака, Минами-ку, Дзюнкей-чо, № 2)
Почетный вице-консул Бельгии. (Дайрен, Читосе-чо)
Германское консульство. (Иокогама, Ямасита-чо, № 51)
Германское генконсульство. (Кобе, Адзума-чо, № 115)
Германское консульство. (Дайрен, Янаги-чо, № 75)
Германское генконсульство. (Осака, Здание „Осак", № 803)
Греческое консульство. (Иокогама, Ямасита-чо, № 18)
Почетный консул Греции. (Кобе, Нанива-чо, № 26)
Почетный консул Греции. (Осака)
Голландское консульство. (Токио, Кодзимачи-ку, маруноучи, 3-чоме, № 8)
Голландское генконсульство. (Кобе, Акаси-мачи, № 32)
Голландское консульство. (Иокогама)
Почетный вице-консул Голландии. (Дайрен)
Голландское консульство. (О. Формоза, Тайхоку)
Почетный вице-консул Голландии. (Нагоя)
Почетный вице-консул Голландии. (Симоносеки)
Почетный вице-консул Голландии. (Сеул)
Британское генконсульство. (Иокогама, Ямасита-чо, № 174)
Британское генконсульство. (Сеул, Тейдо)
Британское генконсульство. (Кобе, Киомачи, здание „Кресент")
Британекое консульство в Токио. (Токио, Кодзимачи-ку, Эйраку-чо, 2-чоме, здание Промышленного банка)
Британское генконсульство. (Осака, Кита-ку, Созе-мачи, здание „Осака")
Британское консульство. (Нагасаки, Оура-мачи, № 6)
Британское консульство. (Симоносеки, Карато-мачи)
Британское консульство. (О. Формоза, Тансуй)
Британское консульство. (Дайрен, Эчиго-чо, №1)
Генеральное консульство Чили. (Токио, Кодзимачи-ку, Учисайвай-чо, здание „Осака")
Почетный консул Чили. (Кобе, Ямамото-дори, 2-чоме, № 6)
Генеральное консульство Кубы. (Кобе, Накаяматедори, 3-чоме, № 33)
Почетный консул Маньчжу-Ди-Го. (Модзи)
Почетный вице-консул. (Сингисиу)
Китайское генконсульство. (Кобе, Ямате-дори, 2-чоме)
Китайское генконсульство. (Иокогама, Ямасита-чо, № 135)

Китайское генконсульство. (Сеул)
Китайское консульство. (Сингисиу)
Китайское консульство. (Фузан)
Китайское консульство. (Гензан)
Китайское консульство. (Нагасаки)
Китайское консульство. (О. Формоза, Тайхоку)
Почетный консул Чехо-Словакии. (Токио, Киобаси-ку, Гинза 4-чоме, „Сейсейкан")
Почетный консул Чехо-Словакии. (Иокогама)
Почетный консул. (Осака)
Датское консульство. (Токио, Кодзимачи-ку, Маруноучи, Накадори, № 8)
Датское консульство. (Иокогама, Ямасита-чо, № 8)
Почетный консул Дании. (Осака, Кита-ку, здание „Умэдасиндо")
Почетный консул Дании. (Кобе)
Французское консульство. (Кобе, Ямамото-дори, 2-чоме, № 42)
Французское консульство. (Иокогама, Яматэ-чо, № 185)
Французское консульство. (Сеул)
Французское консульство. (Дайрен)
Почетный консул Финляндии. (Иокогама)
Почетный консул Финляндии. (Осака)
Почетный консул Финляндии. (Кобе)
Почетный вице-консул Финляндии. (Дайрен)
Итальянское консульство. (Иокогама, Яматэ-чо, № 32)
Итальянское консульство. (Кобе, Ямамото-дори)
Генконсульство Колумбии. (Иокогама, Негиси-мачи)
Мексиканское генконсульство. (Иокогама, Ямасита-чо, № 7)
Почетный консул Мексики. (Кобе, Кайган-дори, здание Шосен)
Почетный консул Норвегии. (Кобе, Нака-мачи, № 45)
Почетный вице-консул Норвегии. (Симоносеки)
Норвежское генконсульство. (Токио, Кодзимачи-ку, Маруноучи)
Почетный консул Норвегии. (Иокогама)
Почетный консул Норвегии. (Нагасаки)
Почетный консул Норвегии. (Дайрен)
Голландское консульство. (Токио)
Почетный консул Голландии. (Осака)
Почетный консул Голландии. (Иокогама)
Консульство Перу. (Иокогама, Яматэ-чо, № 19)
Консульство Перу. (Кобе, Ямамото-дори)
Почетный консул Португалии. (Токио)
Почетный вице-консул Португалии. (Киото)
Почетный консул Португалии. (Кобе)
Почетный вице-консул Португалии. (Модзи)
„ „ „ (Нагоя)
„ „ „ (Осака)

ТРУД.

В рабочем движении за текущий год можно отметить два основных направления: 1. некоторое стремление к отвлеченным вопросам, что несколько омрачает период затишья, наблюдавшийся после возникновения Маньчжурских событий, и 2. возврат к здоровому рабочему единению, не признающему отрицательных мер борьбы, напр. забастовок и т. п.

Легальные левые рабочие группировки не отличаются особой деятельностью, но лишь заинтересованы вопросом удержания своих организаций от развала, и стемятся к об'единению.

Образовались новые рабочие группировки, напр Нихон Родо Кумиай, которые, тем не менее не проявляют сколько либо мнтенсивной классовой борьбы.

Согласно справок социального департамента министерства внутренних дел, общее число рабочих союзов достигает 957, состоящих из 381.565 человек членов, что в процентном отношении ко всей рабочей массе Японии в 5.448.798 человек достигает лишь 7%.

По сравнению с данными 1930 г. года число союзов возросло на 15, но общее число членов сократилось на 3.048 человек.

Рассмотрим то же отношение за последние несколько лет:

	Общее число рабочих	Входящие в союзы	% отношение
1926 г.	4.641.681	284.739	6,1%
1927 г.	4.703.703	309.493	6,1%
1928 г.	4.824.780	308.900	6.5%
1929 г.	4.873.081	330.985	6,8%
1930 г.	4.713.002	354.312	7,5%
1931 г.	4.670.275	368.975	7.9%
1932 г.	4,860.276	277.625	7,8%
1933 г.	5.126.719	384.613	7,5%
1934 г.	5.764.277	387.964	6,7%

Посольства, миссии и консульства иностранных государств в Японии.

ПОСОЛЬСТВА:

Американское посольство. (Токио, Акасака-ку, Энокисака-мачи № 1)
Бразильское посольство. (Токио, Акасака-ку, Омоте-мачи, 3-чоме, № 2)
Бельгийское посольство. (Токио, Кодзимачи-ку, Симонибан-чо № 33)
Французское посольство. (Токио, Азабу-ку, Фдзими-чо, № 33)
Германское посольство. (Токио, Кодзимачи-ку, Нагата-чо, 1-чоме, № 14)
Итальянское посольство. (Токио, Сиба-ку, Мита, 1-чоме, № 28)

Британское посольство. (Токио, Кодзимачи-ку, Гобанчо, № 1)
Турецкое посольство. (Токио, Азабу-ку. Синрюдо-мачи, № 12)
Посольство Маньчжу-Ди-Го. (Токио, Азабу-ку, Сакурада-чо, № 50)
Полпредство СССР. (Тико, Азабу-ку, Мамиана-чо, № 1)
Китайское посольство. (Токио, Азабу-ку, Иигура-мачи, 6-чоме, № 14)

МИССИИ:

Аргентинская миссяя. (Токио, Акасака-ку, Синсака-мачи, № 67)
Канадская миссия. (Токио, Акасака-ку, Омоте-мачи, 3-чоме, № 16)
Чехо-Словацкая миссия. (Токио, Азабу-ку, Касуми-чо № 22)
Миссия Кубы. (Токио, Азабу-ку, Синрюдо-мачи № 11)
Миссия Чили. (Токио, Кодзимачи-ку, Учисайвай-чо, 1-чоме, № 3, здание „Осака")
Миссия Дании. (Токио, Кодзимачи-ку, Маруноучи Накадори, № 8)
Финляндская миссия. (Токио, Азабу-ку, Тансу-мачи, № 62)
Голландская миссия. (Токио, Сиба-ку, Сакаэ-мачи, № 1)
Мексиканская миссия. (Токио, Кодзимачи-ку, Нагата-чо, 2-чоме, № 21)
Норвежская миссия. (Токио, Кодзимачи-ку, Маруноучи, 3 чоме, № 2)
Польская миссия. (Токио, Азабу-ку, Хиро-чо, № 3)
Португальская миссия. (Токио, Кодзимачи-ку, Саннен-чо, № 1)
Миссия Перу. (Токио, Акасака-ку, синсака-мачи, № 13)
Иранская миссия. (Токио, Азабу-ку, Займоку-эо № 55)
Румынская миссия. (Токио, Азабу-ку. Займоку-чо, № 55)
Сиамская миссия. (Токио, Акасака-ку, Даймачи, № 2)
Шведская миссия. (Токио, Азабу-ку, Займоку-чо, № 63)
Швейцарская миссия. (Токио, Кодзимачи-ку, Симонибан-чо, № 1)
Испанская миссия. (Токио, Азабу-ку, Ичибей-чо, 1-чоме, № 2)
Уругвайская миссия. (Токио, Кодзимачи-ку, Учисайвай-чо, 1 чоме, № 3)
Афганская миссия. (Токио, Сибуя-ку, Аоба-чо, № 7)
Миссия Колумбии. (Токио, Кодзимачи-ку, Маруноучи, 2-чоме, здание „Юзен")

КОНСУЛЬСТВА:

Американское генеральное консульство. (Токио, Акасака-ку, Энокизака-мачи, № 1)
Американское генеральное консуяьство. (Сеул, Тейдо, № 10)
Американское консульство. (Кобе, Адзума-мачи, № 10)
Американское консульство. (Иокогама, Ямасита-чо, № 6)
Американское консульство. (Нагасаки, Оура Кайган-дори)
Американское консульство. (Нагоя, Хигаси-кў, Нуноике-мачи)
Американское консульство. (Дайрен, Окумачи, № 12)
Американское консульство. (О. Формоза, Тайхоку, Тайшо-гай)
Аргентинское генеральное консульство. (Кобе, Кайган-дори, здание „Сиосен")
Аргентинское консульство. (Иокогама, Нака-ку, Хон-чо, 2-чоме)
Почетный консул Аргентины в Осака. (Осака, Кита-ку, Созе-мачи, здание „Осака")
Почетный вице-консул Аргенаины. (Нагоя, Ниси-ку, Ирибуне-мачи)
Почетный консул Аргентины. (Токио)
Почетный генконсул Австрии (Токио, Кодзимачи-ку, маруноучи, єдание Тейкоку

Учебники	1.809	1.948	2.111	2.139	1.527
Литература	2.431	2.652	2.271	2.229	2.661
Языковедение	1.114	862	813	780	788
История	470	455	421	309	337
Биография	532	302	284	258	258
География	986	708	741	769	787
Путешевствия	77	47	39	84	72
Математика	202	87	80	110	117
Физика	448	458	461	422	434
Технология	724	387	373	574	427
Медицина	809	771	695	703	731
Промышленность	1.166	435	384	473	253
Новости	151	73	45	80	44
Военное дело	407	156	162	127	144
Живопись	907	844	712	817	670
Музыка	888	915	1.009	1.169	1.130
Искусство	67	94	64	86	80
Словари	134	151	138	137	89
Брошюры	134	18	26	24	88
Критика	—	—	8	28	17
Семейные издания	1.163	1.120	672	785	773
Универсальные издания	552	462	583	583	770
Разные	2.415	2.547	2.510	2.510	3.201

Библиотеки.

Число библиотек Японии, их абонементов, наличие книг и средняя ежедневная посещаемость показаны в нижеследующей таблице:

	Число библиотек	Книги в 1.000 томов	Абонименты	Средняя дневная посещаемость
Правительственная	1	469	429.000	1.317
Общественные	3.296	6.820	19.604.000	22.000
Частные	1.389	3.274	4.733.000	13.000
Всего	4.686	10.563	24.766.000	20.000

Общественные организации.

Согласно статистических данных социального департамента, в 1935 году по всей Японии имелось значительное число различных общественных организаций, отображенных в нижепомещенной таблице:

Связь и об'единение	55 учреждений	Вспомоществование	17 учреждений
Проверка и исследование	35 „	Районные комиссии	70 „
Воспитательные	6 „	Районные благотворительные комиссии	1.010 учреждений

Покровительство детей:		Приюты образования дегенеративных детей	1 учреждений
Акушерки	391 „	Приюты для детей лабого здоровия	6 „
Родильные приюты	45 „	Убежища больных детей	17 „
Ясли	19 „	Образовательные организации для детей неимущих	38 „
Дневные ясли	589 „		
Кормилицы	127 „		
Советники по воспитанию детей	121 „		

Приюты.

Обыкновенные приюты	199 учреждений	Приюты для увечных	36 учреждений
Приюты-санатории	113 „	Помощь семьям военных	248 „

Медицинские и прочие учреждение.

Госпиталя	142 учреждений	ные дома	59 учреждений
Амбулатории	321 „	Лечебные пункты для выздоравливающих	31 „
Особые амбулатории	61 „	Временные детские приюты-больницы	1 „
Психиатрические госпиталя	44 „	Школы дефективных и слабоумных детей	6 „
Туберкулезные санатории	29 „	Приюты-лечебницы для глухонемых	4 „
Приюты прокаженных	12 „		
Курсы сиделок	15 „		
Исправительные дома для детей	11 „		
Исправительно-образователь-			

Учреждения общественной помощи.

Малые жилые дома	641 учреждений	Столовки	70 учреждений
Ночлежные дома	152 „	Общественные бани	167 „
Общественные базары	291 „	Общественные ломбарды	314 „

Помощь безработным.

Обучение ремеслу	72 учреждений	Руководящие органы ремесленников	учреждений 5 „
Учреждения для поощрения изучения ремесел	462 „		

Прочие.

Помещения для ожидания	146 учреждений	Покровительство больным	12 „
Покровительство женщин	23 „	Пропаганда санитарии	89 „
Покровительство матерей и детей	13 „	Вспомоществование на похороны	6 „
Покровительство отцов и детей	1 „	Прочие	106 „
		Итого	6.578

народного просвещения с момента ее учреждения в 1879 году. Число академиков равно 100 чел.

Состав академиков разделен на две группы, одна из которых содержит литераторов, экономистов и специалистов по различным общественным наукам, в то время как другая — физиков, химиков, биологов и т. д.

Обе группы имеют право избирать из своей среды по 2 представителя, получающие пост депутатов Верхней палаты указом Е. В. Императора Японии.

Ежемесячно, за исключением августа и сентября, издают особый вестник, посвященный жизни академии.

Литературное общество.

В начале 1931 года состоялось первое совещание учредительного кружка, стремившегося создать общество поощрения японской литературы. Профессор Д. Сакураи внес в парламент проэкт создания о-ва, который был немедленно же утвержден. Ассигновали 1.500.000 иен единовременно и установили ежегодную субсидию в 700.000 иен, заключенную в бюджет министерства народного просвещения.

Последовали добровольные пожертвования частных лиц, выразившиеся в итоге 20.000.000 иен.

Почетным президентом Японского литературного о-ва является Е. В. принц Чичибу.

Экспериментальные станции.

В 1913 году в парламенте возник вопрос об учреждении ряда экспериментальных станций по различным отраслям науки, но ввиду скорого закрытия парламента вопрос оставался неразрешенным.

Мировая война повлекла недостаток многих продуктов химической промышленности, и для разрешения возникших проблем министерство земледелия учредило первую станцию для изучения и проведения опытов в связи с получением тех или иных необходимых Японии химикалиев.

6-го марта 1916 года утвердили законоположения, касающиеся выдачи субсидий правительственным экспериментальным станциям, а до конца 1922 года сумма выданных субсидий достигала 1.650.000 иен. Взносы от пожертвований частных лиц по март 1917 года превысили 2.180.000 иен.

Научный совещательный орган.

По предложению академи наук императорским указом был учрежден специальный орган, рассматривающий и рещающий те или иные научные вопросы.

Этот орган непосредственно подчинвется министерству народного просвещения и проводит значительные и разносторонние исследования во всевозможных отраслях науки.

По возникновении каких-либо вопросов научного характера все министерства обращяются в рассматриваемый орган, и после проведения исследований получают требуемые сведения, проверенные и рассмотренные лучшими учеными-специалистами страны.

Число советников превышает 100 человек.

Профессура Японии.

С мая 1888 года по март 1935 год в Японии успешно защитили диссертации и стали профессорами 10.134 человек.

Профессоров разделяют на две категории: 1-я заключает исключительно профессоров Императорского университета по 1925 год, т. к. до этого времени другие университеты не обладали правом подготовки профессоров. Затем последовали в этом направлении реформы, согласно которых профессора стали выходить из всех университетов страны. Последние принадлежат ко второй, так наз. новой категории.

Состав профессоров по специальностям:

Факультеты.	1-я категория.	2-я категория.
Юридический	67	222
Медицинский	6.911	844
Технологический	54	36
Литературный	102	197
Физико-математический	347	182
Агрономический	204	114
Ветеринарный	8	25
Лесной	14	39
Экономический	43	—
Коммерческий	14	—
Социальный	2	—
Итого	8.087	2.047

Книги, журналы, газеты.

По справкам полицейского департамента в 1934 году было издано 26.331 различных книг, большенство которых имело отношение к общеобразовательным вопросам (2.798 заглавий), литературе (2.431 заглавий) и религии (1.339 заглавий).

Политического характера трудов было издано сравнительно немного — всего 704 заглавия.

Нижеследующая таблица показывает разделение изданных за последнее время книг по темам сочинений:

Тема.	1934 г.	1933 г.	1932 г.	1931 г.	1930 г.
Всего	26.331	24.025	22.104	23.110	22.476
Политика	704	581	641	518	454
Законоведение	635	699	574	580	488
Экономика	1.005	1.128	1.036	914	907
Социология	332	990	1.323	1.279	1.053
Статистика	130	104	117	114	75
Богословие	217	226	190	251	219
Религия	1.339	1.045	933	1.153	1.038
Философия	985	564	548	566	455
Педагогика	2.789	2.727	2.224	2.482	2.389

СНАБЖЕНИЕ СЫРЫМИ ПРОДУКТАМИ В СЛУЧАЕ ВОЙНЫ.

Во многих отраслях промышленности Япония продолжает зависить от импорта сырых материалов из заграницы. В обстановке мирного времени такое положение не внушает значительных опасений, но, с другой стороны, при возникновении войны, когда сообщение по Тихому океану или Сибирскому железнодорожному пути может быть прервано, пред Японией встанет серьезная задача обеспечения своих заводов сырьем и свое население пищей.

Таким образом, правительству приходится базироваться в своих мерах обеспечения народа и промышленности на Корее, Маньчжу-Ди-Го, Китае и Северном и Южном Тихом океане.

При возникновении войны домашняя индустрия сможет справиться с задачей снабжения железом, медью и каменным углем, хотя и не в достаточной степени. Население сможет добыть требуемое количество риса. А в остальных отраслях придется опираться на возможность замены одних продуктов дргими, напр. недостаток никеля изжить, применяя вместо него аллюминий и магнезию.

Но наиболее острым вопросом явится, разумеется, нефтяной.

Его решение сведется к получению прав на нефтедобычу в различных странах, находящихся пососедству с Японией.

Снабжение платиной, селитрой, солями, каучуком, хлопком, шерстью, кожей и прочими продуктами, продукция которых внутри страны незначительна, тоже в значительной степени беспокоют правительство и промышленников Японии.

Почти все сырые продукты, необходимые для Японии, имеются в избытке в Маньчжу-Ди-Го и Китае. При помощи японского капитала в этих странах уже присупили к развитию рудничного дела, в частности добычи золота, легких и цветных металлов и превращению угля в жидкое топливо.

И политические горизонты последнего времени заставляют думать, что уже скоро состоится полное экономическое сотрудничество трех стран: Японии, Маньчжу-Ди-Го и Китая.

Когда же упомянутые государства создадут неделимый экономический блок, жизнь и процветание, а следовательно и мир стран Восточной Азии будет полностью обеспечен.

НАРОДНОЕ ОБРАЗОВАНИЕ.

На 1-е марта 1933 года число элементарных школ Японии определяли в 25.679, обслуживаемых учительским персоналом из 238.515 человек. Число учащихся этих школ достигало 10.714.196 человек.

На основании этих данных, Япония занимает второе место среди стран всего мира в отношении блестяще поставленного вопроса народного образования, уступая лишь США.

В это же время в Японии имелось 558 гимназий с 13.549 учителями и 329.459 воспитанниками. Высшие женские училища — 963 заведения, 15.089 преподавателей и 361.739 учениц.

Университетов в стране 47 с 6.195 профессорами и 70.162 студентами. Специальные училища: 116 заведений, 5.309 лекторов и 67.341 учащихся. Школы для слепых: 78, учителей 625 и учеников 4.613 человек. Школы для глухонемых: всего 59 заведений, 526 учителей и 4.376 воспитанников.

Приводим далее таблицу учебных заведений Японии, разграниченных по категориям:

	Число заведений.	Преподавателей.	Учеников.	Число окончивших.
Элементарые школы	25.679	238.515	10,714.196	2,048.388
Педагогические курсы	103	2.433	36.867	12.611
Высшие педагогические курсы	2	191	1.790	357
Высшие женские педагогические курсы	2	113	839	181
Временные учительские институты	4	110	154	126
Учительские институты для преподавателей реальных училищ	4		371	113
Учительские институты для преподавателей промышленных училищ	42	102	1.039	618
Гимназии	558	13.549	329.459	61.146
Высшие женские училища	963	15.089	361.739	85.709
Колледжи	32	1.415	20.589	6.049
Университеты	47	6.159	70.162	20.360
Специальные учебные заведения	116	5.309	67.341	16.629
Технические училища	54	2.123	22.546	6.708
Реальные училища (А)	822	13.812	260.988	61.799
„ „ (Б)	202	1.798	37.905	13.341
Промышленные училища	15.091	20.932	1.270.874	433.173
Школы для слепых	78	625	4.613	1.037
„ „ глухонемых	59	526	4.376	720
Прочие училища	1.917	17.031	203.123	163.937
Итого в 1933 г.	45.793	339.868	13.408.971	2,933.002
Итого в 1932 г.	45.765	333.779	13.073.854	2,825.260
Итого в 1931 г.	45.898	332.841	12,847.730	2,639.337
Итого в 1930 г.	45.803	328.469	12,549.320	2,628.005

Академия Наук.

Японская академиа наук находится в непосредственном ведении министерства

обоих дружественных соседних государств. Затем последовали и чисто технические реформы, касающиеся воружения и прочего армейского оборудования.

Учредили специальные органы, на обязанности которых лежит техническое обучение унтер-офицеров и разного рода специалистов военного дела. Таким образом, армия Японии все время продолжает совершенствоваться, как в отношении обучения бойцов, так и в деле технического оснащения.

Задачи 1935 года тоже заключают дальнейшие преобразования, равно как и особое усиление Корейской армии, развитие военной авиации, улучшение артиллерии и т. д.

На реформы армейских частей, находящихся в Маньчжу-Ди-Го, правительство Японии ассигновало 120.000.000 иен, при помощи которых произведут замену вооружения и разного рода улучшения в японских воинских частях.

Формирование Корейской дивизии будет выполнено в текущем году на ассигновки 2.600.000 иен, причем значительно более крупные суммы будут заключатся в бюджете 1936 финансового года.

Значительные перемены провели в 1935 г. и в деле военного образования.

Затратили приблизительно 10.000.000 иен исключительно на замену устаревших орудий.

Воздушный флот армии.

Особое внимание уделяется развитию японского военного воздушного флота.

К настоящему времени в Японии имеется 8 авиационных полков (26 баталионов), и 2 полка аэростатов, не считая несколько отрядов, находящихся в Маньчжу-Ди-Го.

Из указанного состава воздушных сил, 11 баталионов снабжены разведочными и боевыми самолетами и 4 баталиона бомбовозами.

Согласно оффициального опубликования, число боевых аэропланов Японии достигает 1.000 единиц.

Учитывая состояние авиации соседних стран, правительство прилагает все усилия для должного развития этой части вооружения Японии. Проэктируют создать несколько дополнительных авиополков и учредят главный штаб воздушных сил. Разумеется, в зчачительной степени усилят мощь воздушного флота, снабдив авиацию армии самыми совершенными аппаратами.

Морская авиация.

Морская авиация разделяется на эскадрилии, находящиеся на военных судах, и береговую воздушную охрану.

Имеются авио-матки. Согласно Вашингтонского договора, на долю Японии полагалось лишь 60% авиоматок, которыми располагали Англия или США.

Береговая охрана состоит из 17 отрядов, расположенных в стратегических пунктах всей страны. К 1937 г., по плану укрепления обороны страны, Япония будет располагать 39 отрядами воздушно-морской обороны, т. е. более чем в 2 раза сильной, чем в настоящее время.

Число самолетов флота не опубликовано, но можно приближенно считать, что их сколько же, сколько в армии Японии.

Среди гидропланов японской продукции стали появляться крупные модели, способные поднимать значительные грузы, и радиус действия которых весьма значителен.

ОБЩЕСТВО РЕЗЕРВИСТОВ ЯПОНСКОЙ АРМИИ.

Общество резервистов Японской армии преследует цели укрепления и поддержания войнского и патриотического духа среди населения, в частности среди резервных чинов, чем немало будет укреплена военная мощь страны.

Учреждение указанной организации относится к ноябрю 1910 года, причем инициатором его создания являлся покойный генерал Г. Танака.

Отделения О-ва находятся повсеместно в Японии и во многих местах заграницей, исчисляясь в 14.800 групп, а число членов достигает внушительного итога в 2,880.000 человек.

Указанное общество имеет большое влияние на политическую и общественную жизнь Японии, хотя отдельные члены его и не выступают на политическом поприще в качестве его представителей.

ЖЕНСКИЕ ОРГАНИЗАЦИИ.

Патриотическое о-во.

Организация оказывает помощь семьям погибших на войне бойцов, равно как и поддержку раненым и их семействам. Это же общество следит за солидарностью и патриотическим воспитанием женщин, входящих в различные общественные организации.

Патриотическое женское о-во было организовано в феврале 1901 года по инициативе г-жи И. Окумура. На 1-е июля 1935 г. состав о-ва достигал до 2.300.000 членов.

Президентом Патриотического о-ва является Е. В. принцесса Канеко Хигаси Фусими, а председателем виконтесса Х. Мотоно.

Всеяпонское женское о-во.

По возникновении Маньчжурских событий, в августе 1932 года основали Всеяпонское женское о-во. Основной целью указанной женской группировки служит воспитание женской половины населения Японии в понятии ответственности за оборону государства.

Общество имеет 21 главных отделения и 122 обыкновенных отделения, которые, в свою очередь, разделяются на 3.919 звен. Число членов — 1.892.000 человек.

Председателем общества состоит супруга покойного маршала Муто, г-жа Нобуко Муто.

Женское общество офицерских семей.

Общество было основано в 1905 году в ноябре месяце. Цели организации: солидарное об'единение жен и дочерей офицерства для укрепления взаимной дружбы, помощи раненым и проч.

Е. В. принцесса Цунеко Фусими является президентом указанной организации, которая насчитывает 13.900 человек членов.

Ординарные расходы	1.293.083	17.219	1.300.302
Экстраординарные расходы	900.331	4.779	905.110
Итого	2.193.414	21.999	2.215.418

По сравнению с данными бюджета 1934 года ассигновки следующим министерствам увеличились в той или иной степени: министерство иностранных дел, финансов, военное, морское и юстиции. Бюджеты остальных министерств были сокращены.

Если не принимать в расчет ассигновки по оказанию помощи пострадавшим крестьянским районам, бюджет министерства внутренних дел сократился на 45.460.000 иен, а в министерстве земледелия и лесоводства отметили уменьшение на 45.113.000 иен.

Бюджет различных министерств.

(в 1.000 иен)	Ординарный бюджет	Экстраординарный бюджет	Итого
Министерство Двора	4.500	—	4.500
„ Иностранных дел	29.679	—	29.679
„ Внутренних дел	131.655	31.946	163.601
„ Финансов	487.606	1.554	489.160
Военное министеретво	490.959	2.000	492.959
Морское „	529.784	—	529.784
Министерство юстиции	38.277	118	38.395
„ народного просвещения	145.099	4.725	149.824
Министерство земледелия и лесоводства	68.023	25.450	93.464
Министерство путей сообщения	189.949	14	189.963
Министерство колоний	20.695	—	20.605
	2.149.308	66.103	2.215.413

Статистические данные богатств Японии.

(в 1.000.000 иен)

	1919 г.	1924 г.	1930 г.	1930 г. Государственные богатства	1930 г. Частные богатства
Общие богатства	86.077	102.342	110.188	18.105	92.083
Из них:					
Земля	3.386	33.247	41.091	4.537	36.554
Горы, заключающие минеральные богатства	6.413	3.523	6.500	5	6.495
Богатства моря, озер, рек, порты	4.597	5.159	343	342	1
Леса	4.543	1.748	6.707	2.662	5.045
Здания	8.560	16.326	22.843	2.111	20.732
Мебель и прочее имущество	4.424	9.632	12.473	864	11.609
Машины обрабатывающей промышленности	1.102	1.987	1.809	145	1.664
Скот, птицы	503	526	346	24	323
Железные дороги	1.111	3.544	3.598	2.844	754
Различные перевозочные средства	182	429	660	364	296
Суда	1.182	320	2.060	1.058	1.002
Водопроводы	149	283	353	347	6
Мосты	234	374	483	483	—
Крестьянская продукция	3.624	3.310			
Лесная продукция	88	95			
Промышленная продукция	2.630	2.311	5.457	289	5.168
Продукция горнопромышленности	387	75			
Водная продукция	43	46			
Импортный товар	445	502			
Золото, серебро в монетах и слитках	2.360	1.825	917		917
Имущество, находящееся под ведением всех министерств	1.548	6.484			
Оборудование электростанций и газовых заводов			1.905	206	1.699
Телеграф и телефон			199	196	3
Прочие	8.520	10.258	2.251	2.069	181
Активный баланс иностранных долгов	356	288	192	(—) 441	633

АРМИЯ.

Пропорционально населению Япония не обладает значительными природными богатствами по сравнению с многими заграничными странами. Иностранные государства, тем не менее, всячески препятствуют Японии в выполнении ее территориальных планов.

И значение Японской армии сводится к обороне жизненной линии страны.

После возникновения Маньчжу-Ди-Го состоялось японо-маньчжурское соглашение для совместной обороны и обеспечения жизни населению обоих стран.

В 1933 — 34 гг. военное министерство было принуждено требовать колоссальные ассигновки, ввиду проведения целого рада реформ в армии, согласно положению чрезвычайного времени, наблюдающегося в политической жизни страны.

Немало расходов произошло также и при установлении порядка в Маньчжу-Ди-Го, ликвидации бандитов и проч. Военные части японской армии в Маньчжу-Ди-Го были значительно увеличены, чем и обуславливался успех мероприятий правительств

лет от роду, выбранные Верхней палатой. Графы, виконты и бароны избираются в члены Верхней палаты на 7-летний срок.

По императорскому указу назначаются лица мужского пола не менее 30 лет, из среды заслуженных государственных деятелей или крупнейших налогоплательщиков сроком на 7 лет.

Состав Нижней палаты.

Согласно устава, члены Нижней палаты избираются всенародным голосованием причем разделяют территорию Японии на 1 „до" (о. Хоккайдо), 3 „фу" (районы городов Токио, Осака и Киото) и 43 префектуры. В Корее, на о. Сахалин и Формоза еще не установили права голосования, направленного на выбор тех или иных членов Нижней палаты.

Число депутатов Нижней палаты установлено в 466 человек, избираемых на 4-летний период времени. Если срок истекает во время сессии парламента, выход депутата из парламента отсрачивается до окончания сессии.

Депутаты не имеют права совмещать посты оффициальных должностей, состоять на государственной службе или быть одновременно членами Верхней палаты, равно как и участвовать в составе членов губернаторства Хоккайдо.

ЭКОНОМИЧЕСКОЕ ПОЛОЖЕНИЕ ЯПОНИИ.

Рассматривая экономическую жизнь Японии за год (с 1-го июля 1934 г. по 30-е июня 1935 г.), можно отметить признаки восстановления торговли и промышленности и постепенное изжитие кризиса, который, как и вообще во всех странах мира, причинил немало трудностей для правительства и народа.

Развившаяся так наз. военная промышленность, низкий переводный курс иены, а следовательно и все возрастающие итоги японского экспорта, явились главнейшим стимулом экономического возрождения страны.

Требования обороны страны отразились весьма сильно на увеличение продукции тяжелой индустрии, горного промысла и всех побочных отраслей промышленности.

Суровые меры правительств иностранных государтсв, направленные на уменьшение покупок японских товаров, тяжело отразились на деятельность экспортеров, которые были принуждены тот час же отыскивать новые рынки. Падение прочих валют уменьшило выгодность низко стоящего переводного курса японской иены, и конкуренция против японских экспортеров заметно усилилась.

Правительство Японии рассматривает в данное время котр-меры против особенно несправедливых ограничений во многих заграничных странах, и эти меры должны вскоре же быть претворены в жизнь в виде повышенных пошлин на заграничные товары и установление квот на известные категории заграничных продуктов, ввозимых в Японию.

К сожалению, многим державам еще, видимо, не совсем ясно, что экономическое равновесие может быть установлено лишь при помощи соглашений, но отнюдь не мерами экономической войны. Но с другой стороны, теперь, когда несогласия различных стран по всевозможным вопросам являются почти обычным явлением, напр. морские разоружения и т. д. и т. д., надеяться на боле или менее исчерпыйающее экономическое согласование между главнейшими промышленными странами — было бы по меньшей мере наивно.

ФИНАНСЫ.

После формирования кабинета министров, премьер Окада опубликовал заявление о преемствовании финансовой политики предшествовавшего министра финансов, г. Такахаси. Минфин нового кабинета г. Фудзии, следуя предыдущей программе, выдвинул следующие основные пункты, которые он и стал неуклонно проводить в жизнь:

1. Урегулирование расходов на оборону страны и административных государственных расходов.

2. Установить план постепенного сокращения облигаций.

3. Для достижения указанных положений повысить налоги.

Затем приступили к составлению бюджета на 1935 финансовый год и ассигновок для помощи крестьянским селениям, пострадавших от стихийных бедствий.

Некоторое время спустя г. Фудзии по болезни вышел в отставку, причем его болезнь приняла очень серьезную форму, и заслуженный государственный деятель скончался.

На пост министра финансов был приглашен г. К. Такахаси, который его принял и, таким образом, в 8-й раз стал министром Японии.

Первым мероприятием нового министра финансов явилось утверждение налога на экстренные доходы и отмена повышения существовавших обычных подоходных налогов. Перемена государственных облигаций на более низкопроцентные тоже была отклонена г. Такахаси.

При составлении бюджета встретились значительные затруднения, возникшие между министерством финансов с одной стороны и военным и морским с другой, но все же минифин не повысил ни налогов, ни почтовых тарифов, которые, предполагалось, должны были удовлетворить все требования министерств, связанные с обороной страны.

Утвержденный в конце концов бюджет 1935 финансового года представляется в следующих цифрах: (в 1.000 иен).

	Основной бюджет	Добавочный бюджет	Итого
Ординарные доходы	1,335.588	—	1,335.588
Экстраординарные доходы	857.826	21.999	879.825
Прочие доходы	101.175	—	101.175
Облигации	749.652	3.999	771.651
Сальдо с прошлого года	7.000	—	7.000
Итого	2,193.414	21.999	2,215.413

по случаю приближающихся перевыборов.

12 июня руководящие лица партии вынесли резолюции против некоторых политических деятелей страны, равно как опубликовали следующие положения:

1. Необходимость решительного отказа от термина „Император-высший институт государства".

2. Установление ответственного управления.

3. Обеспечение независимых действий японской дипломатии.

4. Выяснение и разрешение проблем вооружения и крестьянства.

13. Назначение на пост начальника военных училищ.

Военный министр Хаяси во время очередного перемещения командного состава армии, состоявшегося как обычно в августе, предусматривал цели усиления контроля над армией, столь желательного особенно теперь, когда Япония переживает чрезвычайное время.

Бывший в то время на посту начальника военных училищ генерал Масаки почти во всех случаях не разделял мнение военного министра, в результате чего последний был принужден требовать отставки и переназначения начальника военных училищ.

С разрешения начальника генерального штаба, Е.В. принца Канин, на указанный ответственный пост назначили генерала Ватанабе.

14. Переназначение президента Южно-Маньчжурской Железной Дороги.

Накануне 1-го августа 1935 г., президент ЮМжд, г. Хаяси, подал прошение об отставке. Правительство Японии назначило г. Мацуока на пост президента ЮМжд.

Г-н Мацуока некоторое время тому назад был вице-президентом ЮМжд, а потому находится в курсе дел этой организации. И, кроме того, при возникновении Маньчжурских событий он являлся представителем Японии в Женеве, блестяще проведя сложные дипломатические задания.

15. Убийство начальника военного департамента при военном министерстве, генерала Нагата.

12-го августа в 9 час. 40 минут утра, от руки ворвавшегося в кабинет подполковника С. Айзава был убит начальник военного департамента при военном министерстве, генерал Нагата.

Убийца был немедленно арестован и в этот же день препровожден в военно-полевой суд.

Причины, побудившие подполковника совершить безразсудный поступок кроются в излишнем доверии уличным слухам, связанным с переназначениями командного состава армии, термина о Императоре и т. д.

16. Решение военного министра о установлении дисциплины армии.

Убийство генерала Нагата произвело колоссальное впечатление в военном министерстве. Под влиянием этого выступления, военный министр Хаяси пришел к определенному заключению, что дисциплина армии не находится на должной высоте.

15 августа военный министр выступил на совещании министров и отметил свое

решение провести ряд конкретных мер для усиления дисциплины армии.

„Не следует думать", — добавил военный министр, — что вся армия приведена в замешательство этим грубым нарушением дисциплины, напротив, я должен признать, что за исключением лишь некоторых группировок дисциплина Японской армии в общем стоит на весьма высоком уровне.

17. Генерал Кавасима—новый военный министр.

В связи с произошедшем в министерстве убийством, генерал Хаяси решил подать в отставку, прошение о чем было подано на совещании кабинета 4-го сеннября 1935 года.

Премьер Окада в тот же день имел высочайшую аудиенцию на даче в Хаяма, где выразил Е.В. Императору свои соображения по поводу назначения на пост военного министра, указав на генерала Кавасима.

Получив сакцию Е.В. Императора на это назначение, премьер немедленно же возвратился в Токио.

Так был избран новый министр кабинета Окада. Генерал Кавасима до своего назначиния на пост военного министра был командиром 1-й бригады, 19 дивизии, затем командиром 3-й дивизии, армией Кореи, и в 1934 году стал военным советником.

ПАРЛАМЕНТ ЯПОНСКОЙ ИМПЕРИИ.

Японский парламент состоит из Верхней и Нижней палаты, причем членами первой являются лица Императорской Фамилии, аристократы, лица назначенные непосредственно Императором, а состав Нижней палаты определяется всенародными выборами.

Сессии парламента.

Очередные сессии парламента происходят ежегодно обычно в конце декабря, а экстренные по возникновении у правительства проблем, требующих решений парламента.

После роспуска парламента происходят перевыбора, по проведении которых созывают сессию в 5-месячный срок.

Созывается парламент указом Е.В. Императора Японии, который опубликовывается за 40 дней до открытия сессии.

Обычно сессии длятся до 3 месяцев, но особым декретом срок межет быть и продлен. Правительство имеет право приостанавливать сессии, но не более чем на 15 дней. Роспуск парламента происходит исключительно в Нижней палате, а Верхняя палата в таких случаях ограничивается приостановлением своей деятельности.

В начале и конце каждой сессии происходят церемонии открытия и закрытия парламента.

Состав Верхней палаты.

Членами Верхней палаты являются:

Члены Императорской Фамилии мужского пола, достигшие совершеннолетия, князья и маркизы от 30-летнего и выше возраста, графы, виконты и бароны 30 и выше

Военный министр высказался за полное уничтожение подобных взглядов, выраженных проф. Минобе.

Резолюция членов Верхней палаты отметила следующие положения: В данное время идеологические возрения иногда отклоняются от истинного пути, в результате чего и получаются подобные нежелательные термины и рассуждения. Правительству необходимо принять решительные меры для искоренения нежелательных явлений, для чего следует выяснить точную формулировку государственного строя Японии, согласно национального, древнего духа Японии. Выявление идеи государста особенно важно именно теперь, когда приближаются различные тяжелые моменты в жизни страны.

Проэкт был утвержден большенством голосов. 22 января в Нижней палате президент партии Сейюкай, г. Судзуки, об'яснил депутатам предложения Верхней палаты и их значение.

Партии Сейюкай, Минсейто и Кокумин Доомей немедленно же выразили свои воззрения, указав на необходимость точного выяснения идеи государственного строя Японии, чем будет указан правильный путь всему народу страны. Последовало утверждение проэкта и Нижней палатой.

На совещании кабинета министров от 28 марта, которое имело место уже после закрытия очередной сессии парламента, военный и морской министры заявили о желательности по-возможности скорее выяснить упомянутый выше вопрос.

Генерал Масаки, заведывающий военным образованием армии, опубликовал о том, что в настоящее время ведут точное установление принципов государственного строя.

На следующий день, министерство внутренних дел об'явило о запрете на брошюру проф. Минобе.

8. Утверждение Бюджета на 1935 финансовый Год.

8-го марта на сессии Верхней палаты утвердили бюджет на 1935 финансовый год, причем общая сумма такового достигала 2.193,000.000 иен.

Таким образом, первоначальный проэкт правительства был утвержден парламентом без особенных прений.

9. За Дисциплинированное Проведение Перевыборов.

Перевыбора депутатов губернских управлений были начаты 21 сентября 1935 года. Весною 1936 года состоятся перевыбора депутатов Нижней палаты парламента Японии.

Как те, так и другие, согласно законоположений, проводят каждые 4 года, и они имеют большое значение в политической жизни народа.

Бывшие члены партии Минсейто гг. Хамагучи и Вакацуки первые провозгласили принцип дисциплинированного проведения перевыборов.

После события 15 мая 1932 г., когда принципы Японской конституции были грубо нарушены группой крайне-правых лиц, вопрос о дисциплине стал привлекать внимание многих правительственных группировок. Движение в пользу дисциплинированных выборов получило конкретные формы после образования кабинета Сайто, когда министр земледелия и лесоводства г. Гото встал во главе его.

После формирования кабинета Окада, министерство внутренних дел затребовало

ассигновки в размере 2.000.000 иен для надлежащего проведение перевыборов и обеспечения полной дисциплинированности таковых.

После рассмотрения этих требований министерством финансов, ассигновки были сокращены до 670.000 иен.

Создали 16 подкомиссий дисциплинированного проведения выборов, которые были расположены во всех главных пунктах страны, равно как и центральную комиссию, наблюдающую за их деятельностью.

Издают специальный журнал, посвященный правильным принципам выборов, который рассылают по различным группировкам и политическим организациям Японии. Используют радио и кино для внедрения в массы основных принципов. Устаивают лекции, собеседования, так наз. „Дни дисциплины", для проведения которых мобилизуют все правительственные организации и частных лиц.

10. Учреждение постоянного совета при кабинете министров.

Для достижения максимума солидарности среди различных политических группировок страны, кабинет Окада проэктировал назначить лидеров партий Сейюкай и Минсейто, гг. Судзуки и Вакацуки, на пост министров без портфеля.

Тем не менее, проэкт не был реализован.

Затем поступило предложение военного министертства о создании постоянного совета при кабинете министров в качестве проверочного органа, подчиненного непосредственно кабинету. Данный орган был вскоре же организован и 11 мая приказом Е. В. Императора Японии осуществлен.

Совет состоит из 15 членов во главе с б. премьером виконтом Сайто. Значение этой организации, в качестве укрепление связи между премьером, министрами и финансовыми группами государства, — огромно.

11. Чистка Токио от шантажистов и вымогателей.

После отбытия высокого гостя, Е. В. Императора Маньчжу-Ди-Го, правительство перешло к текущим проблемам, и министр юсиции, г. Обара, выдвинул план освобождения Токио и затем и провинций от шантажистов и вымогателей, действующих под маской патриотов.

2 мая произвели массовые аресты шаек вымогателей. После усиления наблюдения за всеми подозрительными лицами провели еще ряд арестов, итоги которых на 25 июля достигли 15.000 случаев.

Большенство аферистов притесняли в той или иной форме честное население, пользуясь грубо присвоенным именем „патриотических" организаций.

Принципиальное значение „чистки" выявляет стремления кабинета Окада к разрешению и упорядочению разнородых проблем жизни государства.

12. Движение партии Сейюкай против некоторых государственных деятелей.

После закрытия парламента, президент партии Сейюкай стал проводить мероприятия усиления внутрипартийного контроля, который является особо желательным

ских чинов, но, в случае надобности, таковые могут быть заменены и военными лицами.

В таком положении наступило полное совпадение мнений всех заинтересованных кругов правительства по вопросам реформ японских административных органов в Маньчжу-Ди-Го.

2. Установление Солидарности Партий Минсейто и Сейюкай.

После исключения из паргии Сейюкай г. Токонами, в целях возврата к нормальному политическому равновесию и спокойствию проэктировали создать прочную солидарность между партиями Минсейто и Сейюкай.

18 октября г. Судзуки, председатель партии Сейюкай, лично взялся за дело установления солидарности, призвав на помощь своих ближайших сотрудников гг. Кухара и Ямамото.

Руководители партии Минсейто выразили полную готовность сотрудничества с партией Сейюкай, поскольку эта солидарность не преследует цели об'единенной оппозиции правительству.

16 ноября 1934 г. состоялось совещание представителей обоих партий гг. Кухара, Таномоки, Томита и др. в помещении промышленного круба, Маруноучи.

Со стороны Сейюкай последовали заверения, что целью об'единения и установления солидарности является желание облегчить и без того трудную борьбу Японии с различными проблемами внутреннего и внешнего характера.

20-го числа того-же месяца последовало формальное согласие партии Минсейто с предложениями Сейюкай, а 26-го последовало совместное опубликование обоих партий, об'ясняющее их позиции и стремления к установлению солидарной политической жизни страны, которые, без сомнения, принесут значительную пользу стране в целом, что особенно важно при наличии чрезычайного времени, переживаемого Японией.

3. Увеличение Подоходного Налога.

В министерстве финансов рассматривали проэкт увеличения подоходого налога согласно так наз. положений чрезычайного времени. Совещания продолжались с 27 по 31 октября.

При рассмотрении бюджета следующего финансового года определяли итог расходов в 1.600.000 иен, причем таковой достиг 2.042.890 иен после включения экстраординарных требований в размере 459.500.000 иен.

Как известно, занимавший в то время пост министра финансов г. Фудзии являлся сторонником выполнения бюджета на принципах здоровой финансовой политики, полного отказа от „красных цифр“ и постепенной ликвидации государственной задолженности.

Мероприятия министра финансов прежде всего выразились в увеличении подоходного налога на сумму 30.000.000 иен, налога на прибыля железных дорог и увеличении тарифа почт, чем приобрели 100.000.000 иен дополнительных государственных доходов.

Государственные долги постановили не увеличивать свыше 500.000.000 иен, а расходы страны должны были отныне соответствовать приходам казны.

4. Экстраординарная Сессия Парламента.

Экстренная 66-я сессия парламента была созвана при кабинете Окада 27 октября 1934 года. 30 октября состоялись прения верхней и нижней палат.

В центре внимания находились вопросы помощи крестьянству, выявление критики бюрократизму, стремление к разоружению и сокращению военных расходов, недостаточность бюджетных ассигновок, которые не смогут обеспечить непредвиденные обстоятельства политических изменений, и, наконец, политика здоровых финансов.

5. Предупреждение о Возможности Конкуренции в Строительстве Военных Судов.

28 января 1935 г. во время сессии верхней палаты морской министр Осуми сделал предостережение о возможности начала строительной горячки между конкурирующими державами, направленной на создание максимально мощных военных флотов.

Министр отметил невозможность ручаться за единогласный отказ от данной обременительной для всех политики, ввиду провала конференции о морских разоружениях.

6. О Тенденции Увеличения Военных Расходов.

Депутат партии Минсейто, г. Огава, запросил 29 января о перспективах увеличения расходов на строительство военных судов.

Морской министр Осуми ответил, что даже при наличии полной несогласованности держав и окончательного провала конференции не следует предполагать значительного увеличения строительства флотов, против предусмотренного ранее.

Если бы Япония продолжала находиться под условиями соглашения с США и Англией, то все равно в 1935 г. следовало бы выстроить свыше 50.000 тонн военных судов различных типов. После уничтожения Вашингтонского соглашения для Японии остается право изменить тоннаж каждой категории, согласно наиболее желательного отношения тех или иных типов единиц флота. Постройка наиболее стратегически выгодных судов будет увеличена, а менее необходимые суда будут сокращены.

В общем, конкуренция строительства судов не так опасна, т. к. в данном случае вмешиваются чисто технические трудности скорой постройки крупных линкоров, равно как и обучение экипажа, что требует значительных сроков времени.

7. Нашумевший термин „Император—высший институт японского государства.

На сессии Верхней палаты парламента, 15 января проф. С. Миками провозгласил идею почитания Императора Японии, как существа божественного происхождения. Через 3 дня барон Кикучи (партии Косейкай) начал движение против термина, выставленного проф. Минобе: „Император — высший институт японского государства“.

Последующие сессии Верхней палаты протекали в высшей степени напряженной атмосфере. Премьер министр Окада отметил присутствие непочтительной нотки в формулировке термина проф. Минобе, заявив, что он лично, разумеется, не является сторонником данного термина.

15 сентября 1935 года явилось трехлетним юбилеем со дня признания независимого государства Маньчжу-Ди-Го со стороны Японской Империи.

За эти три года отметили интенсивное развитие молодой державы и укрепление ее позиций во всех отношениях. Юбилейная дата была пышно отпразднована в столице Маньчжу-Ди-Го — Синьцзине.

Из Японии последовала радио-речь премьера Окада с поздравлениями по адресу правительства и народа молодого государства, после которой, по радио же, отвечал премьер министр маньчжурского правительства.

В посольстве Маньчжу-Ди-Го в Токио был устроен пышный банкет.

12. Япония Наблюдает за Итало-Абиссинским Конфликтом.

16 сентября 1935 г. посол Италии в Японии посетил министерство иностранных дел для беседы с товарищем министра, г. Сигемицу, по вопросам Итало-Абиссинского конфликта.

Г-н Сигемицу конкретно выявил позицию японского правительства в данном отношении, указав на то, что Япония является исключительно внимательным наблюдателем конфликта и не проэктирует выступать в качестве помощника никакой стороне.

Политическая Жизнь Страны в 1935 г.

Настоящий очерк политической жизни Японии охватывает период времени с сентября 1934 г. по октябрь 1935 г. В сентябре прошлого года последовало нашумевшее предложение депутата партии Сейюкай г. Адзума о проведении дополнительного бюджета в 180.000.000 иен.

Затем возник вопрос о неправильности термина „Император-высший государственный институт.“ Последовали политические несогласия отдельных группировок на 67-й сессии парламента.

Действие партии Сейюкай рассматривали как стремление к уничтожению солидарности между этой партией и Минсейто, что и было частично достигнуто.

Тем не менее, Сейюкай не имел достаточно твердости для борьбы против правительства, предвидя роспуск парламента, как контрмеру кабинета министров. В свою очередь, правительство тоже избегает слишком крупных столкновений с партиями, преследуя цели поддержания политического спокойствия страны.

Минсейто встает на позицию полной солидарности с правительством. Располагающая 30 депутатами партия Кокумин Доомей, к сожалению, не может осуществить желаемый контроль над своими членами, что в значительной степени ослабляет эту политическую партию.

Следовательно, как партии, так и правительство в значительной степени потеряли твердость для продолжения энергичной борьбы, в результате чего парламент был закрыт без каких-либо резких выступлений противостоящих сторон.

Маньчжурские события и осложнившиеся отношения с прочими державами после ухода Японии из Лиги Наций весьма повлияли на внутреннюю политическую жизнь страны. Последовали события Северного Китая, провинции Чахар. Обострился до некоторой степени вопрос чрезмерного вооружения советского Дальнего Востока.

В противовес выдвинули идею солидарного действия военных кругов и промышленности, которая выражает наиболее полно „чрезвычайный период жизни Японии“. Правительство приняло также ряд мер для того, чтобы не произошло чрезмерное развитие крайне-правых идей, граничащих с фашизмом.

За истекший год также появились проблемы экономического характера, которые отразились и на парламентарской борьбе: Реформы японских административных органов в Маньчжу-Ди-Го, предоставление помощи крестьянству, проэкт контроля промышленности искуственных удобрений и некоторые другие.

В отношении помощи крестьянству политические партии не смогли сделать никакой реальной помощи, и пособия были достигнуты движением вне парламента.

После закрытия 67-й сессии парламента, правительство, в качестве мер самоукрепления, учредило постоянный совет при кабинете министров. Члены партии Сейюкай, гг. Мочидзуки и Мидзуно, приняли участие в указанном совете, после чего были исключены из состава членов партии, ослабив, таким образом, ряды последней.

Минсейто встало на сторону правительства, уничтожив принцип солидарности с партией Сейюкай. Таким образом они надеятся укрепить свое партийное положение и выиграть большее число кандидатов провинций при предстоящих перевыборах.

1. Реформы в Маньчжу-Ди-Го.

Вопрос о желательности произведения реформ в организации японских административных органах в Маньчжу-Ди-Го был выдвинут с самого основания кабинета Окада.

Вели обсуждения в военном министерстве, министерстве иностранных дел, министерстве колоний. Признавали рациональным передать послу Японии в Маньчжу-Ди-Го ряд дополнительных полномочий, как в министерствах, так и в другах правительственных органах.

В сентябре 1934 г. постановили согласовать мнения военных кругов и центрального правительства и рассмотреть вопрос с различных точек зрений, что и было выполнено на ряде совместных совещаний.

Исправленный и дополненный проэкт реформ заключал следующие пункты:

а) Уполномоченный посол Японии в Маньчжу-Ди-Го должен совмещать пост главнокомандующего Квантунгской Армией.

б) Начальник департамента по делам Маньчжу-Ди-Го при кабинете министров должен являться одновременно генералом действительной службы.

В результате сношений товарища министра г. Хасимото с секретарем кабинета министров г. Кавата, предложили еще дополнительные изменения:

а) Уполномоченный послол Японии в Маньчжу-Ди-Го должен быть фактическим главнокомандующим Квантунгской армии, причем его назначение должно быть произведено непосредственно кабинетом министров.

б) Начальник департамента по делам Маньчжу-Ди-Го непосредственно подчиняется премьеру, назначается согласно декрета Е. В. Императора и может являться военным или гражданским лицом.

в) Начальники общих административных отделов назначаются из числа граждан-

в Токио в ранг посольства, на что последовало полное согласие правительства Японии.

Посланник Маньчжу-Ди-Го, г. Дын-Ши-юан вышел в отставку, а на его место прибыл в качестве первого посла г. Се-Цзе-ши.

После изменения позиций Китая в отношении дальнейшей политики к Японии и вступления на так. наз. политику Ван-Чао-минг (мининдел Нанкинского правительства), когда дружба между обоими государствами выиграла во многих отношениях, постановили возвести свои миссии друг у друга в ранг посольств.

7-го мая 1935 г. на совета министров Япония оффициально постановила о посланнии в Китай первого посла. 17 мая последовало предложение министерства иностранных дел Японии, которое было встречено весьма охотно правительством Чжан-Кай-ши. Отправили в Нанкин посла г. Ариоси.

Одновременно, Нанкин послал в Токио г. Чжан-Цзо-пин в качестве первого посла.

7. Ратификация Японо-Голландского мирного договора.

Подписанный в апреле 1933 г. японо-голландский договор японским посланником в Голландии, г. Сайто, и министром иностранных дел Голландии, г. Брокланд, был ратифицирован 25 мая 1935 года. Накануне состоялась санкция Тайного совета.

8. Пограничная комиссия Японии, Маньчжу-Ди-Го и СССР.

Мирное отношение 3-х стран Дальнего Востока в значительной степени испытывает угрозу нарушения из-за нелогичного увеличения вооружений восточной части СССР. Во избежании возникновения пограничных инцидентов, которые могут привести и к вооруженным столкновениям, правительство Японии предложило созвать японо-маньчжурско-советскую комиссию для установления точных границ между СССР и Маньчжу-Ди-Го.

Формальное предложение по указанному поводу было сделано полпреду Юреневу министром иностранных дел, г. Хирота, 26 июня 1935 года, а 5 июня полпред СССР в Японии посетил министерство иностранных дел и передал согласие Московского правительства принять участие в определении точных границ восточной части СССР.

В дальнейшем правительство Японии проэктирует приступить к переговорам с правительством СССР о необходимости разоружения советского Дальне-Восточного края, отвода войск вглубь страны, уничтожения подводных лодок, находящихся в данное время во Владивостоке, и ликвидации военных аэробаз.

9. События в Северном Китае.

Ввиду продолжавшейся деятельности антияпонских элеменов Северного Китая, особенно в районе Таку, военное командование японской армии приступило к переговорам с Нанкинским правительством, дабы ликвидировать нежелательное явление мирным путем. Сношения начались в июне 1935 года.

Анти-маньчжурские выступления армии Сунг-Че-юаня, частые случаи перехода границы и проч. незаконные действия китайской стороны весьма осложнили положение. Тем не менее, рациональные поступки центрального правительства Китая, принявшего целиком и полностью условия японской стороны, разрешили благоприятно

инциденты провинции Чахар и Северного Китая.

27 июня 1985 года было заключено соглашение между японским генералом Дохихара и китайским представителем г. Чин-Ти-чун, состоящее и следующих пунктов:

а) Уволить со службы начальника 132 китайской дивизии, начальника военного суда и перевести упомянутую дивизию вглубь Китая.

б) Принести в адрес Японии извинения за произошедшие события в провинции Чахар и Северном Китае. Уволить со службы губернатора провинции Чахар, генерала Сун-Че-юана, который занимает пост начальника 29 армии.

в) Гарантировать ликвидацию антияпонского движения по всему Китаю.

г) Ликвидировать различные демократические организации, равно как и прочие группировки, направление которых носит антияпонский характер.

л) Установление разоруженной зоны в Северном Китае и провинции Чахар. Спокойствие указанных районов поддерживается специальной милицией, но не регулярными войсками.

Таким образом был разрешен вопрос Северного Китая и пров. Чахар, который одно время обещал сделаться весьма острым и отрицательно влияющим на установление дальнейших дружеских японо-китайских взаимоотношений.

10. Пересмотр Японо-Советской Рыболовной Конвенции.

Основной текст японо-советской рыболовной конвенции был подписан 23 января 1928 года. Согласно заключающегося в ней пункта, текст конвенции может быть пересмотрен по желанию сторон, о чем и было сделано предложение со стороны Японии 5-го июня 1935 года послом в СССР, г. Оота.

В течении 9-ти сношений, которые имели место в Москве до начала августа, к сожалению, не выявили согласованности в пожеланиях Японии с таковыми СССР.

Конкретные предложения японской сторны заключаются в следующих пунктах:

а) Продление на продолжительный срок условий, заключенных между гг. Хирота и Карахоном в 1932 г.

б) Отмена системы передачи участков с торгов.

в) Упрощение различных формальных условий на лов лососевых, крабов и прочих морепродуктов, обусловленных §2 основного соглашения.

До настоящего времени советская сторона не предоставляет никакого ответа на центральные вопросы, ограничиваясь переговорами о тех или иных деталях.

5-го сентября 1935 г. посол Японии в Москве г. Оота посетил народный коммисариат иностранных дел с целью выяснения причин задержки ответа советской стороны. Энергичным выступлением японской стороны, быть может, скоро приступят к конкретным переговорам о пересмотре рыболовной конвенции и заключат новые условия.

11. Трехлетие Признании Японией Государства Маньчжу-Ди-Го.

Учитывая важнейшее влияние государства Маньчжу-Ди-Го для поддержания мира в Восточной Азии, Япония поспешила признать это государство вскоре же после его появления.

международной организации, стремящейся к установлению мира. Секретарь Лиги выразил сожаление о выходе Японии, подчеркнув свои опасения возможного ухудшения отношений между Японией и Лигой Наций, но, одновременно, обещал приложить все старания устранить те положения, которые могли бы привести к указанному нежелательному явлению.

2. Уничтожение Вашингтонского Морского Соглашения.

Предварительные переговоры о морских разоружениях были начаты 18 июня 1934 г. в Лондоне. Участвовали представители 3-х держав: Японии, Англии и США, которые, согласно вынесенной резолюции, постановили закончить конференцию к октябрю месяцу. В Японии состоялся совет 5 министров кабинета Окада (14 июля 1934 г.), а через 2 дня совещание руководящих лиц морских кругов, специально посвященные проблемам морских разоружений.

20 июля последовало об'явление десяти пунктов принятого направления политики в области морских разоружений. Резолюция гласила: „Государственная оборона является самым первым условием для обеспечения жизни государства, и правительство должно в первую очередь стремиться к обеспечению защиты страны от вторжения врагов".

В последний день этого же месяца премьер Окада имел встречу с иностранными журналистами и выявил им свои мнения в отношении тех или иных вопросов разоружения. Журналисты задали премьеру ряд вопросов, на которые он дал исчерпывающие ответы, об'яснив детально избранный Японией путь — укрепление и обеспечения государственной безопасности.

После сношений с морским министерством, военным и министерством иностранных дел, премьер Окада окончательно утвердил в совете министров основные пункты дальнейшей политики. Этот совет министров состоялся 7 сентября. Наиболее важные пункты заключались в следующем:

1. Отвергнуть систему неравного вооружения, т. к. при таком положении государство, обладающее меньшим флотом, всегда будет иметь угрозу от более сильного.

2. Вместо ограничений, основанных на известном отношении сил, поставить конференцию разоружений на принцип общего максимума тоннажа.

3. Стремиться к созданию такого положения, когда ни одно государство не смогло бы напасть на другое, но в то же время каждое из них имело достаточно сил для обеспечения обороны. Этот принцип предусматривает ограничение единиц нападательной войны, но не орудий защиты.

4. Для Японии необходимо отказаться от невыгодных договоров, напр. Вашингтонского и Лондонского.

На предварительных Лондонских переговорах в качестве представителей Японии выступали посол в Англию, г. Мацудайра, посол во Францию, г. Сато, адм. Ямамото и его помощник лейтенант Мицунобе. 1-е сношение состоялось 24 октября прошлого года.

Из дальнейших переговоров выяснилось, что основное направление стремлений Англии и США коренным образом различаются с твердо установленными принципами Японии. Согласно плана, утвержденного на совете министров 7-го сентября 1934 года,

правительство твердо решило отказаться от невыгодных обязательств Вашингтонского соглашения. Срок и пути уничтожения были предоставлены на усмотрение министра иностранных дел г. Хирота.

27 ноября мининдел Хирота имел свидание с послами Италии и Франции и пригласил эти страны для участия на совместной конференции по морским разоружениям. Последовал отказ французского правительства (1-го декабря прошлого года) и то же со стороны Италии (4-го декабря).

Г-н Хирота нашел нужным предложить экстренный созыв парламента и ряд спешных совещаний кабинета министров. Решением кабинета министров предоставили возникший вопрос на рассмотрение Тайного совета, который 11-го декабря созвал комиссию исследования, а общее собрание своих членов 19-го декабря. Последовало подтверждение решений кабинета министров.

Через посла Японии в США, г. Сайто, передали американскому правительству об отказе Японии от участия в Вашингтонском морском соглашении, что имело место 29-го декабря. Одновременно министерство иностранных дел опубликовало решение японского правительства воздерживаться от увеличения морских сил и его желание кооперировать с прочими державами для заключения нового соглашения. Посол Сайто в тот же день опубликовал это заявление и в США.

3. Конец Предварительного Совещания в Лондоне.

Совместной декларацией 3-х участников — Японии, Англии и США, — предварительные переговоры в Лондоне были закончены 19 декабря 1934 года, причем все стороны выразили желания видеть вопрос надлежащим образом разрешенным не позднее, чем через 2 года.

4. Переуступка прав СССР на б. Северо-Маньчжурскую Железную Дорогу (КВжд).

Сношения о переуступке советских прав на СМжд, которые начались в июне 1933 г., благополучно были завершены 23 марта 1935 года. Подписание договора и протокола было совершено в резиденции министра иностранных дел в присутствии уполномоченного правительством как посредника советской и маньчжурской сторон, г. Хирота, маньчжурского представителя г. Дын-Ши-юан и советского полпреда г. Юренева.

5. Приезд Императора Маньчжу-Ди-Го в Японию.

В апреле 1935 года Е. В. Император Маньчжу-Ди-Го посетил Японию, чем окончательно укрепил дружественные отношения обоих государств.

Приезд Императора другой державы в Японию является беспрецедентным. Церемония встречи Державного гостя отличалась большой пышностью и торжественностью.

Народы Японии и Маньчжу-ДиГо праздновали это историческое событие, характеризующее дружественные узы между этими странами.

6. Возведение в ранг Посольств Миссий Маньчжу-Ди-Го и Китая.

Одновременно с признанием Японией государства Маньчжу-Ди-Го, Япония назначила в Синьцзин своего посла, а Маньчжу-Ди-Го прислала посланника.

21 мая 1935 года маньчжурское правительство предложило возвести свою миссию

Южноокеанские острова 78
1. Список генерал-губернаторов 78
2. Население 79
3. Промышленность 79
4. Торговля 79

ЧАСТЬ 3. МАНЬЧЖУ-ДИ-ГО.

1. Общий обзор 80
2. Территория и население 80
3. Иностранное население 81
4. Образование 81
5. Армия и флот 82
6. Управление страной 82
7. Дипломатические отношения с заграницей 82
8. Экономика и финансы 83
9. Иностранные капиталовложения 84
10. Главнейшие Японо-Маньчжурские предприятия 86
11. Внешняя торговля 86
12. Торговля с различными странами 86
13. Стоимость важнейших товаров, экспортированных в 1934 году 87
14. Стоимость важнейших товаров, импортированных в 1934 году 87
15. Международные расчеты 88

Ежегодник Японо-Советских отношений.

ЧАСТЬ I. ЯПОНИЯ.

Общий очерк дипломатии Японии в 1935 г.

В июле 1934 года, после отставки кабинета Сайто, был созван кабинет Окада, причем министр иностранных дел, г. Хирота, военный министр, г. Хаяси, и морской министр, г. Осуми, остались на своих постах, которые они возглавляли в предшествовавшем кабинете.

Основная политика Японии была весьма ясно выражена указом Е. В. Императора Японии, опубликованным в марте 1933 года. В отношении дипломатии и отношений нашей страны к прочим державам мира, руководящие принципы были подробно выявлены в речах министра иностранных дел, г. Хирота, на 66-й сессии парламента в ноябре 1934 г. и на 67-й, состоявшейся 22 января 1935 года. Министр рекомендовал следовать пути согласованной деятельности с остальными странами, установлению морских разоружений между морскими державами, особенно в отделе боевых единиц, имеющих наступательную мощность, и в общем стремиться к поддержанию и обеспечению мира.

Было выражено пожелание, чтобы СССР эвакуировал значительные военные силы с Дальнего Востока, чтобы народ и правительство Китая упрочили спокойствие на своей территории, что, в совокупности, должно в значительной степени закрепить мир стран Восточной Азии.

Вредное влияние Европы и Северной Америки по отношению Китая, направленное против успокоения этой страны, согласно рекомендации г. Хирота, следует полностью уничтожить.

Общее мирное направление политики министра Хирота может быть характеризовано его ответом на запрос депутата парламента, г. К. Асида, когда министр заявил, что „покуда он, т. е. г. Хирота, находится на посту миниидела Японии — войны не будет". Такое заявление приветствовалось всеми политическими группировками Японии.

1. Выход Японской Империи из состава Лиги Наций.

Прошло 2 года с того момента, когда на основании 3-го пункта 1-го параграфа Устава Лиги Наций, Японская Империя подала заявление о выходе из состава членов, а 27 марта текущего года состоялся формальный выход Японии из Лиги Наций.

Тем не менее, начальник бюро информаций при министерстве иностранных дел опубликовал истинное направление Японского правительства, указав на то, что оно будет стремиться к своим целям — миру — несмотря на выход из Лиги, и что для достижения спокойствия всех стран Япония будет всячески помогать Лиге Наций. Это заявление было обнародовано 11 марта 1935.

Генеральный консул Японии в Женеве тоже сделал оффициальные заявления, заключающиеся в том, что Японии по-прежнему признает значение Лиги Наций как

Экономическое положение Японии 14
1. Финансы 15
2. Бюджет различных министерств 16
3. Статистические данные богатств Японии 16

Армия 17
1. Воздушный флот армии 18
2. Морская авиация 18
3. Общество резервистов Японской армии 19

Женские организации.
1. Патриотическое общество 19
2. Всеяпонское общество 19
3. Женское общество офицерских семей 19

Снабжение сырими продуктами на случай войны 20
Народное образование 20
1. Академия наук 21
2. Литературное общество 22
3. Экспериментальные станции 22
4. Научный совещательный орган 22
5. Профессура Японии 23
6. Книги, журналы, газеты 23
7. Библиотеки 24
8. Общественные организации 24
9. Приюты 25
10. Медицинские и прочие учреждения 25
11. Учреждения общественной помощи 25
12. Помощь безработным 25
13. Прочие 25

Труд 26

Посольства, миссии и консульства иностранных государств в Японии 26

Дипломатические представительства японской Империи заграницей 31
Общий обзор крупных городов Японии 33
1. Токио 33
2. Осака 34
Внешняя торговля 34
Японо-Советская торговля 43
Народное хозяйство 45
1. Земледелие 45
2. Водная продукция 48
3. Горнопромышленность 49
4. Индустрия 50
5. Пути сообщения 57

Литература, театр, кино 63
1. Литература 63
2. Театр 64
3. Кино 64

ЧАСТЬ 2. КОЛОНИИ ЯПОНСКОЙ ИМПЕРИИ.

Корея 67
1. Краткий физический обзор 67
2. Население 67
3. Список генерал-губернаторов Кореи 67
4. Народное образование 68
5. Продукция промышленности и земледелия 69
6. Правительственные монополи 70
7. Экспорт-импорт 71

Формоза 71
1. Список генерал-губернаторов 71
2. Области и округи о. Формозы 72
3. Население острова 72
4. Учебные заведения 73
5. Правительственные монополи 73
6. Крестьянская продукция 74
7. Промышленность 74
8. Торговля 74

Сахалин 75
1. Список губернаторов 75
2. Туземное население 75
3. Образование 75
4. Промышленность 76
5. Внешняя торговля 76

Квантунгская область 76
1. Список губернаторов 76
2. Реформы административных органов 77
3. Учебные заведения 77
4. Монополии 77
5. Таможенные законоположения 77
6. Главнейшие отраслии промышленности 78
7. Внешняя торговля 78

ОГЛАВЛЕНИЕ.

ЧАСТЬ 1. ЯПОНИЯ.

Общий очерк дипломатии Японии в 1935 год 1

1. Выход Японской Империи из состава Лиги Наций 1
2. Уничтожение Вашингтонского морского соглашения 2
3. Конец предварительного совещания в Лондоне 3
4. Переуступка прав СССР на б. Северо-Маньчжурскую железную дорогу (КВжд) 3
5. Приезд Императора Маньчжу-Ди-Го в Японию 3
6. Возведение в ранг посольства миссий Маньчжу-Ди-Го и Китая 3
7. Ратификация японо-голландского мирного договора 4
8. Пограничная комиссия Японии, Маньчжу-Ди-Го и СССР... 4
9. События в Северном Китае 4
10. Пересмотр японо-советской рыболовной конвенции... 5
11. Трехлетие признания Японией государства Маньчжу-Ди-Го 5
12. Япония наблюдает за истало-абиссинским конфликтом 6

Политическая жизнь страны 6

1. Реформы в Маньчжу-Ди-Го 7
2. Установление солидарности партий Минсейто и Сейюкай 8
3. Увеличение подоходного налога 8
4. Экстраординарная сессия парламента 9
5. Предупреждение о возможности конкуренции в строительстве военных судов 9
6. О тенденции увеличения военных расходов 9
7. Нашумевший термин „Император—высший институт японского государства“ 9
8. Утверждение бджета на 1935 финансовый год... 10
9. За дисциплинированное проведение перевыборов 10
10. Учреждение постоянного совета при кабинете министров 11
11. Чистка Токио от шантажистов и вымогателей 11
12. Движение партии Сейюкай против некоторых государственных деятелей... 11
13. Назначение на пост начальника военных училищ 11
14. Переназначение президента ЮМжд 12
15. Убийство начальника военного департамента при военном министерстве генерала Нагата 12
16. Решение военного министра о установлении дисциплины армии 12
17. Генерал Кавасима — новый военный министр 13

Парламент японской Империи 13

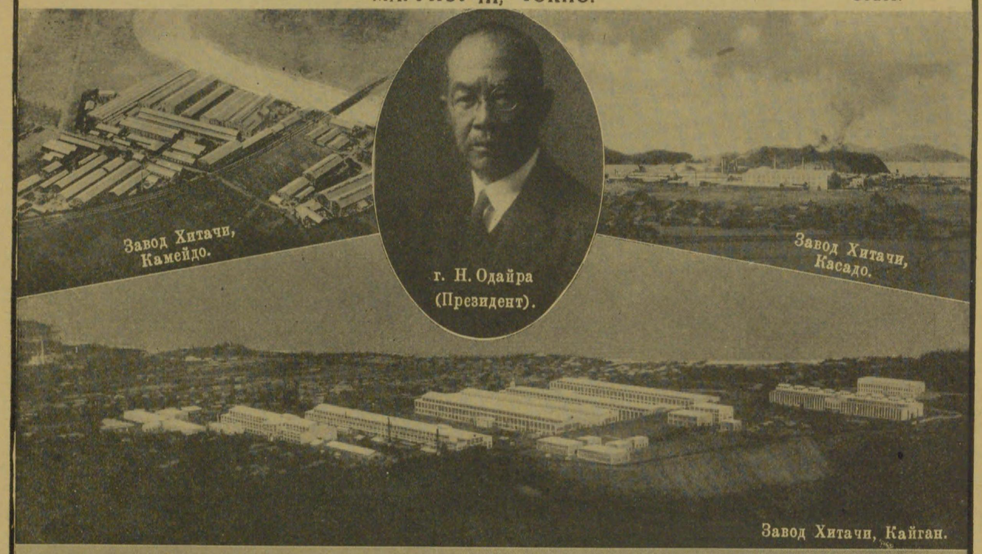
1. Сессии парламента 13
2. Состав Верхней палаты 14
3. Состав Нижней палаты 14

Референции банков:
Иокогама Спеси,
Нэйшеналь Сити
Банк оф Нью Йорк.

Hitachi, Ltd.

Телеграфный адрес: "HITACHY TOKYO"
Коды:
A.B.C. 6th Ed. and Bentley's Comp. ph., Oriental 3 Letter, Beama Cable Codes.

АКЦИОНЕРНОЕ ОБЩЕСТВО „ХИТАЧИ"
МАРУНОУЧИ, ТОКИО.



Капитал: 45.000.000 иен. Число служащих: 17.000 чел.
Площадь заводов: 1.350.000 кв. метров.

Продукты производства: Электрическое и механическое оборудование для гидро пароэлектростанций, равно как и для подстанций, паротурбины, гидротурбины, генераторы, моторы, трансформаторы, распределительные доски. Насосы, компрессоры, центробежные вентиляторы и т. д. Под'емные краны, элеваторы, лебедки. Локомотивы паровые, электрические, газолиновые и дизельмоторные и все потребное для них оборудование. Медные провода голые, изолированные, покрытые шелком, эмаллированные и прочие.
Товары на складах: Настольные вентилляторы, электропомпы, под'емные машины, индуктивные моторы, распределительные трансформаторы, сирены, электросварочные приборы, вольтметры, амметры, проверочные приспособления изоляции и т. д.

ПРЕДИСЛОВИЕ.

Издательский отдел телеграфного агентства НИЧИРО-ЦУСИН уже в течении 8 лет ежегодно выпускает сборник статей, статистических таблиц и прочей разнородной информации отношений между Японией, Маньчжу-Ди-Го и СССР.

„ЕЖЕГОДНИК ЯПОНО-СОВЕТСКИХ ОТНОШЕНИЙ" 1936 года содержит в японской части подробный ход событий и отношений между Японией, Маньчжу-Ди-Го и СССР.

Русская часть ежегодника знакомит читателя с действительностью Японии и молодого государства Маньчжу-Ди-Го.

Общеизвестно, что взаимопонимание стран является мощным стимулом для развития дружеских отношений и нормальной торговли.

Цель настоящего издания заключается в предоставлении максимума точной информации читателям Японии и СССР, способствующей достижению столь желательного взаимопонимания.

Ноябрь 1935 г. **Ничиро-Цусин-Ша.**

ТОРГОРАЯ МАРКА

THE YOKOHAMA NURSERY Co., Ltd.

АКЦИОНЕРНОЕ ОБЩЕСТВО
ИОКОГАМСКИЙ ПИТОМНИК САДОВОДСТВА и ЦВЕТОВОДСТВА.

21-35 Накамура-чо, Нака-ку, Иокогама, Япония.
Существует с 1890 года. Почтовый ящик № 72.

ЧЛЕН Ф. Т. Д.

Отделения:

в Нью Йорке: Нью Йоркский Центральный Бильдинг, Нью Йорк, Америка.
в Лондоне: Гравен Хаус, Кингсуэй, Лондон, В. К., Англия.
в Шанхае: Карлон Бильдинг, 50 Баблик Уэл Род. Шанхай.

Телеграфный адрес: **Уэкигуми, Иокогама.**
Сузуки, Нью Йорк. **Тигринум, Лондон.**

Code Used:

A. B. C. 5th Improved, 6th Edition,
Westru Union Five Letter, Bentley's.

Самый крупный экспортер семян разных цветов и овощей, принадлежностей садоводства и средств для уничтожения вредных насекомых. Агрикультура. Цветочные украшения.

Каталог на английском языке высылается
по первому требованию.

ТОРГОВАЯ МАРКА

Акц. О-во ТАКАТА ШОКАЙ

Токио, Кодзимачи-ку, Маруноучи, 2-чоме, № 6, здание „Яэсу".
Телефон: (23) 1321—5, 2457—9

ЭКСПОРТ — ИМПОРТ

Продажа электромоторов, динамо и прочих машин электропромышленности; механического оборудования текстильных фабрик; различных моторов; железнодорожного оборудования; машин строительства; оборудования химических лабораторий; измерительных приборов; металлических и прочих материалов; европейской бумаги и бумагоделательного сырья; приборов и оборудования центрального отопления, охлаждения и санитарных установок.

Составление планов и прием подрядов на всевозможные строительные работы.

Отделение в Осака: № 20 Наканосима 2-чоме, Кита-ку, Осака.
Агентства: Нагоя, Модзи, Отару, Куре, Кобе, Майдзуру, Сасехо, Тоиохара, Мукден, Синьцзин, Иокосука, Токуяма, Нагасаки, Сендай, Тайхоку, Лондон, Нью Йорк, Гамбург, Дайрен, Шанхай.

株式會社高田商會

東京市麹町區丸ノ內二丁目六番地八重洲ビル
電話丸ノ內 (23) 1321—5, 2457—9

營業種目
一般輸出入貿易業
原動機、鐵道及土木機械
金屬諸材料及其他諸原料
煖房冷房換氣衞生諸裝置
電氣・化學・紡織及工作機械
精密機械及度量衡計量器
各種洋紙類及製紙原料
各種工事ノ設計及請負業

大阪支店 大阪市北區中之島二丁目二〇番地

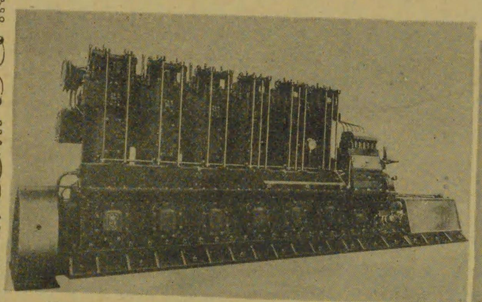
其他支店・出張所・代理店
名古屋、門司、小樽、吳、神戶、舞鶴、佐世保、豊原、奉天、新京、橫須賀、德山、長崎、仙台、台北、倫敦、紐育、渓堡、大連、上海、

ТОРГОВАЯ HS МАРКА

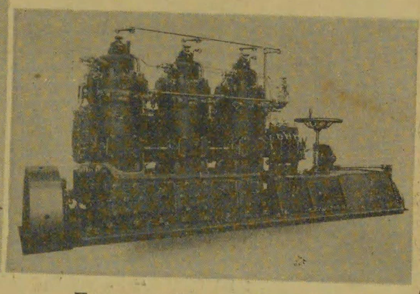
"HANSHIN"

ДИЗЕЛЬМОТОРЫ СИСТЕМЫ „ХАНЬШИН"

Производство и продажа дизельмоторов, полудизелей различных величин и мощности типа безвоздушного и непосредственного инжектора.



Дизельмотор для рыболовных судов, поставляемый в СССР в качестве товарных выплат за КВжд, 270 л. с.



Полудизель 150 л. с. для дозорного судна.

Акц. О-во
Ханьшин Текко-Шо

Правление: Ичибан-чо 3-чоме, Хаясида-ку, Кобе.
Телефон: Минатогава (5) 1531—1534.
Отделение: Здание „Маруноучи", 6-й этаж, Токио.
Телефон: (23) 3041.

株式會社 **阪神鐵工所**

本店 神戸市林田區一番町三丁目
電話湊川 (5) 1531—1534.

出張所 東京市丸之內丸ビル六階
電話丸之內 (23) 3041.

Производство:

Распределительные доски и автоматические контрольные системы.
Масляные прерыватели, выключатели.
Масляные и воздушные прерыватели тока.
Рубильники.
Пробки высокого напряжения, закрытые пробки.
Регуляторы напряжения.
Электрические печи.
Показатели уровня воды.
Метры - счетчики для газа, воды или пара.
Аппараты очистки, охлаждения и сушки воздуха.
Сигнализация железных дорог.

МЕХАНИЧЕСКИЙ ЗАВОД О-ВА
ХИРОСАВА и КО.

МЕХАНИЧЕСКИЕ И ЭЛЕКТРИЧЕСКИЕ ПРИБОРЫ.

Главная контора и завод:
№ 4, Минато-чо 3-чоме, Киобаси ку, Токио.

Дополнительные заводы:
Ои-Хаяси-чо, Сибаура, Азабу, Сугамо и Цукисима.

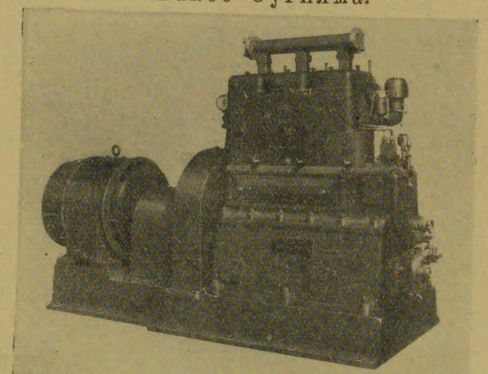
Агентства:
Дайрен, Осака, Иокосука, Куре, Сасебо, Майдзуру, Фукуока и Модзи.

合名會社 **杉山商店**

本店 大阪市西區立賣堀南通二丁目
支店 東京、神戸、名古屋、臺北、京城、大連

ГОМЕЙКАЙША СУГИЯМА ШОТЕН

Правление: Итачибори Минами-дори 2-чоме, Ниси-ку, Осака.
Отделение: Токио, Кобе, Нагоя, Тайхоку, Сеул, Дайрен.
Основной капитал: 1.000.000,00 иен.
Представитель: г. Такео Сугияма.



Кубота Текко-Шо: Мотор прямого тока

Фирма является единственным представителем следующих заводов:

Акц. О-во Кубота Текко-Шо: Дизель-моторы (стационарные и морские), керосиновые моторы, чугунные трубы и т. д.

Акц. О-во Торисима Помпу: Насосы для горного дела, агрикультуры и механическо строительных целей.

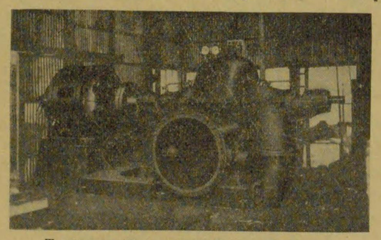
Акц. О-во Тейкоку Сейбио: Электромоторы, болты и заклепки для жел.-дор. дела, станки искусственного шелка.

Акц. О-во Михара Дзосен-Джо: Различных типов стальные и деревянные суда до 2.000 тонн водоизмещением.

Акц. О-во Окадзима Текко-Шо: Кузнечное оборулование и выкованные подящим молотом продукты (Drop-Forgings).

Акц. О-во Хаяказа Кинзоку: Радио-оборудование всех систем, радио-части, громкоговорители.

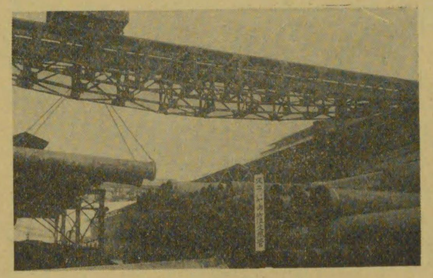
Акц. О-во Мори Сейсаку-Шо: Измерительные машины.



Торисима Помпу и Тейкоку Сейбио: Насосы и моторы.

工場	製品
久保田鐵工所	石油發動機,ディセル機關(陸船用)諸機關、鑄鐵管類
酉島製作所	各種喞筒
帝國製鉄株式會社	電動機、釘鉄類、人絹機械、其他
三原造船所	各種鋼船、木船
恩加島鐵工所	各種鍛造品
早川金屬研究所	各種ラヂオ强力擴聲裝置
森試驗機製作所	各種試驗機

„К. КУБОТА“



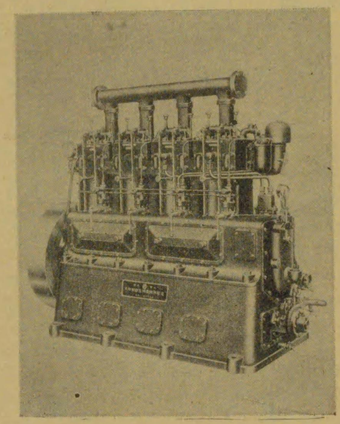
МЕХАНИЧЕСКИЙ ЗАВОД:

Чугунные трубы; арматура для водопроводов, газопроводов. канализации; различное литье, специальное тугоплавкое и кислотоупорное литье и т. д.

МАШИНОСТРОИТЕЛЬНЫЙ ЗАВОД:

Дизель моторы, керосиновые двигатели для устоновок на суше и судах; весы; экономай зер ы горючего; кочегарки; части котлов; краны для воды, пара и газа.

Судостроительная сталь; оборудование сахарных и бумагоделательных заводов; различные машины и станки.



Акц. О-во КУБОТА и Ко.

Механический и Машиностроительиый Заводы.

Телеграфный адрес:
"IRONKUBOTA"

Главная контора:
2-чоме, Фунаде-чо, Нанива-ку,
ОСАКА.

Codes:
A.I. & A.B.C. 5th & 6th Editions & Bentley's.

ТОРГОВАЯ US МАРКА

ЭКСПОРТНОЕ ПРЕДПРИЯТИЕ

Т. УЧИНО

ПРЕДМЕТЫ ТОРГОВЛИ:

Всевозможные машины и приборы, железные материалы, цветные металлы, лес, промышленно-химические материалы, препараты для очистки масла, каучук, чай и злаки.

Адрес:

Здание „Сакакибара“ № 4, Кобики-чо 4-чоме,
Киобаси-ку, Токио.

Телефон: (56) 0254, 3695, 5587, 7768

БАНОЧНАЯ ФАБРИКА

Нихон Сейкан К. К.

№ 20, Синхама-чо, Хакодате.

Телефон: №№ 3453, 3454 и 3878.

Полное доверие клиентов.

Предметы производства: банки разных видов для консервов, баночные машины и сборка машин.

日本製罐株式會社

函館市新濱町二十番地

電話 三四五三・三四五四・三八七八番

ОБУВНОЕ АКЦИОНЕРНОЕ О-ВО

„СТАНДАРТ“

(Основано в 1923 году).

Предприятие находится в ведении фирмы Осака Номура Гомей Кайша.

Оборудование фабрики, выпускаемый фабрикат и сбыт занимают первое место в Японии. Фабрика „Стандарт“ оборудована всемирно известными и наиболее совершенными машинами типа „Гудоя“, при помощи которых обувь снабжена особопрочным двойным швом. Фирма существует более десяти лет и имеет в составе своих сотрудников высококвалифицированных специалистов, ввиду чего продукция пользуется большим и вполне заслуженным доверием потребителя. Торговая сеть предприятия раскинута по всей Японии.

Главная контора и фабрика: Токио, Адачи-ку, Окино Мачи, 1160.
Телефон: Асакуса 6010, 3101.

Отделение: Токио, Нихонбаси ку, 1-чоме, Здание Номура.
Телефон: Нихонбаси 1425.

Состав Правления:

Главный директор ..... г. Т. Миязава.
(Он-же директор распорядитель кожевенного Акц. О-ва Мейдзи Сейсаку Кабусики Кайша).
Директор распорядитель ..... г. К. Исохата.
Члены правления ..... гг. И. Оказаки, Ж. Такаяма
Инспектор правления ..... г. Т. Озаки

Фабрика „Стандарт“ имеет большой опыт в изготовлении мужских сапог из кожи „юфть“, дамских полусапожек из кожи „бокс“ наилучшего качества и специально приспособленные для экспорта в СССР.

ТОРГОВАЯ МАРКА

СУДОСТРОИТЕЛЬНЫЕ ВЕРФИ

Акц. О-ва НИСИХАМА

Год основания: 1910.

Представитель: И. Нисимура.

Хакодате, Нисихама-мачи, № 1. Телефон 997.

ВЫПОЛНЕНИЕ и РЕМОНТ различного типа деревянных судов до 1.100 тонн, траулеров в пределах 90—160 тонн. Верфи Нисихама стали строить траулеры еще в 1906 году, когда все остальные идентичные предприятия Японии еще не освоили этой отрасли кораблестроения.

Товарищество ТАИЦУ ШОКАЙ

Судовые комиссионные операции и агентство

Главный Директор: г. Р. Мияо.

Главная контора: г. Кобе, Кобе-ку, Накамачи, 45.
Телеграфный адрес: "Taitsu".
Телефоны: Санномия №№ 35, 3457 и 3458.

Отделения: Токио, Маруноучи, Яесу билдинг, 4-й этаж
Телефоны: Маруноучи №№ 4761 и 4762.
Моджи, Хигаси-Хонмачи, 2-чоме.
Телефон: № 120.

Агентства: Сибаура, „Марураку Каисотен".
Телефон: Мита № 1213.
Хакодате, „Камигуми Госи Кайша".

НИЦИБЕИ ШОДЗИ ГОМЭЙ КАЙША

Американо-Японская Торговая Ко.

NICHIBEI SHOJI GOMEI KAISHA

(American-Japanese Commercial Co.)

ПРЕДСТАВИТЕЛЬ АМЕРИКАНСКИХ ЗАВОД И ФИРМ.

Полное оборудование:
рыбоконсервных и крабоконсервных береговых и плавучих заводов; нефтяных промыслов; лесопильных заводов; угольных шахт и золотых приисков.
Единственные представители для туковых заводов „РЕНЕНБУ Г" в Японии.

Поставка и установка:
моторов Фэбанкс-Моторс, Палмер и др. судовых двигателей—нефтяных, керосиновых газолиновых; электрических станций, всевозможных станционарных двигателей.

Дековильки и Тракторы.

Снабжение факторий, промыслов и кооперативов:
готовым платьем, робами, мануфактурными, галантерейными скобяными, москательными и бакалейными товарами.
Охотничьи ружья и припасы.
Корреспонденция на русском, английском и японском языках.

Главная Контора в г. Токио, Маруноучи, Кайджо бильдинг

Адрес: Nichibei Shoji-Gomei Kaisha Marunoychi, Kaijo Bld.
No. No. 1664-1665. Tokyo Japan.

Акц. О-во

К. ИСИКАВА и Ко.

3, 2-чоме Такара-чо, Киобаси, Токио.

Телеграфный адрес:
Все коды приняты.

Телефон: (56) 3607, 2765, 7395.

Изготовление и экспорт гальванизированной проволоки из мягкой стали, гальванизированных листов, стальной проволоки с высоким и низким содержанием углерода, гальванизированной колючей проволоки, блестящей железной проволоки, черной прокаленной проволоки из железа, медной протянутой проволоки, железных и стальных троссов, железных проволочных гвоздей, гальванизированных кровельных гвоздей, скобок, железных и медных шурупов, обручей из мягкой прокатанной стали, гальванизированных проволочных сеток, стальных бочек.

鋼鐵金物一般直輸出入商

合資會社 **石 川 商 店**

代表社員 石 川 久 次 郎
東京市京橋區寶町二丁目三番地
電話京橋(56) 2765, 3607, 7395
電信略號 {和文(ケイイシカワ) 歐文(NAILWIRE TOKYO)

Акционерное Общество

Ниппон Гиомо Сенгу Кайша

(РЫБОЛОВНЫЕ СЕТИ И КОРАБЕЛЬНОЕ СНАРЯЖЕНИЕ)

Поставка товаров Торгпредству СССР в Японии.

Правление: Симоносеки Ханано-чо № 32. Телефон 3320.

Отделения:
1. Токио Маруноучи, здание Маруноучи № 796. Телефон: Маруноучи 2840, 0880.
2. Осака, Кита-ку, здание Асахи № 718. Телефон: Хонкиоку 45.0.
3. Хакодате, Суехиро-чо № 103. Телефон: 1689.
4. Килун, Хама-чо № 53. Телефон: 765.
5. Тобата, Сиойсаки-чо № 24. Телефон: 531.
6. Сейсин, Мейдзи-мачи № 38. Телефон: 751.

ГЛАВНЫЕ ПРЕДМЕТЫ ПРОДАЖИ:

Рыболовные сети: краболовные, рыболовные (для лососевых, ювази, сельди и проч.)

Канаты и троссы: манильские, стальные различных диаметров.

Моторы: Дизель, полу-дизель для морских установок.

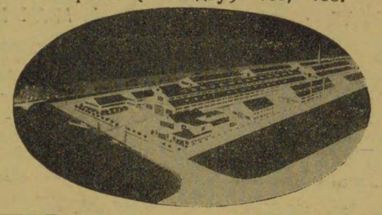
Брезент, пергаментная бумага, масляные краски, лак, нефтепродукты, прокладка, приводные ремни и т. д.

ДИЗЕЛЬМОТОРЫ СИСТЕМЫ ИТО

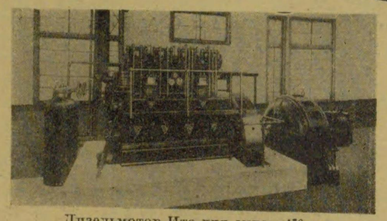
ДИЗЕЛЬМОТОРЫ СИСТЕМЫ ИТО.

Механический завод Ито
№ 139, Синкай, Симидзу, Япония.
Телефон: (Симидзу) 785, 788.

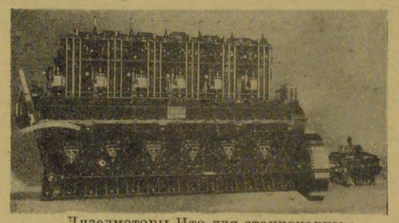
Дизельмоторы для стационарных и морских установок, типа без-воздушного инжектора.



Общий вид завода.



Дизельмотор Ито для судов, 450 л.с., типа М. Н.



Дизелмоторы Ито для стационарных установок, 150 л.с., типа ЛТ.

Наш завод выполняет первоклассные моторы и различные машины уже в течении 30 лет. В данное время предприятие специализируется на изготовлении различного назначения Дизельмоторов. Среди постоянных заказчиков отмечаем министерство землеса и военное министерство Японии.

СИМИДЗУ, ЯПОНИЯ.

ТОРГОВАЯ МАРКА

АКЦИОНЕРНОЕ ОБЩЕСТВО

Нихон-Семпаку-Денки

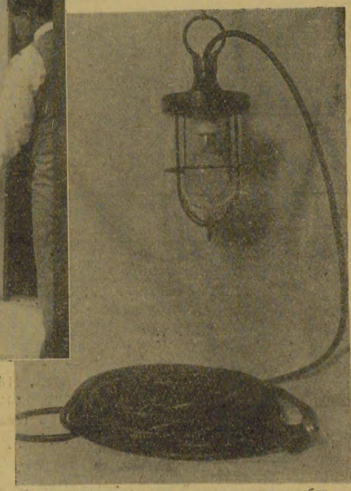
Токио, Канда, Суэхиро-чо, № 55. Телефон (83) 2720.

ПРОИЗВОДСТВО:

Электрического оборудования для судов, судовые электролампы и фонари, арматура для электрооборудования рыболовных судов, радиоаппаратов, телефонных и телеграфных комплектов, радиостанции приемки и отправки сообщений.

Прожектор на универсальной подставке.

Электробуй для рыболовных сетей.



Электрофонарь для привлечения рыбы.

ПРОИЗВОДСТВО РЫБОЛОВНЫХ СЕТЕЙ

„МИЭ СЕЙМО ГОСИ КАЙША“

Гор. Иоккайчи, Хама-мачи, преф. Миэ,

Прекрасное техническое оборудование наших заводов гарантирует наилучшее выполнение заказов в минимально короткое время.

Прием заказов на различные рыболовные сети и сетевязальные станки особо усовершенствованных систем.

„Амикан Сеймо Кабусики Кайша“

Томита, Исэ, префектура Миэ.

Основано в 1794 г. **Капитал 500.000 иен.**

Завод занимает площадь земли в 13.000 цубо. Установлено 700 станков для вязания сетей, не считая 350 машин особого назначения. 968 человек рабочих. Годовая продукция свыше 1.000.000 иен.

Рынки сбыта: Сахалин, Хоккайдо, Корея, Китай, Маньчжу-Ди-Го, СССР, Южноокеанские острова, Европейские страны и США.

ПРОДУКЦИЯ:

Пряжа для неводов и различных рыболовных сетей.
Невода, сети и проч. оборудование рыболовства.
Крученый шпагат, лески и проч. снасти.
Краска для неводов „Ка-чи“.

Станки для вязания сетей.
Запасные части станков.

Ремонт машин изготовляющих невода.

Агенты предприятия:

„Нихон Шодзи Кабусики Кайша“, Нагоя, Нака-ку, Оцу-мачи, здание „Киосай“.

ТОРГОВАЯ 西 МАРКА

СУДОСТРОИТЕЛЬНЫЕ ВЕРФИ ИСИНОМАКИ УНЬЮ ДЗОСЕН КАБУСИКИ КАЙША

Префектура Мияги, город Исиномаки.
Телефон: Исиномаки, 10, 520.
Основной капитал: 1.000.000 иен.
Площадь завода: 2.100 цубо.

Постройка деревянных и стальных судов различных конструкций и назначений. Ремонт корпуса судов, моторов, паровых машин и котлов.

Фирма занимается кораблестроением уже в течении 400 лет, выполняя заказы правительства Японии, губернских правлений, рыболовных компаний и частных лиц.

ТОРГОВАЯ МАРКА

АКЦИОНЕРНОЕ ОБЩЕСТВО
СИМИДЗУ БОЭКИ КАЙША

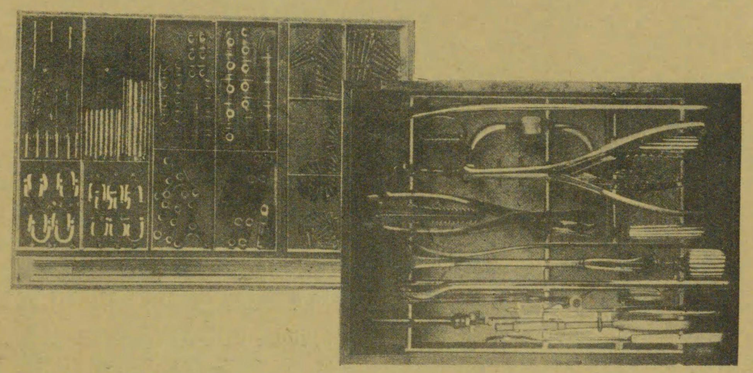
Главное правление: Токио, Синагава-ку, Минами Синагава 6, № 1514.
Телефон: Таканава №№ 2530, 3712, 4135.

Изготовление и продажа следующих товаров:

Машины для цветной и черной металлургии.
Инструменты. Железно-дорожные машины.
Суда. Электрическое оборудование.
Машины для химической промышленности.

Т. НОДА и КО.

ПРОИЗВОДСТВО И ПРОДАЖА МЕДИЦИНСКИХ, ХИРУРГИЧЕСКИХ И НАУЧНЫХ ПРИБОРОВ И ИНСТРУМЕНТОВ.



Комплект инструментов и приборов для исправления сломанных костей образца, принятого Военно-медицинской Академией.

Продукция фабрики Т. Нода и Ко. отличается безукоризненной точностью, высокосортностью материалов и обработки, прочностью и максимальной совершенностью всех без исключения приборов и инструментов.

Т. Нода и Ко. вяляется поставщиком многих правительственных учреждений и пользуется наилучшей репутацией, как в Японии, так и заграницей.

Фирма существует 50 лет и располагает кадрами специалистов среди инженерного и фабричного состава.

Отделение в Свньцзине принимает многочисленные заказы от правительства Маньчжу-Ди-Го.

Правление: Токио, Хонго-ку, Юшима-чо 4-чоме, № 13
Телефон: (85) 0578.

Фабрика: Токио, Аракава-ку, Ниппори-мачи 6-чоме, № 230.

ФАБРИКА РЫБОЛОВНЫХ СЕТЕЙ

Акц. О-ва ХИРАТА и КО.

Томисухара, Исе, Япония.

[Год основания 1866.]

Полностью выплаченный капитал 1.000,000.00 иен.
Запасный капитал 500,000.00 иен.

Продукция высокосортных рыболовных сетей
(2.000.000 кгр. в год)

и хлопчато-бумажной пряжи для неводов
(4.300.000 кгр. в год).

Производство станков для плетения неводов различных сортов и размера. Наиболее совершенные и испытанные модели всех технических единиц. Полная автоматизация.

БЫСТРОЕ И АККУРАТНОЕ ВЫПОЛНЕНИЕ ЗАКАЗОВ НА НЕВОДА И СТАНКИ.

Директор предприятия,

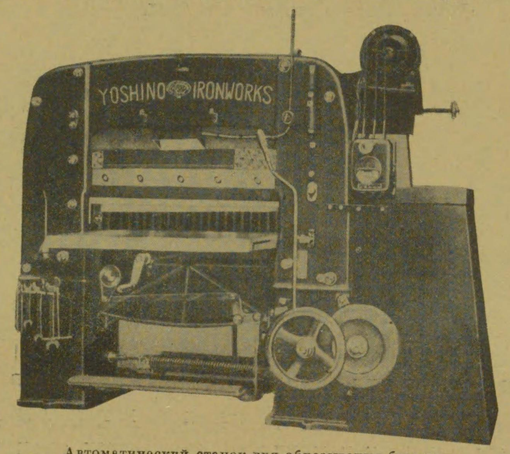
С. Хирата.

ТОРГОВАЯ МАРКА

„ИОСИНО ТЕККОДЖО“

Продукция лучших станков переплетного дела:

Станки для обреза. Механические точила.
Станки золототиснения. Перфораторы и сгибатели.
Машины для разборки листов. Различные переплетные станки.



Автоматический станок для обрезывания бумаги.

Лучшие печатные предприятия Японии, напр. редакция „Асахи“ в Токио, отказываются от каких бы то ни было других станков переплетного дела, всегда являясь нашими постоянными заказчиками.

Мы имеем прекрасные отзывы от типографии правительственных железных дорог Японии. Дирекция этой организации выразила удивление перед высокой степенью совершенства и мощностью продуктов фабрики Иосино.

Достижения нашей фабрики обязаны строгим принципам руководящих лиц:

1. Строгий подбор исключительно первоклассных материалов и деталей.
2. Наиболее тщательная обработка и проверка законченного продукта.
3. Постоянное усовершенствование типов и отдельных частей станков.
4. Оригинальные конструкции машин особого назначения, напр. Автоматического станка для обрезки бумаги, которые удивили своими качествами даже германских специалистов.

ТОРГОВАЯ МАРКА

Судостроительные верфи
К. УЧИДА

Оминато, префектура Миэ, Япония.

Телефон: Оминато № 23.

Выполнение судов различных величин и назначений, ремонт и переоборудование существующих.

Многолетняя практика судостроительства фирмы К. Учида гарантирует наиболее совершенную постройку в минимально короткое время, равно как и полное удовлетворение гг. заказчиков.

Фирма К. Учида уже много лет выполняет различные суда для правительства Японии, префектур страны, рыболовных и транспортных предприятий и частных лиц.

Торгпредство СССР является заказчиком рыболовных сейнеров и прочих кораблей на верфях К. Учида.

ТОРГОВАЯ 若人 МАРКА

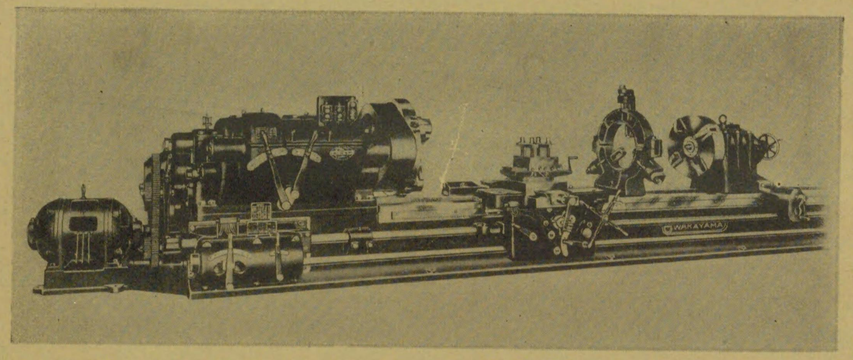
МАШИНОСТРОИТЕЛЬНЫЙ ЗАВОД

Осака Вакаяма и Ко.

Нагахаси-дори, 3-чоме, Нисинари-ку, Осака, Япония.

Телефон: Збису 4806, 4196.

Производство высококачественных металлообрабатывающих станков.



Токарный станок тяжелого веса системы „Вакаяма", 46″ × 25′, приводящийся в движение электромотором.

株 式 會 社

大阪若山鐵工所

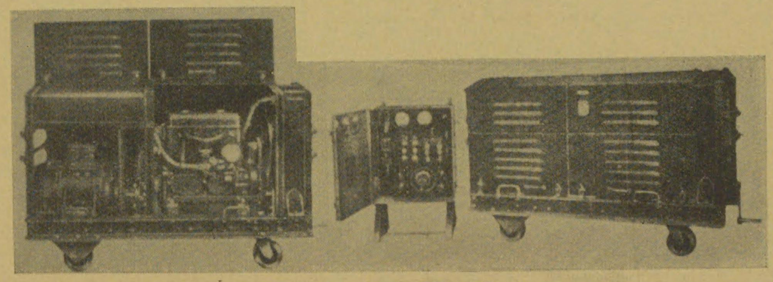
大阪市西成區長橋通ノ三丁目

電話 (76) 4806 • 4196

Акц. О-во

ТОМОНО ТЕККО-ШО.

Судовые моторы.
Стационарные моторы.
Генераторы для радиоустановок.
Силовые станции.
Воздушные компрессоры.



Подвижная электростанция, 6 квт.

Со времени учреждения фирмы Томоно Текко-Шо в 1912 г. предприятие продолжает специализироваться в изготовлении различных моторов, как для судов, так и для стационарных специальных установок. Немало похвальных листов было получено нашим предприятием, характеризующих прекрасную работу моторов всех систем и типов.

Семь лет тому назад заводы нашей фирмы приступили к производству воздушных компрессоров, снабженных самостоятельной силовой установкой, вспомогательных моторов различных назначений и т. п.

В числе наших клиентов можно указать следующие фирмы: Мицубиси Дзюкогио, Нийгата Текко-Шо, Иокогама Док, Асано Дзосен-Шо, Кавасаки Дзосен-Шо, равно как и казенные учреждения, включая военное и морское министерства.

Правление: Токио. Скба-ку, Цукими-чо, 2-чоме № 2.

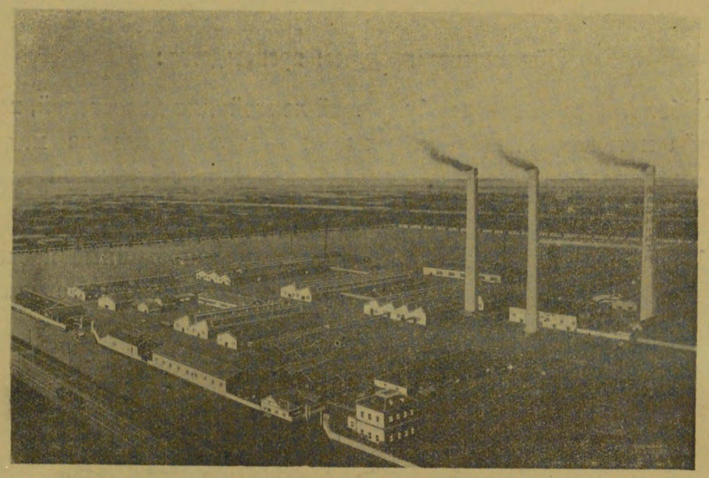
ТОРГОВАЯ МАРКА

Telegraphic Address:
"SEISENKO TOKYO"

Телеф Маруноучи (23) { 3491, 3492, 3493, 3494, 3495.

ТОКИО СЕЙСЕН КАБУСИКИ КАЙША

Фирма основана в 1912 году.



НЕИЗОЛИРОВАННЫЕ ПРОВОДА, медная проволока, медные жгуты, провода трамвайных систем, кремнистая бронза, кадмиевая бронза, фосфористая бронза и рельсовые присоединители.

ИЗОЛИРОВАННЫЕ ПРОВОДА и КАБЕЛИ, покрытые свинцом, изолированные резиной, „кэмбрик", и т. д. Осветительные провода, провода для электромагнитов, погодоупорные провода.

Главная контора: № 10, Маруноучи 3-чоме, Кодзимачи-ку, Токио.
Отделение: Здание „Ооой", № 9 Кинукаса-чо, Кита-ку, Осака.
Заводы: 1) № 65 Фурукава-дори, Кавасаки.
2) № 65 Фурукава-дори, Кавасаки.
3) № 1, Синкава-дори, Кавасаки.

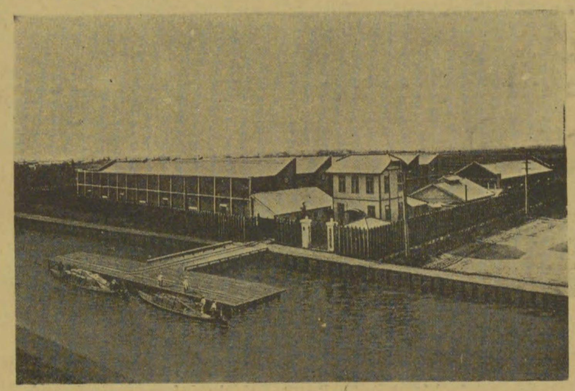
ТОРГОВАЯ МАРКА

АКЦИОНЕРНОЕ ОБЩЕСТВО
САСАМУРА СЕЙКО-ШО

КАНАТНЫЕ ЗАВОДЫ.

(Фирма зарегистрирована в Британском Ллойде).

Контора: Осака, Ниси-ку, Авабори-дори 5-чоме, № 29.
Завод: Осака, Имафуку-чо.
Отделение: О т а р у.



ПРОДУКЦИЯ:

Канаты манильские для пароходства, рыбопромышленности и т.д.

Манильский твайн, сети из манильского твайна.

Смоленые канаты.

Канаты и троссы из белого льна.

Проволочные канаты.

Хлопчато-бумажные канаты для баржей и проч.

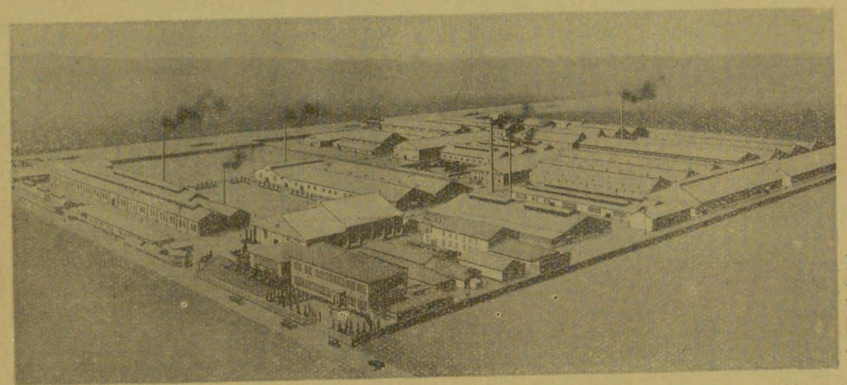
Различные веревки для упаковки.

Акционэрное Общество

Дайничи-Денсен Кабусики Кайша

Год основания фирмы: 1907.

ПРОИЗВОДСТВО и ПРОДАЖА=электрических проводов, кабелей, свинцовых изделей и эбонита.



Правление:

Токио, Кодзимачи-ку, Маруноучи 1-чоме
здание „Тейкоку. Сеймей".

Отделение:

Нагоя, Нака-ку, Ниси.

Агентства:

Сасебо, Куре, Майзуру, Иокосука Каназава, Сеул, Дайрен, Тайхоку, Такао, Мукден, Синьцзин, Харбин, Цицикар.

Акционерное Общество
НИХОН ДЕНСЕН

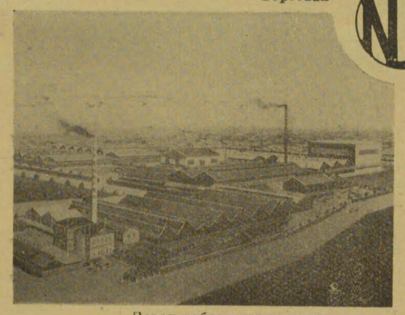
Правление: № 8 Терасима-чо 2-чоме, Мукодзима-ку, Токио.
Телефон: (74) 0250, 0251, 0332, 0835.
Год основания фирмы: 1897 г.

Главнейшие предметы производства:

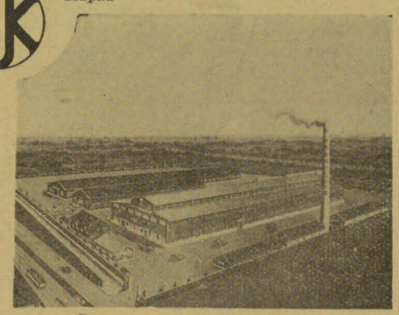
Кабели, изолированные бумажной лентой для двигателей, телеграфа и телефона, провода голые и изолированные из меди и алюминия, крученые с изоляцией из хлопчато-бумажной ткани, резины и т. д.

Проволока с изоляцией „Кэмбрик", эмаллированные провода, специально изоллированные провода, теплостойкие и портящиеся от масла.

Торговая Марка NDK



Завод кабеля и проводов, Кавасаки.



Главная контора и завод в Мукодзима-ку, Токио.

Распределители продукции: в Токио и Осака.
Заводы: Мукодзима-ку, Токио, и Кавасаки.
Агентства: Мицубиси Шодзи, Окура Шодзи в Токио.
Акц. О-во Сива Шокай, Дайрен.

Телеграфный адрес:
"FUKUELECO TOKYO"

Торговая Марка

Коды:
A.B.C. 5th & 6th Edition
Schofield's Bentleys,
Universal Trade Code,
Lieber's, Rudolf Mosse,
and Private Code.

ЭЛЕКТРОКМПАНИЯ ФУРУКАВА ДЕНКИ

Главная контора: Нихонбаси, Токио, Япония.
Капитал: 22.650.000 иен.
Год основания: 1896.

ПРОИЗВОДСТВО и ЭКСПОРТ:

Изолированных и голых электропроводов и кабелей; подводных и подземных кабелей с изоляцией из резины, бумаги, гуттаперчи; проводов для совещения, силовых установок, телефона и телеграфа; всех приспособлений и частей для проводов и кабелей.

Изготовление различных аппаратов связи, аккомуляторов и т. д.

Продукция различных металлических материалов: листы, полосы, трубы, круглая медь и ее сплавы, латунь, германское серебро, алюминий и его особые сплавы, листовой свинец и свинцовые трубы.

Штампы из меди, алюминия, латуни и легких сплавов.

Отделения фирмы:

Осака, Модзи, Нагоя, Саппоро, Сеул, Тайхоку, Дайрен, Синьцзин, Мукден, Харбин, Шанхай.

Заводы и лаборатории:

Главный завод (электропровода и кабели)	Иокогама.
Никко млдномеханический завод	Никко.
Осака „ „	Осака.
Амагасаки „ „	Амагасаки.
Киусиу (электропровода и кабели)	Кодзи.
Завод аккомуляторов „Осака“	Амагасаки.
Лаборатория Фурукава	Токио.

Президент: С. НАКАГАВА. **Управлений:** И. СУГИМОТО.

Телеграфный адрес:
"Tokyo
Fukagawa Fujiden"

Коды:
Bentley's
A.B.C. 4th & 5th.

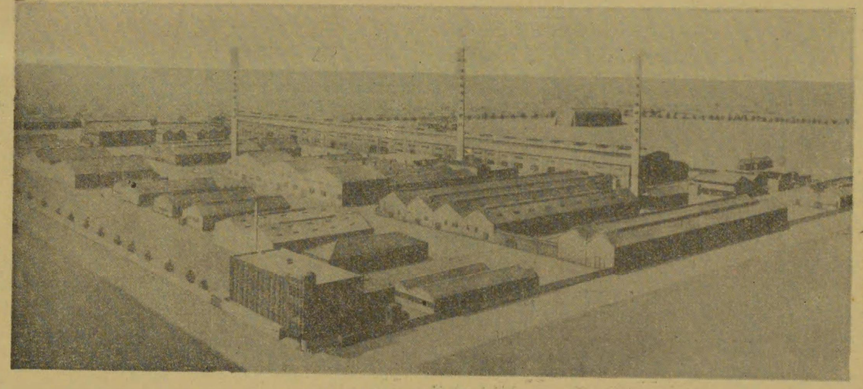
ЭЛЕКТРО-КАБЕЛЬНЫЙ ЗАВОД ФУДЗИКУРА

Главное правление: Фукагава, Токио.
Капитал: - - - - - - - 10.000.000
Основано в 1885 г.

ПРОИЗВОДСТВО и ЭКСПОРТ

ПРОВОДОВ И НЕИЗОЛИРОВАННЫХ КАБЕЛЕЙ из меди, бронзы, кадмиевой бронзы, приборы и присоединения и т. д.

ИЗОЛИРОВАННЫХ КАБЕЛЕЙ И ПРОВОДОВ, покрытых резиной, „кэмбрик“, гуттаперчей или бумагой типа SL, OF, H, и SO для высоких напряжений, телефонные телеграфные провода и приспособления.



Завод Фудзикура Денсен.

Отделение: Осака, фукуока, Нагоя, Дайрен, Шанхай.

Агентства: Мицуи Буссан Кайша

Дайрен, Мукден, Синьцзин, Харбин, Тяньцзин, Циндао,
Шанхай, Ханькоу, Кантон, Амой, Гонконг, Манила,
Банкок, Соробая, Самаранг, Батавия, Суматра, Медан,
Бомбей, Карачи, Калькутта.

TRADE MARK

SUMITOMO

ELECTRIC WIRE & CABLE WORKS, LIMITED.

WORKS & OFFICE: 60 Okijima Minamino-cho, Konohana-ku, Osaka, Japan.

TELEGRAPHIC ADDRESS: "Cableworks".

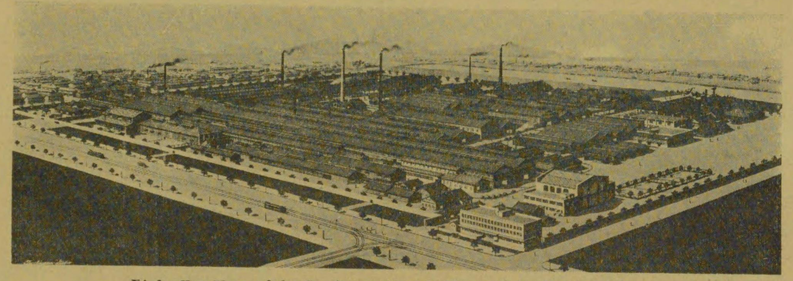
CODE USED: Bentley's Complete Phrase; A.B.C. 5th Edition; Acme; Bentley's Second Phrase; Schoffield Electric; etc.

ESTABLISHED in 1897. **CAPITAL** ¥15,000,000.

PRODUCTS: Electric wires, cables and their accessories.

SALES OFFICES: Tokyo, Sapporo, Sendai, Yokosuka, Kure, Nagoya, Kobe, Hakata, Shanghai, Keijo, Maizuru, Nagasaki, Saseho.

AGENTS: Dairen, Taihoku, Kanazawa.



Bird's Eye View of the Sumitomo Electric Wire and Cable Works, Ltd.
Общий вид завода электропроводов и кабелей фирмы Сумитомо.

АКЦ. О-ВО СУМИТОМО

ЗАВОД ЭЛЕКТРОПРОВОДОВ И КАБЕЛЕЙ.

Главная Контора и Завод: 60, Окидзима, Минами-чо, Конохана-ку, Осака.

Телеграфный адрес: "Cableworks".

Коды: Bentley's Complete Phrase; A.B.C. 5th Edition; Acme; Bentley's Second Phrase; Schoffield Electric, etc.

Основание Фирмы: 1897 год. **Капитал:** 15.000.000 иен.

Производство электропроводов, кабелей и оборудования.

Конторы в Токио, Саппоро, Сендай, Иокосука, Куре, Нагоя, Кобе, Хаката, Шанхае, Сеуле, Майзуру, Нагасаки, Сасехо.

Агентства в Дайрене, Тайхоку, Каназава.

ТОРГОВАЯ МАРКА

Акц. О-во СУМИТОМО

ЛИТЕЙНЫЕ И МЕХАНИЧЕСКИЕ ЗАВОДЫ.

Об'единенное предприятие меднолитейных, сталелитейных, рельсопрокатных и прочих заводов.

Медно-Механический Завод

№ 56, Симая-чо, Конохана-ку, Осака.

Производство высокосортного медного проката, листовой и прессованной меди, медных труб и т. д.

Сплавы меди и легких металлов, латунь, бронза, дюралюминий.

Сталелитейный и Механический Завод.

№ 249, Ясима-чо, Конохана-ку, Осака.

Рельсопрокатный цех, производство вагонных скатов и прочих деталей железно-дорожного оборудования и подвижного состава.

Всевозможное чугунное и стальное литье, кузнечно-механическая обработка. Высокосортная и специальная сталь.

Завод Стальных Труб.

№ 28, Микосима-чо, гор. Амагасаки.

Стальные, цельнотянутые трубы (горячий и холодный процесс).
Газовые и прочие трубы. Трубопроводы высокого давления.
Прочие металлические пресованные изделия

Правление: Симая-чо Конохана-ку, Осака.

住友金屬工業株式會社

住友伸銅鋼管株式會社
株式會社住友製鋼所 合併

伸銅所　大阪市此花區島屋町56
一般伸銅品（板、管、棒壓搾加工品等）
輕合金（デユラルミン、マグネシウム合金其他）

製鋼所　大阪市此花區島屋町249
鐵道及軌道用車輪、車軸、外輪等
一般鑄鐵品、鑄鋼品、鍛鋼品、特殊鋼等

鋼管製造所　兵庫縣尼崎市東向島西之町28
鋼管（冷間引拔及熱間仕上繼目無）
瓦斯管、各種壓縮瓦斯容器等

營業所（本店）
大阪市此花區島屋町五十六番地

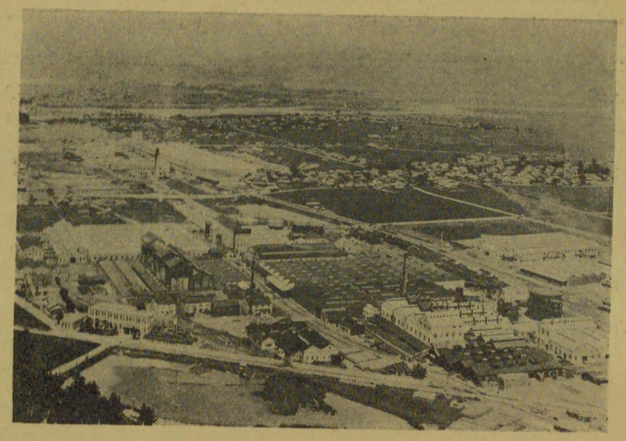
АСАХИ БЕМБЕРГ КЕНШИ

КАБУСИКИ КАЙША.

Осака, Япония. Телеграфный адрес: „Бемберг“, Осака.

Основной капитал 46.000.000 иен.

Фабрики „Бемберг“ и пряжи „Вискос“.



Фабрика „Бемберг“.

Торговая марка „БЕМБЕРГ“.

ПРОИЗВОДСТВО.

Торговая марка „ВИСКОС“.

„Бемберг“ (шелк)
Дениер 40, 60, 75, 100, 120, 150.

„Матеса“ (жемчужный мат)
Дениер 40, 60, 75, 100, 120, 150.

„Асахи-Мулти“
Дениер 100, 120, 150.

„Асахи“ матовый блеск-мулти
Дениер 120, 150.

„Асахи-Кензай“ (обыкновенный)
Дениер 120, 150.

„Асахи-Фибра“ (вискос)
Дениер различных сортов и длины.

ТОРГОВАЯ МАРКА

Окура Шодзи Кабусики Кайша

ТОРГОВОЕ АКЦИОНЕРНОЕ О-ВО „ОКУРА“.

Правление: г. Токио, Киобаси, Гинза 2 чоме.
Телегарафн. адрес: „ОКУРА“.

ИМПОРТ, ЭКСПОРТ, ФАБРИЧНОЕ ПРОИЗВОДСТВО, КОМИССИОННАЯ ПРОДАЖА, ТОРГОВЫЕ ПРЕДСТАВИТЕЛЬСТВА.

Отделения и агентства:

Осака, Нагоя, Иокосука, Куре, Сасехо, Майдзуру, Иокогама, Кобе, Модзи, Тайхоку, Кейджо. Мукден, Синьцзин, Харбин, Дайрен, Ханькоу, Циндао, Шанхай, Тяньцзин, Сидней, Мельбурн, Нью-Йорк, Лондон, Берлин, Париж.

大倉商事株式會社

營業科目 { 問屋業。 代理業。 物品販賣業。 仲立業
製造加工業。 運送業。 工事請負業。 其他

本店 東京市京橋區銀座二丁目

支店及出張所 { 大阪、 横須賀、 呉、 佐世保、 舞鶴、 横濱、 名古屋、
神戸、 門司、 吉北、 京城、 奉天、 新京、 哈爾賓、
大連、 渓口、 青島、 上海、 天津、 シドニー、 メルボルン、
紐育、 倫敦、 伯林、 巴里、

2k-2
-64

Регистров. Завод. марка

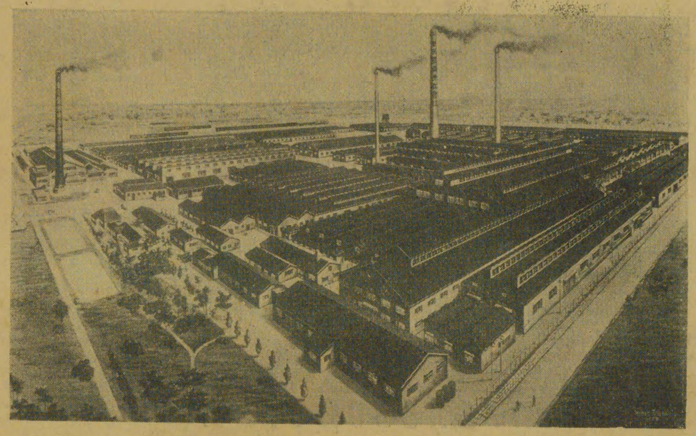
Учреждено в 1887 г. Основ. кап. Иен 10,500.000.

Утвержденно Ллойдск. Мореходн. Обществом
Канатный завод

„ТОКИО СЕЙКО КАЙША“

Главное правление: Токио.
Заводы: Токио, Кобе и Кокура.

Тросы: стальной, манильский, пеньковый, смоленный и хлопчато-бумажный.
Сноповязальный шпагат, манильское иваито и твайн, железная и стальная проволока.



Единственное представительство заводов для СССР,
Северной Маньчжурии, Кореи и Агентство внутри Японии

Тел. Гинза 4187
4188
4189

ИМПОРТНО-ЭКСПОРТНАЯ КОНТОРА
АКЦ. О-ВО
ЯСАКА ШОДЗИ КАЙША

Телегр. код:
“АВС” 5-го издания
и „Бентлей“.

№ 3, Гинза 6 чоме, Токио.

Эксплоатация: Завод Нихон Лайто, производства “Bake Lite” для изоляционной и других целей.

Завод Акц. О-ва Осака Коруку Кайша, производство пробковых пластинок для изоляционной цели и прокладок.

ЕЖЕГОДНИК ЯПОНО-СОВЕТСКИХ ОТНОШЕНИЙ

1936

НИЧИРО-ЦУСИН-ША